ミカヅキゼニゴケ *Lunularia cruciata* (L.) Dumort. ex Lindb.

【概要と選定理由】

葉状体のコケ植物で，現在日本に産する苔類の帰化種のうちの 1 種として知られている。特に大きな環境影響が生じているわけではないが，コケ植物の移入種の代表例として状況を記述した。

【形　態】

植物体は葉状で黄緑～青緑色，地表面を匍匐して群落を作る。 形状はゼニゴケなどによく似て，長さ 2～5 cm，幅約 1 cm。雌雄異株。葉状体の先端近くの表面（背面）に三日月形をした無性芽器ができ，その中に両辺が少しくぼんだ楕円形の無性芽を生じる。無性芽は水に流されて拡散する。

【分布の概要】

【世界の分布】

熱帯，亜熱帯地域を除いた全世界に広く分布する。

【国内の分布】

岩手，宮城，茨木，東京，千葉，神奈川，愛知，京都，大阪，福岡の各県から報告されている。

【県内の分布】

1989 年，寺尾恭平氏が名古屋市昭和区川名山町にある中京高等学校の校庭で確認し，1991 年にも同一場所で再度生育を確認している。現在のところ，この産地が愛知県における唯一の記録である。

【生育地の環境／生態的特性】

これまでに国内で報告された生育地は，いずれも人為的影響の著しい市街地である。名古屋市では，学校の校庭の一角に植えられているサクラの根元に生育していたという。

【侵入の経緯／現在の生育状況】

欧州産の園芸植物に付着して移動を繰り返し，世界各国へ拡散して帰化したものと考えられているが定かではない。名古屋市における現在の生育状況については情報がないが，本種は葉状体であるため乾燥に弱く，すでに消滅している可能性がある。

【被害状況／駆除策と留意点】

現在のところ，どこからも被害の報告はない。名古屋市の場合は情報不足であるが，苔類群集が劣化した市街地に生育するため，生物多様性に対する影響は限定的と思われる。

【特記事項】

和名の語源は，葉状体の先端近くに現れる無性芽器が三日月状である事に起因する。この特異な無性芽器の形状は近似種との識別点になる。

【引用文献】

寺尾恭平. 1991. ミカヅキゼニゴケについて. 三重コケの会ニュース 16: 1-3.

【関連文献】

岩月善之助（編）. 2002. 日本の野生植物 コケ. 355 pp. + pls. 1-192. 平凡社, 東京.
岩月善之助・水谷正美. 1972. 原色日本蘚苔類図鑑. 405 pp. + pls. 1-48. 保育社, 大阪.

（山田耕作）

アイオオアカウキクサ　*Azolla cristata*×*filiculoides*

【概要と選定理由】

浮水性のシダ植物。アメリカオオアカウキクサ *A. cristata* Kaulf.とニシノオオアカウキクサ *A. filiculoides* Lam.の雑種で，イネの幼苗よりもアイガモがこちらを好んで食べることと，窒素同化能力があること，旺盛に栄養繁殖し，水面を完全に覆って沈水性の植物や水底から発芽する抽水性の植物の生育を強く抑制することから，アイガモ農法に取り入れられている。雑種性で胞子繁殖を行わないため，自然界への影響は少ないと考えられてきた。しかし実際には，水鳥の足に付着して運ばれることで他の場所に拡散し，拡散先の植生に深刻な影響を与えている。片親のアメリカオオアカウキクサは国の特定外来生物に指定されている。

【形　態】

植物体は枝分かれし，五角形状や四辺形状の円形，直径 1～2cm になる。根は水中に垂れ，根毛は宿存生である。葉は長さ 1mm 程度で瓦鱗状に連なり，日が当たる場所では赤褐色になり，表面の毛は１細胞のもの（ニシノオオアカウキクサの特徴）と 2 細胞のもの（アメリカオオアカウキクサの特徴）が混在する。

【分布の概要】

【世界の分布】

人為的に作出された雑種で，東南アジアを中心に，アイガモ農法に取り入れられている。

【国内の分布】

本州，四国，九州。西日本を中心に各地から報告されている。

【県内の分布】

東：豊川市（小林元男 80447，2003-10），豊橋市北部（瀧崎 23622，2007-11T）。**西**：西尾市（旧一色町）（芹沢 82699，2007-10）。**尾**：知多市（鳥居ちゑ子 3007，2011-10），常滑市（鳥居ちゑ子 2741，2009-8），名古屋市北部（芹沢 79323，2004-8）。無印は愛知教育大学植物標本室 AICH に保管されている標本，T は豊橋市立自然史博物館に受け入れてもらう予定で，現在瀧崎が一時的に保管している標本である。外来アカウキクサ類の生育地点は近年急増しており，これ以外にもあちこちから報告されているが，その多くは本雑種と思われる。

【生育地の環境／生態的特性】

水鳥の訪れるため池や水田に逸出し，そこから流出する水路にも広がる。愛知県の平野部では十分に越冬でき，何年も継続的に生育することがある。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地				
水 域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

概要の項参照。

【被害状況／駆除策と留意点】

もともと他の植物の生育を抑制することを目的として導入されたものだけに，管理外の場所に拡散してしまうと，影響は深刻である。例えば豊橋市北部の水神池では，サガミトリゲモ(国 VU，県 VU)の生育が著しく妨げられた。本雑種が増殖すると，水面は赤褐色に染まり，アンツーカーのグラウンドのようになる。水があると思わずに踏み込んで落ちたという話もある。住民が気味悪がって，行政に訴えた事例もある。駆除は，かき寄せて取り除く以外によい方法がない。駆除した植物体はよい肥料になるという（渡辺 1981）。

【特記事項】

母種のニシノオオアカウキクサも，アイオオアカウキクサほど多くはないが，**西**：西尾市（旧一色町）（芹沢 84131，2009-6），**尾**：名古屋市南西部（鳥居ちゑ子 2744，2009-9）で確認されている。他種への影響はアイオオアカウキクサと同様である。アメリカオオアカウキクサは，現在のところ愛知県内では確認されていない。本雑種によく似た在来種のアカウキクサ *A. imbricata* (Roxb. ex Griff.) Nakai（国 VU，県 CR）は，植物体がほぼ三角形になることで見分けられる。アカウキクサは現在では極めて稀な植物になっており，現存する確実な自生地は愛知県ではなくなってしまった。

【引用文献】

渡辺　巌. 1981. アカウキクサーラン藻の共生による生物的窒素固定とその利用. 日本土壌肥料学雑誌 **52**:455-464.

【関連文献】

文献は少ないが，兵庫県立人と自然の博物館の鈴木武氏が研究されていて，インターネット上では多くの情報が流されている。

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

エゾノギシギシ　*Rumex obtusifolius* L.

【概要と選定理由】

多年生草本。温帯域に多く，牧草地や畑地の雑草となるだけでなく，同属の多くの種と雑種を作り，その雑種が増殖して，在来種を圧迫する。国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

茎は直立し，高さ 60～120cm になる。葉は互生し，下部のものは長い柄があり，葉身肌円形，長さ 18～35cm，幅 8～20cm，先端は鈍頭～鋭頭，基部は心形～切形，辺縁はしばしば波状になり，裏面脈上に短毛がある。茎の上部の葉は次第に小さくなる。花期は 5～6 月，他のギシギシ類より遅く，果時の花被片は三角状卵形で長さ 3.5～5mm，中下部の辺縁に刺状突起がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ。現在では世界中の温帯域に帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。ただし暖地では少ない。

【県内の分布】

東：設楽町津具地区（鈴木学 2233，1983-9），設楽町旧町域西部（芹沢 55913，1990-7），設楽町旧町域東部（榊原利修 722，1992-6），新城市（旧鳳来町北東部）（加藤等次 1533，1992-7），新城市（旧鳳来町南西部）（芹沢 59236，1991-7），新城市作手地区（芹沢 52441，1989-7），豊川市（瀧崎 18810，2001-7T），豊橋市北部（芹沢・芳山朋子 199，1984-7）。**西**：豊田市（旧稲武町）（芹沢 62865，1992-8），豊田市（旧足助町）（水野岸子 551，1985-5），豊田市（旧下山村）（長谷川朋美 509，1992-7），豊田市（旧小原村）（日比野修 2438，1994-7），豊田市（旧藤岡町）（日比野修 638，1992-8），豊田市旧市域東部（山崎玲子 316，1992-9），豊田市旧市域北西部（磯貝彰宏 20，1983-7），豊田市旧市域南西部（芹沢 66313，1993-6），みよし市（臼井里華 503，1992-6），岡崎市（旧額田町）（福岡義洋 733，1990-6），岡崎市旧市域北部（堀田喜久 313，1991-6），岡崎市旧市域南部（本多さおり 582，1994-8），幸田町（金子律子 777，1995-6），刈谷市（柴田みゆき 164，1987-7），西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 638，1994-6）。尾：瀬戸市（村松正雄 16966，1997-6），長久手市（村瀬美智子 251，1992-7），日進市（半田多美子 361，1992-7），豊明市（浅野守彦 1308，2002-5），東郷町（鬼頭弘 166，1992-8），東海市（岡島錦也 520082，1992-6），半田市（芹沢 65217，1993-5），常滑市（芹沢 66401，1993-7），南知多町（芹沢 61611，1992-6），犬山市（平嶋敏 735，1989-7），大口町（竹下希望 696，2010-7），扶桑町（芹沢 65784，1993-6），小牧市（村瀬正成 930424，1993-7），春日井市（竹原芳子 86，1993-7），北名古屋市（鈴木幸子 480，1993-6），清須市（芹沢 78633，2003-6），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 414，1993-7），名古屋市南東部（渡辺幸子 375，1992-7），一宮市西部（渡辺幸子 383，1992-7），稲沢市（水野峰子 211，1993-8）。豊根村（富山地区，旧村域），東栄町（小林 2006），田原市（旧町域，旧赤羽根町，旧渥美町）（小林 2002）からも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

畑地や路傍に生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩	○	○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

明治中期に北海道に帰化したと言われている。山間部でよく目につく帰化植物で，平野部では比較的少ない。

【被害状況／駆除策と留意点】

豊田市稲武地区にはノダイオウ *R. longifolius* DC.（国 NT，県 EN）の河川敷以外では県内唯一の自生地があるが，この場所では本種との雑種が栄養的に著しく繁殖し，ノダイオウを圧迫している。

【特記事項】

ヒロハギシギシとも呼ばれる。

【引用文献】

小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.104. 東三林業振興会.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.132. 愛知県林業試験研究推進協議会.

【関連文献】

北帰化 p.189，保帰化 p.355，平草Ⅱp.16，平帰化 p.49，農教Ⅰp.21.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

バクヤギク　*Carpobrotus edulis* (L.) N.E.Br.

【概要と選定理由】

多肉性の常緑多年生草本。愛知県では一時渥美半島先端部の砂浜にかなり拡がって，ハギクソウやハマウツボの群落に影響を与えることが懸念された。現在は減少しているが，そのうちに再度逸出・増加する可能性は大きい。

【形　態】

茎は太さ 5～7mm 程度で，分枝しながら地表を匍匐する。葉は輪生し，太さ 7～10mm の 3 稜形である。花期は 5～11 月，花は淡紅色で直径 10cm 程度，花弁は多数つき，細い舌状である。野生化している植物が単一系統であるためか，現在のところ結実しない。

バクヤギク　田原市　2007 年月　瀧崎撮影

【分布の概要】

【世界の分布】

南アフリカ原産。北米大陸太平洋側や地中海東部に帰化しているという。

【国内の分布】

愛知県のほか，千葉県，島根県等でも野生化したものが確認されているらしい。

【県内の分布】

東：田原市（旧渥美町）（瀧崎 22827, 2007-5T）。

【生育地の環境／生態的特性】

耐塩性と対乾燥性が強く，砂浜から岩礁まで，広く海岸の環境に適応する。海浜の最前線にも生育できる。群落は密で，完全に地表を覆い，砂浜では砂の移動も押さえ，小砂丘を形成する。種子繁殖は認められないが栄養繁殖能力は極めて高く，葉が 1 枚地面に落ちれば発根し定着してしまう。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				○
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

愛知県では渥美半島の植物園で栽培されていたものが逸出して拡がった。2010～2011 年冬の寒波により野生状態の個体はほとんどが枯死したが，フラワーポット等では現在も多くの個体が栽培されている。

【被害状況／駆除策と留意点】

伊良湖岬では，シャリンバイの株をバクヤギクが覆い尽くしている状況も見られた。再逸出防止が重要で，そのためには栽培品のしっかりした管理が必要である。

【特記事項】

渥美半島の植物園では「オオマツバギク」と呼ばれていたが，インターネット上では通常「バクヤギク」と呼ばれており，和名はそれに従った。

南～東アフリカ原産で近似種の *Delosperma cooperi* (Hook.f.) L.Bolus 園芸名レイコウが，知多半島の常滑市に帰化している（標本：瀧崎 27615, 2011-6T）。現在のところ埋立地の空き地にパッチ状の群落を形成している状態であるが，こちらは種子繁殖をしており，海岸などに侵入すれば大きな問題となる可能性がある。

【関連文献】

文献は少ないが，インターネット上では多くの情報が流されている。

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

マツナ　*Suaeda glauca* (Bunge) Bunge

【概要と選定理由】

塩生湿地や砂浜に生育するやや大形の 1 年生草本。密集した群落を形成し，シバナ，ヒロハマツナ，フクドなどの希少な塩生湿地性植物に強い圧迫を与える可能性がある。愛知県に現在生育するものは，シナハマグリの輸入時に用いた麻袋に付着して中国大陸から三重県に移入された系統である（藤井・水野 2009）。

【形　態】

1 年生草本。茎は直立して枝をわけ，高さ 1m 以上になる。葉は密に互生し，葉身は線形，長さ 1～2.5cm，多肉質，黄緑色で在来系統と異なり白色を帯びない。花期は 8 月下旬から 10 月，花は茎の上部の枝に穂状に集まってつき，緑色で小さい。胞果は残存がくに包まれて星形になり，直径 2～3mm，種子は黒色である。

【分布の概要】

【世界の分布】

日本からシベリア東部，モンゴル，中国大陸にかけて分布する。日本に自生系統があるが，愛知県のものは全て中国大陸原産の移入系統である。

【国内の分布】

本州（愛知県，三重県）。

【県内の分布】

東：田原市（旧渥美町）（永田芳男 s.n.，1999-10）。**尾**：常滑市（中井三従美 s.n., 2001-7），美浜町（髙木順夫 16499，2008-7），南知多町（芹沢 78196，2007-5）。

【生育地の環境／生態的特性】

河口部や入江，養魚場跡地などに成立する塩性湿地に生育するが，砂浜に生育することもある。砂浜では種子はよく発芽するが，生長途中で消えてしまうことも多い。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				○
湿 地				○
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

愛知県のマツナは，大原（1971）が渥美，一色，田原，豊橋，蒲郡を生育地として挙げているが，なかなかその存在が確認できなかった。しかし 1999 年に永田芳男氏が渥美町の養魚場跡地で開花株を 1 株だけ発見されたので，2001 年版レッドデータブック（芹沢 2001）ではこの標本をもとに，絶滅危惧 IA 類 CR と評価した。ところがその後，この場所では個体数が爆発的に増加し，水辺を埋め尽くす勢いになった。さらに，県内の他の場所でも採集されるようになった。この増加状況と，在来のマツナに比べ植物体が強壮で白緑色にならないことから帰化系統の疑いが強くなったが，藤井・水野（2009）によって中国原産の系統であることが移入経路と共に突き止められた。

大原の記録が現在は絶滅してしまった在来系統であるのか，現存するのと同じ帰化系統であるのか，それとも何か違う植物の誤認であるのかは，標本資料が残されていないため，何とも判断できない。

【被害状況／駆除策と留意点】

現在のところ安定した密集群落は 1 カ所だけで，他は散発的な出現にとどまっている。しかし，稀少な塩湿地性植物が多い場所に大きな群落を作れば，それらの植物に深刻な影響を与える可能性が高い。そのような場所に侵入した場合には，早めに除去することが望ましい。

【引用文献】

芹沢俊介. 2001. マツナ. レッドデータブックあいち植物編 2001 p.69. 愛知県環境部自然環境課.
藤井伸二・水野知巳. 2009. 移入と思われる伊勢湾のマツナ. 植物研究雑誌 **84**: 50-53.
.

【関連文献】

北村四郎ほか, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱp.288. 保育社, 大阪, 平草Ⅱp.49（いずれも在来系統に関するもの）.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ハリビユ　*Amaranthus spinosus* L.

【概要と選定理由】

1 年生草本。近年場所によっては牛糞等が投下された畑で著しく繁茂し，強害雑草となっている。国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

茎は直立し，高さ 20～100cm，黄緑色で，節には長さ 5～10mm の鋭い刺がある。葉は互生し，長さ 2～10cm の柄があり，葉身は菱状卵形～楕円形，長さ 4～10cm，幅 2～7cm，先端は鈍頭～円頭で小さい針状突起があり，基部はくさび形，辺縁は全縁である。花期は 8～10 月，茎や枝の先端につく花序は穂状で通常分枝せず，長さ 20cm に達し，上部の葉腋からも穂状の花序を出すが，このほかに葉や枝の基部にも球状で直径 7～12mm の花序をつける。果実は裂開せず，種子はレンズ形，黒色で直径約 1mm である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は熱帯アメリカ。現在では旧世界の熱帯～暖帯にも広く帰化している。

【国内の分布】

本州～琉球，小笠原。

【県内の分布】

東：新城市旧市域（小林元男 64912，1998-8），豊橋市北部（小林 70291，2000-8）。**西**：みよし市（芹沢 70783，1994-9），岡崎市旧市域北部（堀田喜久 3479，1994-8），安城市（堀田喜久 3458，1994-7），西尾市（旧一色町）（芹沢 81055，2006-9）。**尾**：瀬戸市（日比野修 61，1991-11），日進市（芹沢 70803，1994-9），豊明市（浅野守彦 579，1999-8），東浦町（村瀬美智子 274，1992-8），武豊町（岡本久美子 867，2000-10），常滑市（梅田零奈 812，2000-9）。

【生育地の環境／生態的特性】

畑地や路傍に生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草・岩			○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

琉球には明治中期に侵入したが，本州に拡がったのは第二次世界大戦後である。

【被害状況／駆除策と留意点】

鋭い刺を持ち，畑地の強害雑草になっているという（佐藤 2001）が，愛知県では散発的に出現する程度で，被害が問題になるほどの量は生育していない。

【特記事項】

本種に似てやや小型で針がないホナガイヌビユ（アオビユ）*A. viridis* L.は愛知県で最も普通に見られる帰化植物の一つで，畑地の雑草としてはこちらの方がよほど主要である。標本としては，**東**：豊川市（梅田 133，1932-8），蒲郡市（井上美保子 46, 1991-10），豊橋市北部（芹沢・芳山朋子 205, 1984-10），豊橋市南部（瀧崎 15639, 1995-8T），田原市旧町域（瀧崎 25836, 2009-8），**西**：豊田市（旧足助町）（新井文子 1375，1994-11），豊田市（旧小原村）（日比野修 3123，1995-9），豊田市（旧藤岡町）（日比野修 2704，1994-10），豊田市旧市域東部（山田初代 959，1991-8），豊田市旧市域北西部（磯貝彰宏 1818, 1984-10），豊田市旧市域南西部（落合鈴枝 353, 1993-8），みよし市（臼井里華 700, 1992-8），額田町（福岡義洋 1234, 1990-8），岡崎市旧市域南部（本多さおり 622，1994-8），幸田町（金子律子 789，1995-6），刈谷市（芹沢 46086，1987-7），安城市（堀田喜久 2153，1991-6），碧南市（芹沢 68739，1993-10），西尾市旧市域（堀田喜久 4770，1995-10），西尾市（旧一色町）（中根幸司 15，2006-9），西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 835，1994-8），**尾**：長久手市（伊藤恭子 591，1992-9），日進市(村瀬美智子 458，1992-9)，東郷町（鬼頭弘 157，1992-8），大府市（竹田弘光 36，1992-8），東浦町（中村裕治 825，1994-7），知多市（竹内早一 21，1992-10），阿久比町（渡邉麻子 638，1995-7），常滑市（芹沢 68298, 1993-10），南知多町（大西ひろし 1172, 1992-9），犬山市（平島敏 698, 1989-6），扶桑町（上山秀郎 13, 1992-6），江南市（佐分康之 787, 1996-7），小牧市（村瀬正成 931062, 1993-10），春日井市（太田さち子 314, 1993-7），岩倉市（竹下希望 1416, 2010-9），北名古屋市（鈴木幸子 204, 1992-9），清須市（鈴木幸子 574, 1993-10），名古屋市北部（福岡義洋 1943, 1992-9），名古屋市南東部（渡辺幸子 446, 1992-7），名古屋市南西部（鶴岡佐知子 216, 1992-10），一宮市西部（渡辺幸子 781, 1992-10），稲沢市（水野峰子 335, 1994-7），大治町（芹沢 60156, 1991-9），愛西市（石榑弓恵 772, 1998-9），弥富市（竹原芳子 944, 1995-8）が得られている。

【引用文献】

佐藤節郎. 2001. ハリビユによる痛い被害. 清水矩宏ほか(編) 日本帰化植物写真図鑑 p.71. 全国農村教育協会，東京.

【関連文献】

北帰化 p.169，保帰化 p.328，平草Ⅱp.52，平帰化 p.73，農教Ⅰp.70.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ウチワサボテン属　*Opuntia spp.*

【概要と選定理由】

多肉性の低木。古くから栽培されているが，もともと砂漠の植物であるだけに，乾燥した荒れ地に定着しやすい。海浜に侵入したものは，在来の海浜植物を圧迫すると共に，長い棘で人を傷つける危険がある。現在愛知県で確認されているものの多くは長い棘と短い棘を持つ種類である。愛知県の条例公表種である。本属の 1 種センニンサボテン *O. stricta* (Haworth) Haworth は国の要注意外来生物とされており，世界の侵略的外来種ワースト 100 にも挙げられている。

【形　態】

植物体は高さ 1～2m になる。枝は多肉質で平板状，倒卵形で長さ 30cm 程度になり，表面に鋭く長い棘と短い棘を束生する。花期は 6～10 月, 花は茎から直接出て基部は多数の鱗片葉にに包まれ，直径 5～6cm，花弁は多数あって細長い舌状，黄色～赤橙色である。果実は長卵形，長さ 4～6cm，表面に多数の小さい棘があり，果肉は甘く食用になる。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は南北アメリカ。約 300 種が知られている。アジア，オセアニア，アフリカ等に帰化している。

【国内の分布】

センニンサボテンが北大東島から（中村ほか 2009），ヒラウチワ *O. vulgaris* Mill.が長野県から（近田ほか 2006）報告されている。各地に生育していると思われるが，種が特定できる報告は少ない。

【県内の分布】

東：田原市（旧渥美町）（瀧崎 24184, 2008-7T）。渥美半島では堀切町の表浜海岸に点在している。西尾市佐久島でも生育が確認されている。名古屋市内の JR 中央線の軌道敷内にも生育している。

【生育地の環境／生態的特性】

日の当たる裸地に生育し，特に海岸に多い。枝片は地表に落ちると，容易に発根して独立個体となる。果実は甘く熟し，野鳥やネズミ類が好んで食べる。ムクドリ，ヒヨドリなどによって種子が拡散される。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩			○	○
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

古くから栽培されており，剪定した枝やいらなくなった株が野外に投棄されて逸出したと思われる。

【被害状況／駆除策と留意点】

概要の項参照。今後も栽培者が投棄する可能性があり，啓発の必要性が高い。現存する個体の駆除策として最も有効なのは，グリホサートを含む除草剤を直接植物体内に注入することである（中村ほか 2009）。刈り取りと掘り起こしによる除去は栄養繁殖能力が高いため注意が必要で，除去した植物体は放置せず，可燃ゴミとして処理する必要がある。

【引用文献】

中村剛ほか. 2009. 「世界の侵略的外来種ワースト 100」の 1 種センニンサボテン *Opuntia stricta*（サボテン科）の北大東島への侵入とその防除法. 分類 **9**:159-165.
近田文弘・清水健美・濱崎恭美. 2006. 帰化植物を楽しむ p.176. トンボ出版, 大阪.

【関連文献】

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

ハゴロモモ　*Cabomba caroliniana* A.Gray

【概要と選定理由】

多年生の沈水性水草。密集した群落を形成して，在来の水生植物の生育を阻害する。国の要注意外来生物とされており，愛知県の条例公表種でもある。

【形　態】

水中茎は基部で分枝して，全体として密なかたまりとなる。葉は対生し，長さ 0.8～2cm の柄があり，葉身は細裂して掌状にひろがり，長さ 2～3.5cm になる。花期は 7～10 月，この時期には長楕円形で楯形，長さ 1～2cm の浮葉が形成される。花は水面上に出て咲き，白色，直径 1～1.5cm，花被片は 6 枚で互いに重なり合う。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。観賞用に世界各地に導入され，東アジアとヨーロッパに帰化している。

【国内の分布】

本州～琉球。

【県内の分布】

東：田原市（旧渥美町）（瀧崎 26144, 2009-10T）。**西**：幸田町（金子律子 1238, 1995-9），刈谷市（中村裕治 1243, 1994-10）。**尾**：瀬戸市（日比野修 885, 1992-9），豊明市（浅野守彦 1350, 2002-6），阿久比町（渡邉麻子 994, 1995-10），常滑市（梅田零奈 542, 2000-7），犬山市（塚本威彦 1208, 1994-7），大口町（福岡義洋 5042, 2000-10），清須市（鈴木幸子 676, 1994-10），名古屋市北部（芹沢 57797, 1990-10），名古屋市南東部（中島ひろみ・渡辺幸子 4370, 2000-7），名古屋市南西部（高木順夫 11608, 2003-9），あま市（鈴木秀樹 5006, 1997-11）。蒲郡市（小林 2004）でも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

ため池やゆるやかな流れの水路に生育し，時に大群落を形成する。常緑性のため，殖芽や種子で越冬する他の水草の初期生長を著しく阻害する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草・岩				
湿 地				
水 域		○	○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本へは昭和初期に移入された。その後「カボンバ」の名で観賞用水草として広く販売されるようになり，増殖したものが捨てられて逸出帰化したと思われる。愛知県では平野部や浅い丘陵地に生育する。浜島繁隆氏によれば，1970 年 8 月に名古屋市港区南陽町で見たという。水界ならどこにでも見られるというほどではないが，ある場所では大量に生育していることが多い。

【被害状況／駆除策と留意点】

名古屋市名東区塚の杁池では，1984 年に本種が突然出現し，爆発的に増加して 1989 年には池の約 90%を占有するようになり，ガガブタ（国 NT，県 NT）やヒシなどの在来水草を著しく圧迫した（浜島 1994）。

【特記事項】

フサジュンサイとも呼ばれる。在来のフサモ類や沈水状態のキクモに似ているが，葉の裂片はやや幅広く，規則的に分枝して平面的に拡がる。

【引用文献】

浜島繁隆. 1994. 塚の杁池（名古屋市）の水草相 11 年の動態. 水草研究会会報(54): 19-22.
小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.117. 東三河農林水産事務所.

【関連文献】

保帰化 p.396, 平帰化 p.77, 農教Ⅰp.78, 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.108. 文一総合出版, 東京.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

スイレン　*Nymphaea* spp.

【概要と選定理由】

多年生の浮葉植物。しばしば栽培され，多数の園芸品種がある。野外でもしばしば旺盛に繁殖して水面を覆い，在来の水草の生育に多大な影響を与える。愛知県の条例公表種である。

【形　態】

根茎は水底を分枝しながら匍匐し，先端に葉をつける。浮葉は長い柄があり，葉身はほぼ円形で中央まで深く切れ込み，直径 10～30cm，切れ込みの角の外側に小突起があることが多い。花期は 5～10 月，花は水面に浮かび，白色または帯紅色のことが多く，直径 7～15cm，多数の花弁と雄しべがある。

【分布の概要】

【世界の分布】

世界中に約 40 種があり，交配によって多数の園芸品種が作出されている。

【国内の分布】

各地で生育しているが，植栽と逸出の境界が明確でなく，詳細はよくわからない。

【県内の分布】

東：新城市旧市域（瀧崎 26965, 2010-7T）。**西**：豊田市旧市域東部（山崎玲子 802, 1994-5），豊田市旧市域北東部（鈴木淳 322, 1993-8），岡崎市（旧額田町）（芹沢 57149, 1990-9），幸田町（金子律子 1316, 1995-9）。**尾**：長久手市（芹沢 78034, 2002-9），日進市（鈴木淳 189, 1993-8），阿久比町（林彰一 60, 1990-5），常滑市（林彰一 605, 1990-8），春日井市（竹原芳子 78, 1993-7），名古屋市北部（鈴木淳 478, 1993-10），名古屋市南東部（西川勇夫 361, 1994-7-3），津島市（石榑弓恵 866, 1998-9），愛西市（石榑弓恵 864, 1998-9）。

【生育地の環境／生態的特性】

人里近くのため池などで見かけることが多い。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地				
水 域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

広く栽培される園芸植物で，全国的にも愛知県でも不要になって投棄される事例は少なく，「きれいだから」と意図的に植栽されることが多い。植栽された場所ではしばしば栄養的によく繁殖するが，現在のところ他の場所に二次的に拡散したと思われる事例は少ない。

【被害状況／駆除策と留意点】

人間が管理しきれないため池などに植栽されると，しばしば増殖して葉が重なり合うほどに水面を覆い，その場所に本来生育していた水草を全滅させてしまう。対策としては，「植えないこと」が最も重要である。あちこちで繰り返し述べていることだが，「ない」というのは生物多様性の重要な要素で，その「ない」状態を破壊する持ち込みは，自然に対する重大な破壊行為である。すでに植えられたものは，可能な限り除去することが望ましい。ある程度除去した後で残存個体を根絶させるためには遮光が有効だが，遮光材が水中で分解すると他の植物に悪影響を及ぼす可能性もあるので，分解しない材質のものを使用する方が無難である。

【関連文献】

園芸植物関係の文献はいろいろあるが，野生植物としての文献はほとんどない。

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ハルザキヤマガラシ　*Barbarea vulgaris* R.Br.

【概要と選定理由】

多年生草本で，寒冷地や山間部で大きな群落を作っていることがある。国の要注意外来生物とされており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

茎は直立し，高さ 30～60cm，よく枝をわける。根出葉は有柄，茎葉は互生して上部のものは無柄となり，羽状に切れ込み，無毛，濃緑色でやや光沢がある。花期は 4～5 月，花は黄色で直径 6～7mm，花弁は 4 枚で倒卵形である。長角果は通常直立し長さ 2～4cm であるが，愛知県に帰化しているものはすべて開出または斜開し，種子はほとんどできない。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ，西アジア，ヒマラヤ。東アジアのほか，アフリカ，オーストラリア，北アメリカに広く帰化している。

【国内の分布】

北海道～九州。

【県内の分布】

東：豊根村旧村域（芹沢 81460，2007-6），豊川市（小林元男 43289，1993-5），豊橋市北部（芳山朋子 421, 1984-5），豊橋市南部（瀧崎 17619, 2000-4T）。**西**：豊田市（旧稲武町）（日比野修 4480, 1998-5），豊田市（旧旭町）（小林元男 42188, 1993-5），豊田市（旧足助町）（日比野修 3367, 1993-5）豊田市（旧藤岡町）（村松正雄 190，1981-5），豊田市旧市域東部（山崎玲子 1570，1997-4），幸田町（金子律子 344, 1995-5），西尾市（旧幡豆町）（中西普佐子 47, 1992-4）。**尾**：犬山市（芹沢 85562, 2010-5），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 835，1995-4），一宮市西部（渡辺幸子 4644，2010-4），稲沢市（渡辺幸子 3786，1999-4）。設楽町津具地区，設楽町旧町域（小林 2006），新城市（旧鳳来町，作手地区，旧市域），（小林 2000）でも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍や牧草地，水路沿いの草地などに生育するが，林縁などやや自然度の高い場所に侵入することもある。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩	○	○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本では明治時代から植物園などで栽培されたが，野生状態のものは 1960 年に群馬県神津牧場で確認された。最初は山間部に多かったが，現在は平野部にも広く見られる。愛知県でもほぼ全域に見られるが，それほど多いものではない。大原（1971）の愛知県植物目録には記録がなく，その当時は県内にまだ侵入していなかったと思われる。

【被害状況／駆除策と留意点】

愛知県では，現在のところ自然生態系に大きな影響を与えるほどの量は生育していない。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.97. 愛知県.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.144. 愛知県林業試験研究推進協議会.
大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌. 178pp. 名古屋営林局.
.

【関連文献】

北帰化 p.135，保帰化 p.262，平帰化 p.82，農教 I p.88.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

オランダガラシ　*Nasturtium officinale* R.Br.

【概要と選定理由】

多年生草本。流水の水辺に密集した群落を作り，他の植物を圧迫する。国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

根茎は匍匐して分枝し，先端から地上茎を出す。地上茎は高さ 15～50cm であるがしばしば倒伏して枝を分け，中空で無毛である。葉は互生し，奇数羽状複葉，側小葉は楕円形～長楕円形で長さ 0.8～4cm，頂小葉は側小葉と同形のこともそれより大きく卵形～広卵形になることもある。花期は通常 4～6 月，花序は茎や枝の先端について総状，花は直径 4～5mm で白色の 4 枚の花弁がある。果実は弓形に曲がり，長さ 1～1.5cm であるが，果実がほとんど熟さないこともある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ。世界中で栽培され，また逸出している。

【国内の分布】

北海道～九州。

【県内の分布】

東：豊根村旧村域（小林元男 38379，1992-7），豊川市（瀧崎 17844，2000-8T），蒲郡市（井上美保子 795，1993-5），田原市（旧渥美町）（瀧崎 24355，2008-8T）。**西**：豊田市（旧旭町）（日比野修 2225，1994-5），豊田市（旧足助町）（深見弘・畑佐武司 131，1994-4），豊田市（旧藤岡町）（塚本威彦 1480，1995-5），豊田市旧市域東部（畑佐武司 3342，2002-5），豊田市旧市域北西部（芹沢 66162，1993-6），豊田市旧市域南西部（畑佐武司 1868，2001-5T），岡崎市旧市域南部（本多さおり 314，1994-5），幸田町（金子律子 824，1995-6），西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 455，1994-5）。**尾**：瀬戸市（日比野修 301，1993-5），長久手市（半田多美子 1456，1994-4），知多市（加藤雅憲 265，1996-5），半田市（芹沢 65250，1993-5），犬山市（芹沢 58331，1991-5），春日井市（竹原芳子 344，1993-10），名古屋市北部（広部栄 23，1992-6），名古屋市南東部（渡辺幸子 905，1993-5），名古屋市南西部（芹沢 77263，2001-5），一宮市東部（粟田郁男 262，1993-6），一宮市西部（渡辺幸子 4641，2001-4T），稲沢市（渡辺幸子 3788，1999-4），愛西市（山田茂貴 459，1993-6）。東栄町，設楽町旧町域，豊田市（旧稲武町）（小林 2006），新城市（旧鳳来町，旧市域）（小林 2000），豊橋市（北部，南部）（小林 2001）からも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

山間部の清流から平野部の多少汚染の進んだ河川まで，様々な場所に生育し，水辺に密集した群落を作る。ただし極度に汚染された場所では見られず，止水域にもほとんど見られない。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地	○	○	○	
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

江戸時代後期から在留外人の食用に栽培されていたらしい。栽培されていたものが逸出して，現在では全国的にも愛知県でも，やや普通に見られる帰化植物となっている。

【被害状況／駆除策と留意点】

本種が密集した群落を作ると，もともとその場所に生育していた植物はほとんど消えてしまう。しかし現在のところ爆発的に増加するという状況ではなく，そのため在来種への影響はやや限定的である。

【特記事項】

クレソンと呼ばれ本来なら食用になる。しかし汚染された水辺に生育しているものは，とても食べる気にはなれない。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.98. 愛知県.
小林元男. 2001. 豊橋市の植物 p.87. 愛知県植物誌調査会.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.145. 愛知県林業試験研究推進協議会.

【関連文献】

北帰化 p.144，保帰化 p.279，平草Ⅱp.133，平帰化 p.92，農教Ⅰp.107.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

モリシマアカシア　*Acacia mearnsii* De Willd.

【概要と選定理由】

落葉性の亜高木。窒素固定能力を持ち他の樹木が育ちにくいやせ山や蛇紋岩地でも生育できるため，それらの場所に成立していた非森林的環境を破壊し，多くの希少種に影響を与える。国の要注意外来生物とされており，世界の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

幹は高さ 7～8m になり，枝は葉と共に短毛が密生する。葉は互生し，長さ 1～2.5cm の柄があり，葉身は 2 回羽状複葉，長さ 6～18cm，羽片は 10～20 対，小羽片は多数つき，線状楕円形，長さ 2～4mm である。花期は 3～6 月，花序は葉腋から出る長さ 6～12cm の枝に 10～30 個ならんでつき，球形で直径 3～6mm，黄色，長さ 2～5mm の柄がある。花は小さく，放射相称である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はオーストラリア。

【国内の分布】

本州のほか，四国（太刀掛・中村 2007）にも帰化している。

【県内の分布】

東：豊川市（瀧崎 19147，2001-9T），蒲郡市（堀田喜久 208，1991-6），豊橋市北部（瀧崎 14143，1993-5T），田原市（旧渥美町）（瀧崎 12062，1991-5）。**西**：豊田市旧市域北西部（土場トシ子 399，1994-4），豊田市旧市域南西部（土場トシ子 392，1994-4）。**尾**：日進市（渡辺幸子 879，1993-4），常滑市（鳥居ちゑ子 1949，2001-6），小牧市（村瀬正成 930010，1993-4），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 821，1995-4）。

モリシマアカシア　田原市　2007 年 5 月　瀧崎撮影

【生育地の環境／生態的特性】

愛知県では，アカマツが松枯れで失われたあとのやせ山に生育していることが多い。果実は小さく，乾燥すると風で散布される。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩		○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

愛知県では第二次世界大戦後，やせ山を緑化する目的で導入されたらしく，それほど多くはないがあちこちで見ることができる。花木として利用されることもあり，時に栽培されている。

【被害状況／駆除策と留意点】

田原市の笠山では，蛇紋岩地に侵入して草地植生を消滅させている。この場所のものは緊急に伐採することが望ましい。

【引用文献】

太刀掛優・中村慎吾. 2007. モリシマアカシア. 改訂増補帰化植物便覧 p.167. 比婆科学教育振興会, 庄原.

【関連文献】

自然環境研究センター(編). 2008. 日本の外来生物 p.274. 平凡社, 東京.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

イタチハギ　*Amorpha fruticosa* L.

【概要と選定理由】

落葉性低木。種子でも栄養繁殖でも盛んに増え，窒素同化能力があるためやせ地でも生育できる。道路法面などの土止め材として吹き付けられたものが逸出して，しばしば大きな群落を形成している。国の要注意外来生物とされており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

茎は根際で分岐し，その後はあまり分枝せず，高さ 3m 程度になる。葉は互生し，長さ 1.5～3cm の柄があり，葉身は奇数羽状複葉，側小葉は 6～13 対つき，楕円形～長楕円形，長さ 15～45mm，幅 6～20mm，先端は通常円頭で微凸端，辺縁は全縁，裏面は多くの開出毛があり，基部は長さ 2～3mm の柄がある。花期は 5～7 月，花序は茎の先端に 2～4 本つき，長さ 8～17cm，花は穂状に密につき，濃紫色，長さ 5～7mm，旗弁はあるが側弁と竜骨弁を欠く。豆果は長さ 7～10mm である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。アジア，ヨーロッパ等に帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：豊根村旧村域（瀧崎 27781，2011-8T），新城市旧市域（加藤等次 4483，1994-5），蒲郡市（鈴木美恵子 51，1992-5），豊橋市北部（瀧崎 11904，1990-10T），豊橋市南部（井上美保子 864，1993-6），田原市（旧赤羽根町）（芹沢 55006，1990-5）。**西**：豊田市（旧稲武町）（鈴木学 1280，1983-6），豊田市（旧小原村）（塚本威彦 1376，1994-9），豊田市旧市域東部（山田初代 535，1991-5），豊田市旧市域北西部（落合鈴枝 254，1993-6），豊田市旧市域南西部（石川敏 278，1993-5），岡崎市旧市域北部（中西普佐子 125，1992-7），岡崎市旧市域南部（本多さおり 294，1994-5），刈谷市（白井直子 24，1993-5），安城市（堀田喜久 742，1993-9），碧南市（中村さとこ 309，1993-5），西尾市旧市域（中村さとこ 280，1993-5）。**尾**：瀬戸市（日比野修 356，1992-5），長久手市（半田多美子 291，1992-6），日進市（芹沢 61286，1992-5），豊明市（浅野守彦 1325，2002-6），東浦町（渡邉麻子 563，1995-7），武豊町（相羽福松 25，1979-5），美浜町（田中郁子 126，1986-5），犬山市（平嶋敏 583，1989-6），小牧市（日比野修 4462，1998-5），春日井市（山田果与乃 66，1993-5），清須市（鈴木幸子 730，1995-6），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 58，1992-8），名古屋市南東部（渡辺幸子 1635，1994-6），名古屋市南西部（鈴木秀樹 2088，1996-6），一宮市西部（渡辺幸子 930，1993-5），稲沢市（渡辺幸子 6354，2011-10T），あま市（鈴木秀樹 2268，1996-5），愛西市（石榑弓恵 547，1998-7），蟹江町（永田晴美 458，1993-5）。東栄町，設楽町（津具地区，旧町域）（小林 2006），新城市（旧鳳来町，作手地区）（小林 2000），豊川市（小林 2004）からも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

道路の法面や路傍の土手などに多く，横走する地下茎を出して栄養繁殖し，密な群落を作る。丘陵地や山地の自然植生に隣接する裸地に侵入することもある。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩	○	○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本には大正時代に観賞用に渡来したと言われるが，現在帰化しているものは第二次大戦後砂防用に導入された系統である。上田（1964）は「1958 年 7 月に三河茶臼山で採集し･･･1961 年 9 月には美合追進農場内で，翌年 6 月には豊橋市飛行場跡でも見た。尾張では瀬戸森林公園に多い」と報告している。最近は高速道路や林道などの法面土留め材として種子が吹き付けられて，県内でもあちこちに普通に生育している。

【被害状況／駆除策と留意点】

密集した群落を作り，他の植物の生育を阻害する。やせた丘陵地では，ハリエンジュと同様遷移の進行を加速させるおそれもある。

【特記事項】

クロバナエンジュとも呼ばれる。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.104. 愛知県.
小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.127. 東三河農林水産事務所.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.155. 愛知県林業試験研究推進協議会.
上田　豊. 1964. 愛知県西三河の帰化植物(続報). 植物研究集録(8): 4-12.

【関連文献】

北帰化 p.112，保帰化 p.247，平帰化 p.102，農教 I p.122.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ハリエンジュ　*Robinia pseudoacacia* L.

【概要と選定理由】

落葉性の高木。共生する根粒菌が窒素同化能力を持つため生長が早く，やせ地にも生育できる。法面等の初期緑化木として使用されるが，しばしば増加して純群落を形成し，他の植物の生育に大きな影響を与える。国の要注意外来生物で，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

幹は高さ 20m 以上になり，樹皮は淡褐色で網状に割れる。葉は互生し，奇数羽状複葉，側小葉は 4～10 対ある。小葉は楕円形，長さ 2～5cm，幅 1～2.5cm，全縁，質は薄く，両面に短い伏毛がある。花期は 5～6 月，花は葉腋から出て下垂する長さ 8～15cm の総状花序に密につき，長さ約 2cm の蝶形花，白色で芳香がある。豆果は広線形，長さ 5～10cm，中に 3～10 個の種子がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ東南部。現在では世界の温帯地域で広く栽培され，逸出・帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：豊根村旧村域（加藤等次 4647，1994-7），新城市旧市域（瀧崎 24827，2008-10T），豊川市（小林元男 36851，1992-5），蒲郡市（鈴木惠美子 446*, 1993-5, ），豊橋市北部（瀧崎 19912, 2002-7T）。**西**：豊田市（旧稲武町）（塚本威彦 2263, 1997-5），豊田市（旧足助町）（新井文子 528*, 1994-5），豊田市（旧下山村）（長谷川朋美 999*, 1992-10），豊田市（旧小原村）（塚本威彦 1010*, 1994-5），豊田市（旧藤岡町）（日比野修 1125，1993-5），豊田市旧市域東部（山崎玲子 84，1992-5），豊田市旧市域北西部（山崎玲子 84，1992-5），豊田市旧市域南西部（落合鈴枝 203，1993-5），みよし市（臼井里華 281*，1992-5），岡崎市旧市域北部（瀧崎 14955，1994-5），岡崎市旧市域南部（本多さおり 315，1994-5），幸田町（金子律子 438*, 1995-5），西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 321，1994-5）。**尾**：瀬戸市(日比野修 276*，1992-5)，日進市（村瀬美智子 115，1992-5），東郷町（中村裕治 439, 1994-5），豊明市（浅野守彦 1244, 2002-4），東浦町（竹田弘光 206*, 1994-8），東海市(加藤雅憲 1162*, 1997-5)，知多市（鳥居ちゑ子 2842，2010-10T），半田市（岡本久美子 637*, 2000-5），常滑市（梅田零奈 301*, 2000-5），美浜町（田中郁子 113*, 1986-5），犬山市（平島敏 462*, 1989-5），扶桑町（上山秀郎 313*, 1993-5），小牧市（村瀬正成 930255, 1993-5），春日井市（山田果与乃 1549，2010-10），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 338，1993-5），名古屋市南東部（渡辺幸子 6076，2010-10T），名古屋市南西部（髙木順夫 9708，2001-6），稲沢市（水野峰子 362，1994-8），あま市（鈴木秀樹 2102*, 1996-5），弥富町（竹原芳子 729，1995-5）。*はトゲナシハリエンジュ form. *inermis* (Mirb.) Rehder と呼ばれる茎に刺がない型である。田原市（旧町域，旧赤羽根町，旧渥美町）（小林 2002）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地などに多く植栽されているが，白い花が目立つので，庭木や街路樹として市街地にも植栽される。河川敷に逸出して林となることもある。根から不定芽を出し栄養的に繁殖するため，一度定着するとなかなか根絶できない。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林	○	○	○	
草･岩				
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本へは明治初期に渡来したと言われる。愛知県では，明治末期から昭和初期までのやせ山緑化工事に際し，肥料木として，オオバヤシャブシ，ヒメヤシャブシなどと共に丘陵地に多量に植栽された。現在でもその名残である老木が，丘陵地や低山地の林内のところどころに残存している。最近でも崩壊地等の緑化木として植栽されることがあり，一部の場所では逸出したものが河川敷や砂浜に侵入して，草地・半裸地植生を圧迫し，ハギクソウなどの希少種の存続を脅かしている。

【被害状況／駆除策と留意点】

肥料木の植栽によってやせ山の緑化には成功したが，その一方でやせ山は，愛知県を特徴付ける多くの希少な動植物の生活の場であった。土壌の富栄養化に伴う遷移の急速な進行は，それらの生物の存続の基盤を根底から奪うことになった。しかし，初期肥料木としてのハリエンジュは，その役目をすでに終えている。やせ山の緑化は，生物多様性の保全という点に限れば望ましいことではなかったが，人間の生活環境向上のためには必要であったと思われる。残存するハリエンジュの老木は，正負両面を持つ過去の遺産として，自然にその寿命を終えるまで見守るべきであろう。もちろん現在本種が草地・半裸地植生を圧迫している場所では，伐採など適切な措置が必要である。

【特記事項】

ニセアカシアとも呼ばれる。養蜂の蜜源植物としても利用される。

【引用文献】

小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.119. 東三林業振興会.

【関連文献】

保木本Ⅰp.348-349，平木本Ⅰp.245，平帰化 p.115，農教Ⅱp.143.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ムラサキカタバミ　*Oxalis corymbosa* L.

【概要と選定理由】

やや小型の多年生草本。種子はできないが，地下に多数の小鱗茎が形成されて栄養的によく繁殖し，一度侵入するとなかなか根絶できないやっかいな雑草である。国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

地下に球形で直径 1～2cm の鱗茎がある。鱗茎は褐色の繊維におおわれ，基部に多数の小鱗茎をつける。葉はすべて根出葉で花茎と共に束生し，長い柄があり，葉身は 3 小葉からなり，小葉は心形で無柄，長さ 2～5cm，幅 2.5～6cm，全縁である。花期は 4～9 月，花は長さ 10～30cm の花茎の先に一部複生して 5～15 個つき，長さ 1.5～3cm の柄があり，淡紅色で直径 1.5～2cm，花弁は 5 枚でやや濃色の脈があり，雄ずいのやくは白色である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は南アメリカ。アジア，オーストラリア，北アメリカなどに帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：豊川市（瀧崎 13219，1992-6），蒲郡市（井上美保子 643，1993-4），豊橋市北部（瀧崎 1557，1979-5），豊橋市南部（名倉智道 69，1992-5），田原市（旧渥美町）（瀧崎 23894，2008-5T）。**西**：豊田市（旧足助町）（新井文子 692，1994-6），豊田市旧市域東部（山田初代 753，1991-7），豊田市旧市域北西部（磯貝彰宏 1284，1984-6），豊田市旧市域南西部（畑佐武司 2804，2002-3T），みよし市（臼井里華 544，1992-7），岡崎市（旧額田町）（福岡義洋 491，1990-5），岡崎市旧市域北部（伊奈知子 221, 1993-5）岡崎市（旧市域南部）（本多さおり 385, 1994-6）幸田町（金子律子 804, 1995-6）知立市（白井直子 21，1993-5），刈谷市（芹沢 34503，1982-5），安城市（堀田喜久 163，1991-6），碧南市（中村さとこ 484，1993-6），西尾市旧市域（芹沢 65501，1993-5）西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 374, 1994-5）。**尾**：瀬戸市（日比野修 1558, 1993-8），長久手市（半田多美子 259, 1992-6），日進市（伊藤恭子 169, 1992-4），豊明市（浅野守彦 1287, 2002-5），大府市（斎藤雅喜 134, 1992-5），東浦町（中村裕治 663, 1994-6），知多市（加藤雅憲 310, 1996-5），東海市（加藤雅憲 230, 1996-5），阿久比町（渡邉麻子 262, 1995-5），常滑市（芹沢 65122, 1993-5），美浜町（田中郁子 102, 1986-5），南知多町（瀧崎 22870，2007-5T），犬山市（芹沢・松田ちか子 9，1985-7），江南市（竹下希望 374，2010-5），扶桑町（福岡義洋 3146，1995-5），小牧市（村瀬正成 930571，1993-9），春日井市（太田さち子 90, 1993-5），岩倉市（鈴木秀樹 2109, 1996-5），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 890, 1995-5），名古屋市南東部（花岡昭 10，1992-4），名古屋市南西部（一井尚子 37，1992-6），一宮市西部（渡辺幸子 1005，1993-6），稲沢市（家田晴俊 163，1993-6），あま市（小坂井政志 s.n.，1932-8），愛西市（山田茂貴 75，1992-6），弥富町（竹原芳子 699，1995-5）。豊根村（富山地区，旧村域），東栄町（小林 2006），新城市（旧鳳来町，旧市域）（小林 2000）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

畑地や路傍。花壇の雑草にもなる。林内には侵入しない。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩			○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本には江戸時代末期に観賞用に渡来した。昭和中期までは意図的に栽培されることもあったが，現在では全国的にも愛知県でもすっかり雑草化している。

【被害状況／駆除策と留意点】

花はそれなりに美しいが，抜き取っても小鱗茎が外れて残存し，再び生長してくる。畑に入り込むと，耕すたびに小鱗茎が広がってしまう。

【特記事項】

よく似たイモカタバミ *O. articulata* もあちこちに帰化している。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.109. 愛知県.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.160. 愛知県林業試験研究推進協議会.

【関連文献】

北帰化 p.109，保帰化 p.205，平草Ⅱp.216，平帰化 p.125-126，農教Ⅰp.155.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

イチビ　*Abutilon theophrastii* (L.) Medic.

【概要と選定理由】

1 年生草本。近年牛糞等が投下された畑で著しく繁茂し，強害雑草となっている。国の要注意外来生物とされており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

茎は直立し，大きいものは高さ 1m 以上になる。葉は互生し，長い柄があり，葉身は円心形，長さ 6～18cm，幅 5～15cm，先端は鋭尖頭，辺縁には低い鈍鋸歯があり，両面にビロード状の短毛がある。花期は 6～10 月，花は葉腋につき，長さ 8～15mm の柄があり，直径 1.5～2cm，花弁は 5 個で橙黄色である。朔果は直径 1.5～2cm，通常 16 個の分果に分かれ，成熟すると黒くなる。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はインド。現在では寒帯域を除く世界中に帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：豊川市（小林元男 39081，1992-9），豊橋市北部（瀧崎 C102，1978-7T），豊橋市南部（瀧崎 s.n.，1989-4T），田原市（旧赤羽根町）（芹沢 71215，1994-10）。**西**：豊田市（旧旭町）（山崎玲子 942，1994-9），豊田市（旧藤岡町）（日比野修 3220，1995-10），豊田市旧市域東部（山崎玲子 867，1994-7），豊田市旧市域北西部（山崎玲子 210，1992-8），豊田市旧市域南西部（畑佐武司 4405，2002-7T），みよし市（臼井里華 589，1992-7），岡崎市（旧額田町）（原田勉 660，1998-9），安城市（堀田喜久 2591，1991-8），西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 1059，1994-9）西尾市（旧一色町）（芹沢 81057，2006-9）。**尾**：瀬戸市（日比野修 21，1991-10），日進市（半田多美子 1649，1994-7），豊明市（辻敬一 44，1995-10），東浦町（中村裕治 1232，1994-10），知多市（加藤雅憲 996，1996-10），半田市（芹沢 66452，1993-7），阿久比町（渡邉麻子 651，1995-8），常滑市（梅田零奈 891，2000-10），北名古屋市（鈴木幸子 188，1992-8），岩倉市（山崎玲子 1335，1995-10），名古屋市北部（28241，1978-8），名古屋市南東部（渡辺幸子 6088，2010-10T），一宮市西部（渡辺幸子 3985，1999-8）。豊根村（富山地区，旧村域），東栄町，設楽町旧町域（小林 2006），新城市（旧鳳来町，旧市域）（小林 2000）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

畑地の雑草となる。畑地以外では路傍や市街地の空き地にも生育しているが，現在のところその量はそれほど多くない。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩			○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本には繊維植物として古い時代に中国経由で渡来したらしいが，その系統は開花期が短く，朔果が黒くならない。近年各地で増加しているものはそれとは別に，輸入穀物に混入して持ち込まれた系統である（黒川 2001）。愛知県では，大原（1971）が産地として西尾と岡崎をあげている。その当時は，まだあまり多くなかったと思われる。

【被害状況／駆除策と留意点】

概要の項参照。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.117. 愛知県.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.169. 愛知県林業試験研究推進協議会.
黒川俊二. 2001. イチビの七変化. 清水矩宏ほか(編), 日本帰化植物写真図鑑 pp.182-183. 全国農村教育協会, 東京.
大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.86. 名古屋営林局.

【関連文献】

北帰化 p.98, 保帰化 p.194, 平帰化 p.135-136, 農教Ⅰp.184.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

アレチウリ　*Sicyos angulatus* L.

【概要と選定理由】

つる性の 1 年生草本で，しばしば河川敷などに大群落を形成し，他の植物を覆い尽くして繁茂する。国の特定外来生物に指定されており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

茎はつる性で長さ数 m になる。葉は互生し，長い柄があり，葉身は五角形，長さ，幅とも 8～20cm，浅く 3～5 裂し，基部は深く湾入し，辺縁に小さい突起状の鋸歯がある。花期は 8～10 月，葉腋から各 1 本の雌花序と雄花序を出し，雌花は短い柄の先に頭状に集まってつき，淡緑色，雄花は長い柄の先に総状につき，黄白色で直径約 1cm である。果実は長卵形～楕円形でやや扁平，表面に細く鋭いやや軟質の刺がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。アジア，ヨーロッパなどに帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：豊根村旧村域（加藤等次 3987，1993-10），豊川市（加藤等次 3828，1993-8），豊橋市北部（小林元男 47247，1993-8），豊橋市南部（瀧崎 10243，1987-11）。**西**：豊田市（旧稲武町）（小林元男 47166，1993-8），豊田市旧市域東部（山崎玲子 603，1993-8），豊田市旧市域北西部（畑佐武司 4925，2002-8T），豊田市旧市域南西部（落合鈴枝 883，1996-8），岡崎市旧市域北部（中村さとこ 737，1993-9），刈谷市（中村裕治 1119，1994-9），安城市（堀田喜久 1871，1992-8），西尾市旧市域（芹沢 67618，1993-9）。**尾**：瀬戸市（日比野修 1632，1993-8），長久手市（半田多美子 831，1992-10），豊明市（浅野守彦 705，1999-9），半田市（芹沢 68407，1993-10），犬山市（平嶋敏 1038，1989-9），扶桑町（芹沢 67430，1993-9），春日井市（太田さち子 599，1993-9），豊山町（鈴木幸子 555，1993-9），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 508，1993-8），名古屋市南東部（渡辺幸子 656，1992-9），名古屋市南西部（鶴岡佐知子 572，1993-9），一宮市東部（芹沢 70906，1994-9），一宮市西部（伊藤静江 1275，1991-9），稲沢市（芹沢 76368，1999-9），あま市（鈴木秀樹 3358，1996-9），愛西市（石榑弓恵 908，1998-10）。田原市旧町域（小林 2002）からも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

やや湿った場所を好み，河川敷などに多いが，畑地や林縁などにも生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩			○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本では 1952 年に静岡県で確認されたのが最初の記録である。大原（1971）の愛知県植物目録には掲載されておらず，その当時はまだ県内に侵入していなかったと思われる。現在では平野部に広く生育しているが，三河山間部ではまだ稀である。

【被害状況／駆除策と留意点】

概要の項参照。駆除策としては刈取り等が考えられるが，果実の細く鋭い刺は作業の障害になる。

【引用文献】

小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.127. 東三林業振興会.
大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌. 178pp. 名古屋営林局.

【関連文献】

北帰化 p.50，保帰化 p.90，平草Ⅱp.258，平帰化 p.149-150，農教Ⅰp.199.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

メマツヨイグサ　*Oenothera biennis* L.

【概要と選定理由】

2 年生草本。平野部から山地まで広い範囲に生育し，路傍や空き地のほか，河川敷や山地の草地など，やや自然度の高い場所にも侵入する。国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

茎は直立し，高さ 50～150cm になる。葉は多数互生し，短い柄があり，葉身は狭長楕円形～披針形，長さ 6～15cm，両面に短毛が多い。花期は 6～10 月，花は日没後に咲いて翌日午前中に閉じ，花弁は 4 枚，黄色で長さ 1.5～2cm である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。アジア，ヨーロッパ，オーストラリアなどに帰化している。

【国内の分布】

北海道～九州。

【県内の分布】

東：豊根村富山地区（芹沢 67293，1993-9），豊根村旧村域（加藤等次 3490，1993-8），東栄町（小林元男 47311，1993-9），設楽町津具地区（鈴木学 2235，1983-9），新城市旧市域（瀧崎 24281，2008-7T），蒲郡市（瀧崎 11009，1989-7T），豊橋市北部（芳山朋子 816，1984-7），豊橋市南部（瀧崎 17024，1998-8T），田原市旧町域（瀧崎 24258，2008-7T），田原市（旧渥美町）（芹沢 62089，1992-7）。**西**：豊田市（旧稲武町）（瀧崎 11097, 1989-8T），豊田市（旧足助町）（水野岸子 545, 1985-8），豊田市（旧下山村）（長谷川朋美 889，1992-9），豊田市（旧小原村）（塚本威彦 1253，1994-7），豊田市（旧藤岡町）（塚本威彦 389，1992-9），豊田市旧市域東部（山田初代 771，1991-7），豊田市旧市域北西部（磯貝彰宏 1356，1984-7），豊田市旧市域南西部（畑佐武司 3977，2002-6），みよし市（臼井里華 541，1992-7），岡崎市（旧額田町）（瀧崎 11750，1990-8T），岡崎市旧市域北部（伊奈知子 532, 1993-7），岡崎市旧市域南部（本多さおり 470, 1994-7），幸田町（金子律子 1023, 1995-8），刈谷市（瀧崎 543，1978-9T），安城市（堀田喜久 2244，1991-7），西尾市旧市域（中村さとこ 491，1993-7）。**尾**：尾張旭市（岡本沙矢香 400，2001-7），長久手市（半田多美子 397，1992-7），日進市（半田多美子 350，1992-7），東郷町（鬼頭弘 107，1992-5），大府市（中村裕治 726，1994-6），東浦町（渡邉麻子 505，1995-6），知多市（加藤雅憲 602，1996-8），阿久比町（渡邉麻子 560，1995-7），半田市（芹沢 68412，1993-10），常滑市（梅田零奈 476，2000-6），美浜町（大西博 771，1992-7），犬山市（松田ちか子 640，1986-8），春日井市（太田さち子 337，1993-7），北名古屋市（鈴木幸子 242，1992-9），清須市（鈴木幸子 503，1993-7），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 966，1995-7），名古屋市南東部（渡辺幸子 428，1992-7），名古屋市南西部（髙木順夫 184，1992-7），一宮市西部（渡辺幸子 1073，1993-7），稲沢市（岩田妙子 尾-1031，1988-8），大治町（芹沢 70009，1994-7），愛西市（石樽弓恵 550，1998-7），弥富市（竹原芳子 913，1995-8）。メマツヨイグサとアレチマツヨイグサの関係については学名のあて方を含めて様々な論議がある(長田 1972，尾曽 1997 など)が，上記分布記録は両者を含むものである。

【生育地の環境／生態的特性】

概要の項参照。1 年目はロゼットで越冬し，翌年地上茎を伸ばして開花し，枯死する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩	○	○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

明治年間に侵入したと言われる。日本にはオオマツヨイグサより遅れて侵入したが，第二次世界大戦後になって急速にに拡がり，それに置き換わってしまった。

【被害状況／駆除策と留意点】

帰化植物としてすでに定着した状態になっており，現実問題として根絶は困難である。要注意外来生物とされているが，今後爆発的に増加するおそれも少ないと思われる。

【特記事項】

最近では，アレチマツヨイグサはメマツヨイグサに比べ花がやや小さく，開花したときに花弁の間に隙間があるとする意見が多い（平帰化 p.147-148）。標本での識別はほとんど不可能で，これが本当の識別点かどうかもよく分からないが，この特徴に注目すると確かに 2 型が存在する。両種をこの特徴で区別した場合，愛知県ではアレチマツヨイグサの方が多く生育している。両種を区別しての分布確認は今後の課題である。

【引用文献】

長田武正.1972. アレチマツヨイグサとメマツヨイグサ. 日本帰化植物図鑑 p.96. 北隆館, 東京.
尾曽清博. 1997. 長野県植物誌編纂委員会(編), 長野県植物誌 p.758. 信濃毎日新聞社, 長野.

【関連文献】

北帰化 p.92, 保帰化 p.175, 平草Ⅱp.268, 平帰化 p.145-146, 147-148, 農教Ⅰp.208.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

コマツヨイグサ　*Oenothera laciniata* Hill.

【概要と選定理由】

1年生または短命な多年生草本。路面間隙などに生育する一方で，砂浜など自然度の高い半裸地にも侵入する。国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

茎は分枝して平伏または斜上し，長さ大きいものは長さ 70cm 以上になる。葉は互生し，下部のものは短い柄があるが上部のものは無柄，葉身は狭卵形～倒披針形，長さ 2～6cm，辺縁には通常 2～4 個の欠刻状の大きい歯牙があるが，ほとんど全縁のこともあり，深裂することもある。花期は 5～11 月，花は夕方日没前に咲いて翌朝閉じ，花弁は 4 枚で黄色，長さ 5～12mm である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。アジアやアフリカに帰化している。

【国内の分布】

本州～九州。

【県内の分布】

東：豊川市（瀧崎 12374，1991-8），蒲郡市（井上美保子 62，1991-10），豊橋市北部（瀧崎 15577，1995-5T），豊橋市南部（瀧崎 10231，1987-11），田原市旧町域（瀧崎 14410，1993-6），田原市（旧渥美町）（瀧崎 1255，1979-3T）。**西**：豊田市旧市域東部（山崎玲子 1418，1996-6），豊田市旧市域北西部（畑佐武司 3597，2002-5），豊田市旧市域南西部（山崎玲子 2009，1999-7），岡崎市旧市域北部（中西普佐子 171，1992-9），岡崎市旧市域南部（本多さおり 449，1994-6），刈谷市（瀧崎 3198，1979-10），安城市（堀田喜久 201，1991-6），西尾市旧市域（中村さとこ 144，1993-4），西尾市（旧一色町）（中根幸司 228，2006-11），西尾市（旧吉良町）（堀田喜久 236，1991-6），西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 287，1994-4）。**尾**：長久手市（半田多美子 233，1992-5），豊明市（浅野守彦 335，1999-5），東郷町（岡島沙矢香 159，2001-4），東浦町（中村裕治 525，1994-5），知多市（加藤雅憲 995，1996-10），阿久比町（渡邉麻子 465，1995-6），半田市（岡本久美子 494，2000-7），常滑市（芹沢 65109，1993-5），南知多町（瀧崎 s.n.，1978-7T），犬山市（髙木順夫 20255，2011-8），扶桑町（竹下希望 36，2010-5），江南市（竹下希望 1046，2010-8），春日井市（太田さち子 452，1993-8），北名古屋市（鈴木幸子 312，1992-11），清須市（芹沢 69165，1994-5），名古屋市北部（鳥居ちゑ子，2693，2009-4），名古屋市南東部（渡辺幸子 3449，1998-5），名古屋市南西部（髙木順夫 60，1992-5），一宮市西部（鈴木秀樹 1955，1996-5），稲沢市（岩田妙子尾-912，1988-7），あま市（鈴木秀樹 2800，1996-7），大治町（芹沢 70003，1994-7），愛西市（伊藤静江 388，1991-4），弥富市（瀧崎 992，1979T），飛島村（須賀瑛文 38175，1996-6）。東栄町（小林 2006，タチコマツヨイグサとして），新城市（旧鳳来町，作手地区，旧市域）（小林 2000）からも記録されているが，三河山間部ではほとんど見られない。茎が匍匐するか立ち上がるか，葉の切れ込み，花の大小などは変異が著しく，マルバコマツヨイグサ f. *integrifolia* Jansen et Kloos，オオバナコマツヨイグサ var. *grandiflora* (S.Watson) Robinson などが区別されることがある。確かに全部一つにまとめてしまうと著しく違和感があるが，どのように分けるかとなると明確な区別が難しい。上記分布記録は，とりあえず全部の型を含めたものである。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍や空き地の雑草である。草丈が低いため他の植物が多い場所では生育できないが，半裸地的環境ならば自然度の高い場所から人的に著しく改変された場所まで，さまざまな場所に生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩			○	○
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

明治時代末～大正時代初期に渡来したと言われる。現在では全国的にも愛知県でも，普通に見られる帰化植物の一つになっている。

【被害状況／駆除策と留意点】

帰化植物としてすでに定着した状態になっており，現実問題として根絶は困難である。要注意外来生物とされているが今後爆発的に増加するおそれは少なく，海浜植物群落の中でも，一応は在来種と共存した状態でおさまっている。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.121. 愛知県.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.174. 愛知県林業試験研究推進協議会.

【関連文献】

北帰化 p.93，保帰化 p.177，平草Ⅱp.268，平帰化 p.147，農教Ⅰp.210.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

オオフサモ　*Myriophyllum aquaticum* (Vell.) Verdc.

【概要と選定理由】

多年生の抽水性水草。在来のフサモ類と異なり水上茎がよく発達し，密集した群落を形成して水面をおおい，他の水草の生育を妨げる。国の特定外来生物に指定されており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

茎は円柱状で直径約 5mm，しばしば赤みを帯び，分枝しながら泥中または水中を長く匍匐する。水上茎は高さ 10～30cm，気中葉は 4～7 枚が輪生し，長さ 2～5cm，羽状に細裂し，緑青色で粉白色を帯びる。花は気中葉の葉腋につき，雌雄異株であるが，日本には雌株だけが帰化している。花期は 6 月頃と言われるが，愛知県では資料が少なく，はっきりしない。

【分布の概要】

【世界の分布】

南アメリカ原産であるが，観賞用に世界各地で栽培され，あちこちで逸出している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：豊川市（芹沢 68850，1993-10）。**西**：豊田市（旧小原村）（山崎玲子 975，1994-10），豊田市旧市域東部（山崎玲子 1610，1997-6），豊田市旧市域北西部（畑佐武司 2057，2001-6T），岡崎市旧市域北部（杉田一記 538，2010-5），幸田町（金子律子 1239，1995-9），安城市（堀田喜久 2079，1993-12）。**尾**：長久手市（伊藤恭子 708，1992-9），知多市（加藤雅憲 806，1996-9），常滑市（中井三従美 63，1995-11），名古屋市北部（広部栄 104，1993-7）名古屋市南東部，（武藤靖子 385，1993-7），名古屋市南西部（髙木順夫 380，1992-8），一宮市西部（渡辺幸子 4911，2001-10），愛西市（山田茂貴 883，1993-10）。新城市旧市域（小林 2000），豊橋市（北部，南部）（小林 2001），田原市（旧赤羽根町，旧渥美町）（小林 2002）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

ため池の岸や水路など，浅い水中に生育する。種子は作らず，殖芽も形成しないが，植物体の断片が不定根を出して容易に新個体になる。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地				
水 域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

パロットフェザーの名で栽培されていた植物で，大正時代に観賞用に持ち込まれたものが野生化したと言われる。浜島繁隆氏によれば，1967 年 8 月に蟹江町で見たという。

【被害状況／駆除策と留意点】

ため池の岸辺に繁茂して水辺を占有し，在来のタチモ，ヒメホタルイ，ミズユキノシタなど水際に生育する植物を圧迫する。駆除策としては物理的除去しかないが，必ず残存個体があるので，少し間隔を置いて再度除去作業を行う必要がある。

【特記事項】

在来のフサモ属植物はほとんど沈水性で，水上茎は水中部分よりずっと小さい。。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.122. 愛知県.
小林元男. 2001. 豊橋市の植物 p.106. 愛知県植物誌調査会.
小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.128. 東三林業振興会.

【関連文献】

保帰化 p.396，平帰化 p.149-150，農教 I p.215，角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.136. 文一総合出版，東京.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ウチワゼニクサ　*Hydrocotyle verticillata* Thunb. var. *triradiata* (A.Rich.) Fern.

【概要と選定理由】

長い地下茎をひく多年生草本。水辺に密集した群落を形成し，在来の水辺植物に影響を与えるおそれがある。近縁種のブラジルチドメグサが国の特定外来生物に指定されているが，ブラジルチドメグサは現在のところ熊本県以外では確認されていない。全国に急速に広がりつつあるのはウチワゼニクサの方で，実際にはこちらの方が問題が大きい。

【形　態】

地下茎は白色で細く，地中を長くはい，各節から多数の根と 1 枚の葉を出す。葉は長さ 10～30cm の柄があり，葉身は楯形について円形，直径 2～7cm，無毛，辺縁には浅い欠刻があるが，ほとんど全縁に見えることもある。花期は 5～11 月，花茎は葉腋から出て長さ 10～20cm，花はその上部に数段輪生する。結実は確認していない。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。日本のほか，中央アメリカ，ヨーロッパ，アフリカ北西部，オーストラリアに帰化している。

【国内の分布】

本州，九州，琉球。

【県内の分布】

東：豊橋市北部（芹沢 83799，2008-10）。**西**：岡崎市旧市域北部（芹沢 86304，2010-9）。**尾**：豊明市（浅野守彦 2154，2009-9），春日井市（山田果与乃 1838, 2011-10），名古屋市北部（守山区）（村松正雄 25135，2010-5），同（西区）（鳥居ちゑ子 2993, 2011-10）。

【生育地の環境／生態的特性】

ため池や河川の岸, 小規模な水たまりなどの水湿地に生育する。止水域でも流水域でも生育でき，流れのある水辺では地下茎を水流にたなびかせるようにして広がる。豊橋市柳生川では，切れた地下茎の断片が下流に流れ着いて発根し，増殖している。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地			○	
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

ウォーターマッシュルームの名で熱帯魚水槽用の植物として販売されており，繁殖したものが捨てられて各地で野生化している。販売サイトではビオトープへの導入も勧めていて，その目的で野外に植栽されることもある。愛知県では豊橋市飯村町柳生川で 2005 年に確認された。現在この場所では，ミゾソバやアキノウナギツカミなどの在来水辺雑草を圧倒して純群落を形成している。名古屋市守山区では，意図的に植え込んだものが広がってしまったという。

【被害状況／駆除策と留意点】

愛知県内では現在のところ在来希少種への直接的影響は確認されていないが，今後本種がそのような植物が多い場所に侵入すれば，大きな影響を与えることは十分想定される。対策としては，本種を野外に投棄したり植栽したりしないことが最も重要である。一度定着すると，除去しても細い根茎が残存するため，根絶は極めて困難である。

【特記事項】

タテバチドメグサとも呼ばれる。

【関連文献】

平帰化 p.153, 農教Ⅰ p.224.

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

トウネズミモチ　*Ligustrum lucidum* Aiton

【概要と選定理由】

常緑性の小高木。庭園等に植栽される樹木であるが，種子が鳥によって散布され，里山二次林などの半自然的環境に侵入する。幼木は耐陰性が高く，場所によっては低木層で最も目立つ樹種になっており，近い将来林の優占種になるおそれもある。国の要注意外来生物とされており，愛知県の条例公表種でもある。

【形　態】

幹は高さ 10m に達する。葉は対生し，長さ 1.5～2cm の柄があり，葉身は長卵形～卵形，長さ 7～11cm，幅 3.5～5cm，辺縁は全縁で透明部があり，先端はやや鋭尖頭，基部はくさび形，表面は深緑色で光沢があり，葉脈は透かすと明るく見える。花期は 6～7 月，花序は円錐形で枝端につき，長さ 13～20cm，花は白色で長さ 3～4mm である。果実はほとんど球形，長さ 6～8mm，黒紫色に熟す。

【分布の概要】

【世界の分布】
原産地は中国大陸。
【国内の分布】
本州（埼玉県以西）～九州。
【県内の分布】
東：豊橋市南部（瀧崎 16279，1997-2T），田原市旧町域（瀧崎 23700，2007-11T）。**西**：豊田市旧市域東部（山崎玲子 1695，1998-8），みよし市（畑佐武司 776，1999-9T），刈谷市（芹沢 75865，1999-7），安城市（堀田喜久 519，1993-8），碧南市（畑佐武司 685，1999-9T）。**尾**：大府市（瀧崎 26349，2010-2T），東浦町（渡邉麻子 565，1995-7），知多市（畑佐武司 340，1999-7T），武豊町（畑佐武司 330，1999-7T），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 1791，2000-6），名古屋市南東部（中島ひろみ 419，1994-6），名古屋市南西部（髙木順夫 9714，2001-6）。東栄町（小林 2006），豊川市，蒲郡市（小林 2004）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

逸出したものは人家周辺の薮地に多い。草地・半裸地的環境に最初に侵入する樹木の一つであるが，一方でより自然度の高い二次林にも侵入する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林		○	○	○
草･岩		○	○	○
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

概要の項参照。愛知県では 2000 年代に入ってから特に目立つようになった。

【被害状況／駆除策と留意点】

現在のところは「あちこちで目につく」程度であるが，将来的には里山の植生を変えてしまうおそれがある。鳥の行動は制御できないから，なるべく植えないことが重要である。できれば，不要な場所に生育しているものは伐採・除去することが望ましい。

【特記事項】

在来のネズミモチに似ているが，葉はやや大きくて中央より下で最も幅広くなり，葉脈は明るく見え，花序も大きく，花冠筒部は短く，果実はほぼ球形である。

【引用文献】

小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.150. 東三河農林水産事務所.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.183. 愛知県林業試験研究推進協議会.
.

【関連文献】

平木本Ⅱp.182，農教Ⅱp.440.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

アサザ　*Nymphoides peltata* (S.G.Gmel.) Kuntze

【概要と選定理由】

多年生の浮葉性水草。全国的にも愛知県でも減少傾向の著しい植物で，国のレッドリストでは NT，県のレッドデータブックでは EN とされている。近年明らかに移入と思われるものがため池，水路等に投棄または植栽される事例があり，分布情報の攪乱が懸念される。

【形　態】

根茎は底土中を長くはい，長い水中茎を出す。葉は互生し，長い柄があり，葉身は水面に浮かび，卵形または円形，直径 2～10cm，辺縁には通常波状の歯牙があり，表面は緑色，裏面は紫褐色，基部は深く湾入し，葉柄はやや楯状につく。花期は 7～9 月，花は対生状についた葉の葉腋に束生し，長さ 4～10cm の柄があり，水上に出て咲き，花冠は黄色で直径 3～4cm，5 深裂し，辺縁に顕著な毛がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

ユーラシアの温帯に広く分布する。

【国内の分布】

北海道，本州，四国，九州に自生。

【県内の分布】

東：豊川市（瀧崎 22992，2007-6T）。**西**：岡崎市南部（芹沢 87337, 2011-9）。**尾**：尾張旭市（村松正雄 25263，2010-7），名古屋市南西部（高木順夫 20485，2011-10）。在来個体群は愛知県では海部南部のみで確認されている（愛知県 2009）。

【生育地の環境／生態的特性】

岡崎市と尾張旭市は緩やかな流れの小水路，名古屋市は公園内の大きなため池である。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地				
水 域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

本種は絶滅危惧種として昔からよく注意されているが，豊川市，岡崎市，尾張旭市，名古屋市とも過去の記録はない。移入はいずれも最近のことと思われる。豊川市のものは，東三河ふるさと公園に移入されたものである。岡崎市では数 m 四方の群落が点在していたが，水路の浚渫によってほぼ除去される見込みである。

【被害状況／駆除策と留意点】

現在のところ直接的な被害は発生しておらず，また愛知県の在来個体群は現在のところ開花が確認されていないので，直接遺伝的な攪乱が生じる可能性も低い。しかし，在来個体群と同所に投棄されれば，あるいはそこまで分布を拡大すれば，在来個体群に壊滅的な打撃を与える可能性が高い。どれが真に保全すべき個体群かわからなくなってしまうという点でも，生物多様性に与える影響は深刻である。絶滅危惧種は，栽培するならば植物園等で厳重な管理の下に行うべきであり，みだりに野外に植栽・播種するような行為は絶対に慎むべきである。

【特記事項】

岡崎市では同所にミズアオイ（国 NT，県 CR）も多量に生育していたが，これも移入の可能性が高い。また豊田市では，やはり移入の可能性が高いヒシモドキ，サンショウモ，デンジソウが小池に繁茂している事例もある。

【引用文献】

愛知県(2009) p.220.

【関連文献】

北村四郎ほか, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I p.213. 保育社, 大阪, 平草IIIp.36, 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.140. 文一総合出版, 東京.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

オオフタバムグラ　*Diodia teres* Walter

【概要と選定理由】

1 年生草本。河川敷の砂地や海岸などに多く生育する植物で，国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

茎は下方で分枝して開出，斜上，または直立し，長さ 15～60cm になり，細毛が密生する。葉は対生し，無柄，広線形～線状披針形，長さ 2～3.5cm，幅 2.5～4mm，先端は鋭頭で脈端が凸出誌，辺縁には短い剛毛がある。托葉は合着し，先は剛毛状の裂片となる。花期は 8～9 月，花は葉腋につき，ほとんど無柄，花冠は漏斗形で長さ 4～6mm，先端は 4 裂し，白色～淡紅色である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。アジア，オーストラリア，南アメリカなどに帰化している。

【国内の分布】

本州，四国，九州。

【県内の分布】

東：豊川市（小林元男 39077，1992-9），豊橋市北部（瀧崎 21624，2004-9T），田原市旧町域（小林元男 47131，1993-8），田原市（旧渥美町）（瀧崎 26071，2009-9T）。**西**：豊田市（旧藤岡町）（塚本威彦 1633，1995-8），豊田市旧市域東部（山崎玲子 679，1993-9），豊田市旧市域北西部（岡本英一 787，1958-8），豊田市旧市域南西部（芹沢 67742，1993-9），みよし市（臼井里華 724，1992-8），岡崎市旧市域北部（中西普佐子 169，1992-9），岡崎市旧市域南部（芹沢 67665，1993-8），幸田町（金子律子 1151，1995-9），刈谷市（芹沢・柴田みゆき 30，1987-9），安城市（中村さとこ 658，1993-8），碧南市（中村さとこ 591，1993-7），西尾市旧市域（芹沢 66778，1993-8）。**尾**：尾張旭市（村松正雄 454，1986-8），長久手市（伊藤恭子 569，1992-8），日進市（半田多美子 1307，1993-9），武豊町（岡本久美子 694，2000-8），常滑市（畑佐武司 213，1999-7），美浜町（芹沢 77602，2001-9），南知多町（大西博 128，1991-10）扶桑町（上山秀郎 401，1995-9），春日井市（太田さち子 765，1993-9），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 493，1993-9），名古屋市南東部（渡辺幸子 1137，1993-8），一宮市東部（芹沢 70400，1994-8），一宮市西部（渡辺幸子 1155，1993-8），稲沢市（渡辺幸子 6334，2011-10T），愛西市（芹沢 49733，1988-8），弥富町（伊藤静江 1115，1991-8）。新城市（旧鳳来町，旧市域）（小林 2000）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

海浜や河川敷の砂地，路傍の半裸地など他の植物が少ない場所に生育し，時に大きな群落を作る。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩			○	○
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本では昭和初期に東京近郊ではじめて確認された。現在では全国的に普通に見られる帰化植物になっている。愛知県でも平野部ではあちこちに生育している。

【被害状況／駆除策と留意点】

攪乱地だけでなく海岸や河川敷などより自然度の高い場所にも侵入する帰化植物であるが，既に定着した状態になっており，現実問題として根絶は困難である。

【特記事項】

同属のメリケンムグラ *D. virginiana* L.はより大形で葉も大きい。河川敷などでは本種と同様に目立つが，他の場所では少ない。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.133. 愛知県.

【関連文献】

北帰化 p.51，保帰化 p.93，平草IIIp.50，平帰化 p.161，農教 I p.229.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

アメリカネナシカズラ　*Cuscuta pentagona* Engelm.

【概要と選定理由】

1 年生のつる性寄生植物。在来の近縁種と異なり寄主を選ばず，様々な場所に生育する。国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

茎は針金状，太くても直径 1mm 程度，橙色，吸盤を出して他の植物にからみつく。葉は小さい鱗片状に退化する。花期は 6～10 月，花は短い集散花序につき，がくは半球形で先は浅く 5 裂し，花冠は広鐘形で白色，直径 2.5～3mm，筒部の内側に辺縁が毛状に裂ける鱗片がある。さく果は球形，直径 2.5～3mm である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。アジア，ヨーロッパなどに帰化している。

【国内の分布】

北海道，本州，四国，九州，琉球。

【県内の分布】

東：設楽町東部（芹沢 83050, 2008-8），豊川市（瀧崎 20844, 2003-6T），豊橋市北部（瀧崎 27273, 2010-11T），田原市（旧渥美町）（芹沢 73266, 1996-9）。**西**：豊田市（旧稲武町）（小林元男 47162, 1993-8），豊田市（旧足助町）（新井文子 972, 1994-9），豊田市（旧小原村）（塚本威彦 1336, 1994-9），豊田市（旧藤岡町）（塚本威彦 1575, 1995-7），豊田市旧市域東部（佐藤久美子 612, 1993-7），豊田市旧市域北西部（土場トシ子 351, 1993-8），豊田市旧市域南西部（落合鈴枝 88, 1992-9），みよし市（芹沢 62561, 1992-8），岡崎市旧市域北部（伊奈知子 1088, 1993-10），幸田町（壁谷重美子 943, 1994-9），刈谷市（中村裕治 1188, 1994-9），安城市（堀田喜久 3122, 1991-10），西尾市旧市域（芹沢 68753, 1993-10）。**尾**：瀬戸市（塚本威彦 2847, 1999-11），長久手市（伊藤恭子 716, 1992-9），日進市（半田多美子 562, 1992-8），東郷町（鬼頭弘 335, 1993-11），東浦町（中村裕治 1063, 1994-9），知多市（鳥居ちゑ子 2804, 2010-7），武豊町（岡田美之 1026, 1996-10），常滑市（畑佐武司 208, 1999-7T），美浜町（瀧崎 2898, 1979-9T），扶桑町（芹沢 67459, 1993-9），春日井市（太田さち子 753, 1993-9），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 34, 1992-7），名古屋市南東部（西川勇夫 176, 1992-7），名古屋市南西部（髙木順夫 354, 1992-8），一宮市東部（佐分康之 1201, 1996-9），一宮市西部（芹沢 60225, 1991-9），稲沢市（渡辺幸子 6280, 2011-7T），愛西市（山田茂貴 348, 1992-10），弥富町（竹原芳子 957, 1995-9）。豊根村（富山地区，旧村域），東栄町，設楽町津具地区（小林 2006），新城市（旧鳳来町，作手地区，旧市域）（小林 2000），蒲郡市（小林 2004）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍や畑地，海岸の砂浜や河川敷など，様々な場所に生育する。発芽時は子葉があるが，他の植物に接するとすぐに葉も根も失い，寄生生活を送るようになる。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩		○	○	○
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本では 1970 年代初めに東京近郊で気付かれた。現在では全国的にも愛知県でも普通に見られる帰化植物になっている。

【被害状況／駆除策と留意点】

既に帰化植物として定着した状態になっており，根絶は困難である。しかし，田原市中山町の西ノ浜では，ハマネナシカズラ（国 VU，県 EN）が生育するハマゴウ群落にアメリカネナシカズラが侵入して分布を拡げている。このような特定の場所については，直接的除去を試みる必要がある。

【特記事項】

マメダオシ *C. australis* R.Br.（国 CR，県 EX）は本種によく似ているが，花冠の裂辺が円頭で，筒部内側の鱗片は浅く 2 裂し，辺縁に小数の突起がある。愛知県では 1945 年に採集された標本があるが，その後採集されていない（愛知県 2009）。

【引用文献】

愛知県 2009. p.51.
小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.134. 愛知県.
小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.155. 東三河農林水産事務所.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.187. 愛知県林業試験研究推進協議会.

【関連文献】

保帰化 p.161，平草IIIp.58，平帰化 p.161，農教 I p.240.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

シチヘンゲ　*Lantana camara* L.

【概要と選定理由】

ややつる性の小低木。園芸植物として広く植栽される。栽培されているものの花色はさまざまだが，逸出帰化するのは主に桃色の系統である。国の要注意外来生物とされており，世界の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

茎は長く伸び，多少下向きの刺があり，分枝して斜上し，高さ 1m 程度になる。葉は対生し，長さ 1～2cm 柄があり，葉身は卵形～卵状長楕円形，長さ 5～10cm，幅 3～5cm，先端は鋭頭～鋭尖頭，辺縁には鋸歯があり，表面はしわが多く粗毛がある。花期は 6～11 月，長さ 2～8cm の柄の先に多数の筒状花からなる直径 2～4cm の頭状花序をつける。花は筒部の長さ約 1cm，先は 4～5 裂して平開し，直径 6～8mm，花序の外側から咲き始め，最初はオレンジ色～黄色，徐々に赤色～淡紅色に変化する。果実は球形で直径約 3mm，液質で黒熟する。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ南部～熱帯アメリカ。旧世界の熱帯，亜熱帯域に広く帰化している。

【国内の分布】

本州，四国，琉球，小笠原。

【県内の分布】

東：豊橋市南部（瀧崎 27031，2010-8T），田原市（旧渥美町）（瀧崎 26074，2009-9T）。**西**：豊田市旧市域東部（中西普佐子 1036，1993-7）。**尾**：知多市（鳥居ちゑ子 2828，2010-10T），半田市（岡本久美子 507，2000-7），常滑市（畑佐武司 241，1999-7T），岩倉市（竹下希望 1296，2010-9），清須市（芹沢 77904，2002-7），名古屋市北部（竹下希望 993，2010-8），名古屋市南東部（渡辺幸子 6042，2010-9T），名古屋市南西部（髙木順夫 19480，2010-10T），一宮市西部（渡辺幸子 6117，2010-10T）。豊川市，蒲郡市（小林 2004），西尾市（旧一色町），南知多町（小林・深谷 2008）からも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍や人家の垣根沿い，川岸の土手などに多い。路面間隙雑草的になり，ガードレールの基部のわずかなすき間で大きな株になっていることなどもある。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩			○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

花壇によく植栽される植物で，栄養生殖的に逃げ出すものと，果実を鳥が食べることによって逸出するものとがある。淡紅色系統のものが特によく果実を付け，そのため逸出しているものはこの色が圧倒的に多い。

【被害状況／駆除策と留意点】

沿海部の林縁等に侵入すると在来種に影響を与えるおそれがあるが，現在のところ愛知県内での生育地はほとんどが市街地の路傍等である。

【特記事項】

開花中に花色が変化することからシチヘンゲ（七変化）と呼ばれる。トゲナシランタナと呼ばれることもある。茎に下向きの棘が多いランタナ *L. camera* L. var. *aculeata* (L.) Moldenke も栽培され，一部の県で帰化が報告されている。

【引用文献】

小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.156. 東三河農林水産事務所.
小林元男・深谷昭登司. 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.256. 佐久島会，刈谷.

【関連文献】

平木本Ⅱp.210，農教Ⅰp.262.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

アレチハナガサ　*Verbena brasiliensis* Vell.

【概要と選定理由】

細いが大形の多年生草本。平野部の河川堤防や河川敷，路傍の空き地などに帰化し，旺盛な繁殖力で拡がっている。絶滅危惧種が多く生育する河川敷の低湿地にも侵入する帰化植物で，その点で特に自然生態系に対する影響が大きいことから，詳細情報を記述する種として選定した。

【形　態】

茎は直立し，四角柱状，上向きの剛毛があり，高さ 80～150cm になる。葉は対生し，菱状長楕円形～倒卵状長楕円形，長さ 4～10cm，幅 0.7～2.5cm，先端は鋭尖頭，辺縁は中条部に鋭い鋸歯があり，基部は次第に狭くなって多少柄状になることもある。花期は 6～9 月，花序は枝先につき，長さ 1～2cm で穂状，花は密につき，花冠は紅紫色，長さ 4mm 程度である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は南アメリカ。おそらく旧世界の熱帯～温帯域に広く帰化していると思われる。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：豊川市（加藤等次 1741，1992-8），豊橋市北部（瀧崎 21034，2003-10T），豊橋市南部（瀧崎 14417，1993-6T）。**西**：豊田市（旧藤岡町）（日比野修 2983，1995-7），豊田市旧市域東部（山崎玲子 910，1994-8），豊田市旧市域北西部（畑佐武司 4042，2002-6），豊田市旧市域南西部（畑佐武司 2014，2001-6T），みよし市（芹沢 81090，2006-9），刈谷市（中村裕治 617，1994-5），碧南市（芹沢 81606，2007-6），西尾市（旧一色町）（中根幸司 1279，2007-6）。**尾**：知多市（芹沢 73350，1996-10），半田市（岡本久美子 487，2000-7），大口町（福岡義洋 5036，2000-10），江南市（竹下希望 604，2010-6），春日井市（太田さち子 469，1993-8），岩倉市（芹沢 70714，1994-9），北名古屋市（竹下希望 644，2010-6），清須市（芹沢 77908，2002-7），名古屋市北部（鈴木秀樹 2681，1996-6），名古屋市南東部（渡辺幸子 422，1992-7），名古屋市南西部（瀧崎 24519，2008-8T），一宮市東部（芹沢 60239，1991-9），一宮市西部（伊藤静江 1250，1991-9），稲沢市（芹沢 49739，1988-8），あま市（芹沢 85930，2010-6），愛西市（芹沢 60197，1991-9），蟹江町（永田晴美 587，1994-5），弥富市（畑佐武司 186，1999-6T）。新城市（旧鳳来町，旧市域）（小林 2000），蒲郡市（小林 2004），田原市（旧町域，旧赤羽根町，旧渥美町）（小林 2002）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

河川敷や埋立地，路傍の荒れ地に群落を形成する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草・岩			○	
湿 地			○	
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本では 1950 年代末から各地で見られるようになった。県内各地の河川の土手や河川敷，路傍の荒れ地などに生育している。場所によっては純群落を形成している。

【被害状況／駆除策と留意点】

河川の土手や河川敷，荒れ地に侵入して優占群落を形成する。多年生のため，一度定着すると駆除は容易でない。

【特記事項】

愛知県の河川敷等には，本種と混生して全体に細く，花序が長くて果時に長さ 10cm 近くになり，花がややまばらにつく植物が広く生育しており，ヒメアレチハナガサと仮称されている。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.135. 愛知県.
小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.137. 東三林業振興会.
小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.156. 東三河農林水産事務所.

【関連文献】

北帰化 p.75，保帰化 p.141，平帰化 p.168-169，農教Ⅰ p.265.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ヨウシュチョウセンアサガオ　*Datura stramonium* L.

【概要と選定理由】

大型の 1 年生草本。全草，特に種子にアルカロイドを含み，有毒である。近縁種を含めて，属全体が国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

茎は分枝して，高さ 30～100cm になる。葉は互生し，長さ 2～6cm の柄があり，葉身は長楕円形～卵形，長さ 10～18cm，幅 5～15cm，先端は鋭尖頭，基部はくさび形～切形で左右不相称，辺縁に数個の大きい鋸歯があるか，羽状に中裂し，ほとんど無毛か裏面脈上にまばらに毛がある。花期は 7～10 月，花柄は長さ 5～10mm，がくは筒形で長さ 3～5cm あり，花冠は淡紫色で漏斗形，長さ 7～10cm である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は熱帯アメリカと言われるが，現在では旧世界の熱帯～暖帯に広く帰化している。

【国内の分布】

北海道～九州。

【県内の分布】

東：蒲郡市（井上美保子 914，1993-6），豊橋市北部（芳山朋子 1358，1984-11）。**西**：豊田市旧市域北西部（山崎玲子 984, 1994-12）。**尾**：瀬戸市（芹沢 76321，1999-9），東浦町（中村裕治 1092，1994-9），東海市（岡島錦也 467, 1992-9），岩倉市（鈴木幸子 294，1992-10），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 951，1995-7），一宮市西部（渡辺幸子 1385，1993-10）。設楽町旧町域（小林 2006），新城市（旧鳳来町，旧市域）（小林 2000），田原市（旧赤羽根町，旧渥美町）（小林 2002），南知多町（小林・深谷 2008）などからも記録されている。果実に刺がないものはハリナシチョウセンアサガオ var. *inermis* (Juss. ex Jacq.) Schinz et Thell. と呼ばれ，**尾**：東海市（岡島錦也 467，1992-8），名古屋市南東部（渡辺幸子 1408，1993-10）で確認されている。

【生育地の環境／生態的特性】

攪乱された荒れ地などに生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草・岩			○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

明治初期に薬用および観賞用として導入されたものが逸出して拡がったという。愛知県では時に小群落を作ることもあるが，一般的には散発的に出現する程度である。

【被害状況／駆除策と留意点】

生育地は攪乱地に限られており，現在のところ被害が問題になるほどの量も生育していない。少なくとも最近約 20 年間はそれほど増加しないまま推移しており，今後爆発的に増加するおそれも少ないように思われる。

【特記事項】

花が白色のシロバナチョウセンアサガオを区別すれば，シロバナチョウセンアサガオが f. *stramonium*，ヨウシュチョウセンアサガオが f. *tatula* (L.) Dabert.になる。シロバナチョウセンアサガオは**東**：田原市旧町域（小林 2002）で記録されている。

同属のケチョウセンアサガオ *D. innoxia* Mill.は茎や葉に短毛が密生し，花が白色で大きいもので，原産地は北アメリカ，日本へは明治時代に観賞用に導入された。愛知県では，**東**：豊川市旧市域（瀧崎 16045, 1996-8），**西**：知立市（白井直子 200，1996-8），安城市（堀田喜久 493, 1993-7），**尾**：日進市（半田多美子 1650, 1994-7），東海市（岡島錦也 469, 1992-7），半田市（岡本久美子 566, 2000-7），常滑市（鳥居ちゑ子 1851, 2000-9），江南市（竹下希望 1574, 2010-10），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 1152, 1996-9），名古屋市南東部（渡辺幸子 2734, 1996-9）で確認されているが，稀である。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.140. 愛知県.
小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.140. 東三林業振興会.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.192. 愛知県林業試験研究推進協議会.
小林元男・深谷昭登司. 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.258. 佐久島会，刈谷.

【関連文献】

北帰化 p.61，保帰化 p.114，平帰化 p.176，農教 I p.278.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ワルナスビ　*Solanum carolinense* L.

【概要と選定理由】

多年生草本。畑地の雑草となるほか空き地，道路わきの植え込みの間などに生育し，栄養的によく繁殖する。鋭い刺を持つ，やっかいな雑草である。国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

茎は分枝して斜上し，高さ 30～70cm になり，黄色の鋭い刺を散生する。茎の表面には小さな星状毛があり，長毛があるものもある。葉は互生し，長さ 1～2.5cm の柄があり，葉身は楕円形～やや長い卵形, 長さ 6～15cm, 幅 3～9cm, 先端は鋭頭～鈍頭, 辺縁には 2～3 個の大きな鋸歯があり，表裏とも脈上に鋭い刺がある。花期は 6～9 月，花序は長さ 6～11cm の散房状，枝先につくが仮軸分枝するので腋生するように見える。花は直径約 2cm，花冠は杯形で白～淡紫色，中央に花柱があり，雄ずいは花柱に沿う。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。現在では世界各地に帰化している。

【国内の分布】

北海道，本州，四国，九州，琉球。

【県内の分布】

東：設楽町旧町域東部（瀧崎 24476，2008-8T），新城市作手地区（小林元男 53729，1994-9），新城市旧市域（加藤等次 1486，1992-6），豊川市（瀧崎 25786，2009-8T），豊橋市北部（瀧崎 s.n.，1979-6），豊橋市南部（瀧崎 24211，2008-7T），田原市（旧渥美町）（瀧崎 24185，2008-7T）。**西**：豊田市（旧稲武町）（瀧崎 22586，2006-9），豊田市（旧足助町）（新井文子 826，1994-7），豊田市（旧小原村）（塚本威彦 1154，1994-6）豊田市（旧藤岡町）（日比野修 2888，1995-6）豊田市旧市域東部（山崎玲子 188，1992-8），豊田市旧市域北西部（山崎玲子 102，1992-6），豊田市旧市域南西部（落合鈴枝 10，1992-6），みよし市（臼井里華 468，1992-6），岡崎市旧市域南部（本多さおり 541，1994-7），幸田町（金子律子 865，1995-7），刈谷市（堀田喜久 434，1993-6），知立市（白井直子 45, 1993-9), 安城市（堀田喜久 434, 1993-6), 西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 609, 1994-6)。**尾**：瀬戸市（日比野修 1418，1993-7），長久手市（半田多美子 303，1992-6），豊明市（浅野守彦 526，1999-7），東浦町（渡邉麻子 604，1995-7），大府市（竹田弘光 200，1994-6），東海市（加藤雅憲 346，1996-6），阿久比町（渡邉麻子 512，1995-6），武豊町（芹沢 66443，1993-7），常滑市（梅田零奈 456，2000-6），美浜町（大西博 852，1992-8），犬山市（平嶋敏 737，1989-7），扶桑町（上山秀郎 196，1993-9），江南市（竹下希望 496，2010-6），小牧市（田坪明子 110，1993-7），春日井市（太田さち子 155，1993-6），岩倉市（竹下希望 813，2010-7），清須市（鈴木幸子 575，1993-10），名古屋市北部（沢井輝男 s.n.，1957-8），名古屋市南東部（中島ひろみ 141，1992-6），名古屋市南西部（一井尚子 91, 1993-10），一宮市西部（渡辺幸子 2266, 1995-7T），稲沢市（越石茂成 38, 1949-9），津島市（石榑弓恵 334，1998-6），愛西市（鈴木秀樹 2744，1996-6）。豊根村旧村域，東栄町，設楽町津具地区（小林 2006）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

概要の項参照。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩		○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

明治時代末に，千葉県に牧草に混じって入ったと言われる。上田（1964）は，「愛知県内では名古屋港，豊橋市にあり，終戦直後には稲沢市にも生育していた」と報告している。

【被害状況／駆除策と留意点】

刺が鋭いため，畑や牧草地の害草になる。除草の際に手を痛める危険がある。

【特記事項】

ラシャナス *S. elaeagnifolium* Cav.は茎や葉に刺がほとんどなく，星状毛を密生する。愛知県では**尾**：大治町（芹沢 42005, 1985-9）で記録されている。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.193. 愛知県林業試験研究推進協議会.
上田　豊. 1964. 愛知県西三河の帰化植物（続報）. 植物研究集録(8): 4-12.

【関連文献】

北帰化 p.64, 保帰化 p.118, 平草Ⅲp.98, 平帰化 p.181, 農教Ⅰp.285.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ハビコリハコベ　*Glossostigma elatinoides* (Benth.) Benth. ex Hook.f.

【概要と選定理由】

小型の多年生草本。アクアリウムの前景草として，「グロッソスティグマ」の園芸名で流通している。陸生型はパッチ状の密生群落を形成し，地表を完全に覆い，同所に生育する 1 年生植物の存続に影響を与える可能性が高い。現在のところ生育地は限られているが，今後他の場所に投棄されるおそれがあることから，予防的な意味で愛知県の条例公表種に選定された。

【形　態】

茎は細く，地表を長く這って分枝し，密集した群落を作る。葉は対生し，長さ 2～10mm の柄があり，葉身は楕円形～倒卵形，長さ 2～5mm，幅 1～2.5mm，先端は円頭，辺縁は全縁，無毛，やや肉質で光沢のある濃緑色である。水中葉は細長いさじ形で，陸上葉よりも薄く，長さ 20mm 程度になる。花期は 7～11 月，花は葉腋に 1 個ずつつき，長さ 3～5mm の柄があり，花冠は白色で 5 裂し，直径 2～3mm である。

ハビコリハコベ　田原市　2008 年 10 月　瀧崎撮影

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はオセアニア。

【国内の分布】

広く栽培されるが，野外で確認されているのは現在のところ愛知県だけである。

【県内の分布】

東：田原市（旧渥美町）（瀧崎 24934, 2008-10）。

【生育地の環境／生態的特性】

浅い水中や，水が引いてできる水辺湿地に生育する。陸生型になるが，完全に乾いた環境では生育できない。地下茎は切れやすく，切れた断片が発根して栄養的に繁殖する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地			○	
水 域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

国内では現在のところ，田原市の初立池だけに野生化している。おそらくアクアリウムの管理をしきれなくなった何者かが投棄したか，あるいは意図的に植え込んだものと思われる。一時期池の全周を覆いつくすほどに繁殖したが，2011 年に池の耐震工事のため水を落としたところ，乾燥に耐えられず激減した。完全に絶滅してくれることを期待したが，湧水がある場所や土壌が水を含みやすい場所でしぶとく生き残っている。また水が増えれば，勢力を拡大すると予想される。

【被害状況／駆除策と留意点】

初立池の周囲には何カ所かの湧水があり，秋期水が引いたときにクロホシクサ（国 VU，県 VU），スズメノハコベ（国 VU，県 NT），ミズニラ（国 NT，県 NT）などの絶滅危惧種やその他の稀少な湿地性植物が生育する。このような小型の 1 年生植物は，多年草で沈水状態でも生育できるハビコリハコベが先に密生した群落を形成してしまうと，種子の発芽や幼植物の生長が阻害される可能性が高い。直接的な除去は細い根茎が残存するため効果が薄く，また他の在来種に悪影響を与えるおそれもある。水管理によって生育を抑制すると共に，初立池以外の場所に投棄されないよう，啓発に努めることが重要である。

【関連文献】

農教Ⅱp.358-359.

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

オオカワヂシャ　*Veronica anagallis-aquatica* L.

【概要と選定理由】

水辺に生育する冬型１年生草本。在来種のカワヂシャ（国 NT）に似ており，また同じような場所に生育するが，より大形で繁殖力も旺盛である。比較的自然度の高い低湿地的環境に侵入することから，生物多様性への影響が懸念される。国の特定外来生物に指定されている。

【形　態】

茎は直立または斜上し，大きいものは高さ 1m に達する。葉は対生し，無柄で茎を抱き，長楕円形，長さ 4～8cm，幅 1～2cm，先端は鋭頭～鈍頭，両面無毛，辺縁の鋸歯は目立たない。花期は 4～7 月，茎の上部の葉腋から長さ 8～15cm の総状花序を出し，多数の花をつける。花冠は青紫色，皿形で深く 4 裂し，直径 6～8mm である。蒴果は球形，残存花柱は長さ 2～3.5mm である。

【分布の概要】

【世界の分布】

ユーラシア大陸北部に広く分布する。

【国内の分布】

本州，四国，九州。

【県内の分布】

尾：春日井市（山田果与乃 1551, 2010-5），名古屋北部（鳥居ちゑ子 2688, 2009-4）。愛知県では庄内川の下流部に生育している。木曽三川下流部では，岐阜県側には生育しているが，愛知県側では現在のところ確認されていない。豊根村富山地区（小林 2006）からも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

湿地に生育し，特に河川敷に多い。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地			○	
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本への侵入時期ははっきりしないが，昭和初期にはすでに神奈川県などで帰化していたという。近年全国各地の河川などで著しく増加し，水辺に大きな群落を形成している。愛知県の場合，庄内川では 2000 年頃から確認されるようになった。しかし，その後も個体数は少ない状態で推移しており，爆発的に増加するという状況にはなっていない。

【被害状況／駆除策と留意点】

愛知県では現在のところあまり多くなく，特段の環境影響は生じていない。しかし今後急激に増加する可能性もあり，その点で注意が必要である。

【特記事項】

在来のカワヂシャに比べ全体に大きく，花はオオイヌノフグリに似て大きく青紫色である。葉縁の鋸歯は小さくてほとんど全縁に見え，この点で花がない時期でも識別できる。カワヂシャとの間に雑種を作ることが知られている。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.195. 愛知県林業試験研究推進協議会.

【関連文献】

平帰化 p.189-190, 農教Ⅰp.300-301.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ヤセウツボ　*Orobanche minor* Sm.

【概要と選定理由】

1 年生の寄生植物。マメ科，セリ科，キク科などさまざまな草本に寄生する。国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

茎は 1～数本が束生し，高さ 15～40cm，黄褐色～茶褐色で腺毛を密生し，基部はふくらんでやや塊状になる。葉は互生し，鱗片状で広披針形，長さ 1～1.5cm，茎と同色で葉緑素を欠く。花期は 4～6 月，花は茎の上半部に 15～40 個が長い穂状につき，苞葉は葉と同形，花冠は筒状でやや下方に曲がり，長さ 13～17mm，先端は上下二唇に分かれ，淡黄色で紫色の条や斑点がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ。現在ではアジア，アフリカ，アメリカなどに帰化している。

【国内の分布】

本州，四国。

【県内の分布】

西：刈谷市（芹沢 86733, 2011-4）。**尾**：春日井市（山田果与乃 1670，2011-5），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 2455，2005-5），名古屋市南西部（伊藤聡志 s.n.，1982-5）。豊橋市北部にもあるというが，標本が確認できない。

【生育地の環境／生態的特性】

土手の草地や公園の芝生などに生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草・岩			○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本では 1937 年に千葉県で確認されたのが最初の記録である。愛知県では 1980 年頃やや目についたが，その後ほとんど見られなくなった。しかし最近になって，再びところどころで見かけるようになっている。

【被害状況／駆除策と留意点】

アフリカではマメ科作物に寄生して大きな被害を与えているという。しかし愛知県では現在のところ点在する程度で，被害が問題になるほどの量は生育していない。

【特記事項】

在来種のオカウツボ *O. coerulescens* f. *nipponica* は花が淡紫色で茎などに腺毛がない。愛知県では 1967 年に安城市の矢作川堤防で採集された標本があるだけで，その後確認されていない。海浜性のハマウツボ f. *coerulescens* は渥美半島に生育しているが，これも極めて稀（国 VU，県 EN）である（愛知県 2009）。

【引用文献】

愛知県 2009. p.235.

【関連文献】

北帰化 p.56，保帰化 p.101，平草Ⅲp.135-136，平帰化 p.192-193，農教Ⅰp.305.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

オオバナイトタヌキモ　*Utricularia gibba* L.

【概要と選定理由】

多年生で沈水性の繊細な食虫植物。在来種のミカワタヌキモ（イトタヌキモ）*U. exoleta* R.Br.（国:VU，県:EN，愛知県 2009 参照）によく似ており，両者を同一種内の変種関係にあると考える人もいる。ミカワタヌキモの自生地に侵入すれば当然競合・圧迫が考えられるが，別の場所にあるだけでも保全上困難な問題が生じる。

【形　態】

茎は糸状で底土上をはい，捕虫嚢をつけた地中葉で固着するが，水中を浮遊することもある。水中葉はまばらに互生し，長さ 1cm 程度，1～3 個の裂片に分かれ，まばらに捕虫嚢をつける。裂片は幅 0.1～0.2mm である。花期は 8～10 月，高さ 6～10cm の花茎を水上に伸ばし，1～2 個の花をつける。花冠は黄色で直径約 1cm，距は前向きで通常下唇よりやや長い。

【分布の概要】

【世界の分布】

東南アジア，オーストラリア，アフリカ，アメリカ大陸。

【国内の分布】

記録は少ないが，おそらくところどころで逸出しているものと思われる。

【県内の分布】

東：田原市（旧渥美町）（瀧崎 26069, 2009-9T）。**西**：豊田市旧市域東部（畑佐武司 2249, 2001-8），岡崎市旧市域北部（杉田一記 2321, 2011-9）。**尾**：尾張旭市（村松正雄 22239, 2004-8），豊明市（浅野守彦 2150，2009-9），阿久比町（林彰一 536，1990-8），常滑市（中井三従美 40，1988-9），名古屋市南東部（浜島繁隆 s.n.，1970-9）。岡崎市南部にも生育しているという。

【生育地の環境／生態的特性】

浅い丘陵地のため池に生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地				
水 域		○		

【侵入の経緯／現在の生育状況】

食虫植物マニアの手によって，おそらくは意図的に投棄されたのではないかと思われる。名古屋市南東部（天白区天白町）では 1968 年 8 月から見られたが，これが国内で野生状態が確認された最初の記録と思われる（浜島氏私信）。

【被害状況／駆除策と留意点】

ミカワタヌキモは花が直径 5～6mm であるが，それ以外の点では本種に大変よく似ていて，花がなければ識別は困難である。そのため，ミカワタヌキモの自生地に本種が侵入すれば，選択しての除去はほとんど不可能である。また，この類の自生地が新たに発見されても，花がなければオオバナイトタヌキモかミカワタヌキモか判別がつかず，保全の対象とすべきかどうかの判断もできない。このように，絶滅危惧種に極めてよく似た移入種は，「ある」というだけで大変厄介である。

【引用文献】

愛知県 2009. p.236.

【関連文献】

農教Ⅱp.238, 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.153. 文一総合出版, 東京.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ヘラオオバコ　*Plantago lanceolata* L.

【概要と選定理由】

2 年生または多年生の草本。全国的に最も普通に見られる帰化植物の一つで，国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

根茎は太く，葉を束生する。葉は通常立ち上がり，葉身は線形～長楕円形，長さ 8～25cm，幅 0.8～4cm，平行する 3～5 脈があり，先端は鋭頭，辺縁は全縁，基部は次第に狭くなって葉柄に移行する。花期は 4～8 月，花茎は長さ 20～80cm で，先端に長さ 1.5～6cm の穂状花序をつける。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ。現在は世界中に帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：豊根村旧村域（加藤等次 3258, 1993-7），新城市（旧鳳来町北東部）（加藤等次 1607, 1992-7），豊川市（瀧崎 19553, 2002-5T），蒲郡市（鈴木美恵子 507, 1993-7），豊橋市北部（瀧崎 2088, 1979-7T），豊橋市南部（瀧崎 6997，1982-5T）。**西**：豊田市（旧稲武町）（塚本威彦 2403，1997-8），豊田市(旧旭町)（日比野修 1351，1993-6），豊田市（旧足助町）（新井文子 928，1994-8），豊田市（旧小原村）（日比野修 2544，1994-9），豊田市(旧藤岡町)（日比野修 2889，1995-6），豊田市旧市域東部（山崎玲子 390，1993-4），豊田市旧市域北西部（畑佐武司 3286，2002-4T），豊田市旧市域南西部（石川敏 38，1992-5），みよし市（臼井里華 252，1992-4），岡崎市旧市域北部（中西普佐子 457，1993-4），岡崎市旧市域南部（堀田喜久 288，1991-6），幸田町（壁谷重美子 293，1994-4），安城市（堀田喜久 392，1993-5），高浜市（芹沢 69992，1994-6），西尾市旧市域（芹沢 64866，1993-5）。**尾**：長久手市（半田多美子 1152, 1993-6），日進市（伊藤恭子 191, 1992-4），豊明市（浅野守彦 1184, 2002-3），大府市（竹田弘光 87, 1993-5），東浦町（中村裕治 282, 1994-4），知多市（加藤雅憲 1190, 1997-5），半田市（岡本久美子 120，2000-4），常滑市（鳥居ちゑ子 1610，1999-6），犬山市（竹下希望 240，2010-5），扶桑町（福岡義洋 3143，1995-5），春日井市（太田さち子 124，1993-6），豊山町（鈴木幸子 439，1993-5），岩倉市（竹下希望 329，2010-5），北名古屋市（竹下希望 1180，2010-8），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 15，1992-6），名古屋市南東部（渡辺幸子 147，1992-4），名古屋市南西部（鶴岡佐知子 363，1993-6），一宮市東部（塚本威彦 2613，1998-5），一宮市西部（渡辺幸子 840，1993-4），稲沢市（水野峰子 23，1992-6），愛西市（伊藤静江 365，1991-4），弥富市（竹原芳子 894，1995-6）。設楽町（旧町域）（小林 2006），田原市（旧町域，旧赤羽根町，旧渥美町）（小林 2002）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍や河原などの陽地に生育する。路面間隙に生育することもある。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩		○	○	○
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本には江戸時代末期に渡来したといわれ，現在では全国的に普通に見られる雑草となっている。要注意外来生物とされているが，近年特に増加しているわけではない。

【被害状況／駆除策と留意点】

愛知県ではやや普通に見られる帰化植物であるが，自然度の高い場所には侵入しない。生育地が攪乱地に限られるので，在来植物への影響は限定的と思われる。

【引用文献】

小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.143. 東三林業振興会.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.197. 愛知県林業試験研究推進協議会.

【関連文献】

北帰化 p.54, 保帰化 p.96, 平草IIIp.142, 平帰化 p.194, 農教 I p.307.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

タカネマツムシソウ　*Scabiosa japonica* Miq. var. *alpina* Takeda

【概要と選定理由】

本来は高山～亜高山の草地に生育する 2 年生草本。競合により在来のマツムシソウ var. *japonica*（県:NT，愛知県 2009 参照）を圧迫するだけでなく，遺伝的汚染を引き起こす可能性もある。愛知県の条例公表種である。

【形　態】

在来のマツムシソウによく似ているが，ロゼット葉の切れ込みが深い。高山に生育するものはマツムシソウに比べ丈が低くなり，花も大きいが，亜高山帯の草原に生育するものはマツムシソウとほぼ同じ高さに育つ。花の大きさにも変異があり，花や茎葉での識別はかなり難しい。開花期は 8～9 月である。

【分布の概要】

【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有である。

【国内の分布】

本州および四国の高山に分布する。亜高山帯の草地にも生育している。

【県内の分布】

西：豊田市（旧稲武町）面の木峠（芹沢 84347, 2009-7）。設楽町の碁盤石山にもタカネマツムシソウらしい植物が生育している。

【生育地の環境／生態的特性】

マツムシソウと同様，山地の日当たりのよい草地に生育する。発芽した個体は1年目には根出葉だけを出し,2年目に開花する。同じ場所で栽培すると，マツムシソウに比べ，開花期がやや早い傾向がある。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩	○			
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

面の木峠では，マツムシソウはもともとそれほど多い植物ではなかった。15 年ほど前にこの集団の遺伝的解析を行った金沢大学の須山知香氏によれば，当時は全てマツムシソウで，タカネマツムシソウはなかったという。その後花の時期に眺めてマツムシソウがやたらに増加したと思っていたが，2009 年にロゼット葉を確認したところ，タカネマツムシソウが多量に混生していることが判明した。おそらくは何者かが，きれいなマツムシソウをたくさん咲かせようと思って意図的に播種した結果と思われる。

【被害状況／駆除策と留意点】

2009 年の調査では，形態的に判別が難しい個体もあり，在来個体群に対する遺伝的汚染が懸念された。そのため県の条例公表種に指定し，2011 年 7 月に市民の協力を得て除去作業を行ったが，抜き取った植物は軽トラック 1 台分になった。マツムシソウが生育している草地はそれほど広い面積ではないので，何回か作業を繰り返せば，根絶は可能と思われる。

【特記事項】

自然は庭園ではない。どのような花でもきれいにたくさん咲いていればよいというものではない。「ない」というのは生物多様性の重要な要素で，その「ない」状態を破壊する持ち込みは，自然に対する重大な破壊行為である。自然の中への播種は，原則として絶対に行ってはならない。

しかし現実には，2011 年の除去作業についても，「きれいで，毎年楽しみにしていた。抜かなくてもよかったのではないか‥‥」と批判の声が少なくなかったと聞いている。生物多様性保全に関する合意形成は，なかなか難しい。

【引用文献】

愛知県 2009. p.583.

【関連文献】

平草IIIp.148.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ブタクサ　*Ambrosia artemisiifolia* L.

【概要と選定理由】

1 年生草本。全国的に最も普通に見られた帰化植物の一つで，風媒花で多量の花粉を放出し，それがアレルギーの原因になる。国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

茎は直立し，多少枝を分け，高さ 1m程度になる。葉は茎の下部では対生して長い柄があり，上部では互生してほとんど無柄，葉身は三角状卵形で長さ 5～15cm，2 回羽状深裂する。花期は 8～10 月, 雄花序群は枝の先端について長さ 6～20cm の穂状になり, 頭花は多数ついて直径 2～3mm, 下向きに咲く。雌性頭花は雄花序群の下の葉腋に 2～3 個つく。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。現在では世界中の温帯域に帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：設楽町津具地区（芹沢 86211，2010-9），豊橋市北部（瀧崎 4583，1980-8T），田原市（旧渥美町）（瀧崎 24724，2008-9T）。**西**：豊田市（旧稲武町）（瀧崎 11088，1989-8），豊田市（旧旭町）（塚本威彦 797，1993-9），豊田市（旧足助町）（鈴木万里亜 948，1995-9），豊田市(旧小原村)（日比野修 2481，1994-8），豊田市（旧藤岡町）（山崎玲子 953，1994-9），豊田市旧市域東部（山田初代 1041，1991-9），豊田市旧市域北西部（土場トシ子 355，1993-5），豊田市旧市域南西部（中村裕治 934, 1994-9), みよし市（臼井里華 675, 1992-8), 岡崎市旧市域北部（中西普佐子 138, 1992-7), 岡崎市旧市域南部（中村さとこ 712，1993-8），幸田町（金子律子 1346，1995-10），刈谷市（柴田みゆき 204, 1987-9), 安城市（堀田喜久 1881, 1992-8), 西尾市旧市域（中村さとこ 698, 1993-8)。**尾**：日進市（芹沢 62713, 1992-8), 東郷町（鬼頭弘 167, 1992-8), 大府市（竹田弘光 163, 1993-10), 東浦町（渡邉麻子 742, 1995-9), 知多市（加藤雅憲 599, 1996-8), 武豊町（岡本久美子 698, 2000-8), 美浜町（相羽福松 162，1979-8），犬山市（芹沢・松田ちか子 171，1986-9），扶桑町（芹沢 67433, 1993-9），小牧市（村瀬正成 930446，1993-8），春日井市（太田さち子 422，1993-8），岩倉市（水谷善彌 10617, 1992-9), 名古屋市北部（鳥居ちゑ子 136, 1992-9), 名古屋市南東部（渡辺幸子 482, 1992-8），名古屋市南西部（鶴岡佐知子 146，1992-9），一宮市東部（芹沢 60204，1991-9），一宮市西部（渡辺幸子 1231，1993-9），稲沢市（水野峰子 214，1993-8），愛西市（山田茂貴 604，1993-7），弥富市（芹沢 63450，1992-9)。豊根村（富山地区，旧村域），新城市（旧鳳来町，作手地区，旧市域）（小林 2000），豊川市（小林 2004）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍や埋立地などの荒れ地。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩	○	○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本には明治初期に渡来し，昭和になってから全国的に分布を拡げたが，近年では侵入してきたブタクサハムシによって食害され, 関東地方南部や西日本ではかなり少なくなった(田村ほか 2004)。愛知県では東部にはまだあまりブタクサハムシが蔓延しておらず，ブタクサを普通に見ることができるが，尾張部では探さないと見つからないほどに減少している。

【被害状況／駆除策と留意点】

全国的に一気に分布が広がり，花粉がアレルギーの原因となって非常に嫌われた。現在もアレルギーで苦しむ人が多い。生育地が攪乱地に限られるので，在来植物への影響は限定的と思われる。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.148. 愛知県.
小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.167. 東三河農林水産事務所.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.201. 愛知県林業試験研究推進協議会.
田村泰盛・服部　誠・今野浩太郎・本田　洋・河野義明. 2004. キク科植物におけるブタクサハムシ摂食刺激物質の分布と寄主選好性との関係. 日本応用動物昆虫学会誌 48:191-199.

【関連文献】

北帰化 p.3, 保帰化 p.81, 平草IIIp.162, 平帰化 p.198, 農教 I p.314.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

オオブタクサ　*Ambrosia trifida* L.

【概要と選定理由】

大形の 1 年生草本。ブタクサと同様風媒花で多量の花粉を放出し，それがアレルギーの原因になる。国の要注意外来生物とされており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

茎は直立し，上部で枝を分け，高さ 2m 以上になる。葉は対生して長い柄があり，よく育ったものでは葉身は掌状に 3～5 裂し，長さ，幅とも 25cm に達し，両面とも短毛があってざらつき，辺縁には細かい鋸歯がある。花期は 8～10 月，枝先にブタクサとよく似た総状花序をつけるが，ブタクサより長く，一つ一つの頭花もブタクサより大きい。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。現在では世界中の温帯域に帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：設楽町旧町域西部（塚本威彦 2560，1997-10），豊川市（小林元男 47662，1993-9），豊橋市北部（瀧崎 9686，1987-8）。**西**：豊田市（旧足助町）（新井文子 945，1994-9），豊田市旧市域東部（山崎玲子 956，1994-9），豊田市旧市域北西部（奥村富枝 3，1993-10），豊田市旧市域南西部（落合鈴枝 880, 1996-8), 岡崎市旧市域南部（中村さとこ 799, 1993-9), 刈谷市（芹沢 47296, 1987-10），安城市（堀田喜久 1869，1992-8），碧南市（芹沢 67545，1993-9），西尾市旧市域（中村さとこ 701，1993-8）。**尾**：瀬戸市（塚本威彦 8，1991-10），長久手市（半田多美子 631，1992-9），日進市（伊藤恭子 573，1992-8），東郷町（岡本沙矢香 528，2001-9），豊明市（浅野守彦 630，1999-9），知多市（加藤雅憲 664, 1996-9), 江南市（佐分康之 1015, 1996-8), 春日井市（太田さち子 598, 1993-8），清須市（水谷善彌 12024，1994-8），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 137，1992-9），名古屋市南東部（武藤靖子 235, 1992-9), 名古屋市南西部(鶴岡佐知子 202, 1992-10), 一宮市西部(芹沢 60192, 1991-9)，稲沢市（水野峰子 399，1994-10），大治町（芹沢 68119，1993-9）。豊根村（富山地区，旧村域），設楽町津具地区，豊田市（旧稲武町）（小林 2006），新城市作手地区（小林 2000），田原市旧町域（小林 2002）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

河川敷や埋立地など，湿り気のある荒れ地に多い。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩		○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本には 1950 年代はじめに渡来した。上田（1960）は，「1958～59 年に岡崎市愛知学芸大学農場の一隅に小群で生育しており，前後して知多常滑でも見た」と報告している。現在では愛知県でも平野部～丘陵地に普通に見られる。

【被害状況／駆除策と留意点】

植物体が大きく，休耕田などの湿地に入り込むと旺盛に繁殖して群落を形成する。低湿地の植物に影響を与えることが懸念される。ブタクサ同様，花粉がアレルギーを引き起こす。

【特記事項】

葉がクワに似ているため，クワモドキとも呼ばれる。幼株の葉はしばしば切れ込まない。時に生長しても葉が 3 裂しないものがあり，マルバクワモドキ form. *integrifolia* (Muhl. ex Willd.) Fern. として区別されることがある。

【引用文献】

小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.145. 東三林業振興会.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.201. 愛知県林業試験研究推進協議会.
上田　豊. 1960. 愛知県西三河の帰化植物. 植物研究集録(5):1-8.

【関連文献】

北帰化 p.4, 保帰化 p.83, 平草IIIp.162, 平帰化 p.199, 農教 I p.315.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

アメリカセンダングサ　*Bidens frondosa* L.

【概要と選定理由】

1 年生草本。全国的に最も普通に見られる帰化植物の一つで，国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

茎は直立してよく分枝し，やや四角柱状，高さ 1.5m に達する。葉は対生し，茎の下部の葉は 5～8cm の柄があり, 葉身は通常 5 小葉からなる羽状複葉, 下方の側羽片は更に切れ込むことがある。頂葉片は広披針形, 長さ 5～8cm, 幅 1.5～3cm, 先端は鋭く尖り, 辺縁にもそろった鋭鋸歯がある。頭花は直径 5～10mm で黄色，総苞片は 1 列，先は葉状になって開出する。そう果は扁平なくさび形で長さ 6～10mm，先端に 2 本の刺がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。アジア，オセアニア，ヨーロッパ南部，南アメリカなどに帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：設楽町津具地区（瀧崎 23592，2007-10T)，設楽町旧町域東部（榊原利修 1309，1992-9)，新城市（旧鳳来町北東部）(加藤等次 2157，1992-10)，新城市旧市域（加藤等次 3863，1993-9)，豊川市（瀧崎 14711，1993-10T)，蒲郡市（鈴木美恵子 235，1992-9)，豊橋市北部（芹沢・芳山朋子 216, 1984-10), 田原市旧町域(瀧崎 23414, 2007-9T)。**西**:豊田市(旧稲武町)（鈴木学 9, 1982-9)，豊田市（旧旭町）(芹沢 63174，1992-9)，豊田市（旧足助町）(水野岸子 843，1985-10)，豊田市（旧下山村）(長谷川朋美 1034，1992-10)，豊田市（旧小原村）(塚本威彦 1367，1994-9)，豊田市（旧藤岡町）(日比野修 893，1992-9)，豊田市旧市域東部（山田初代 1197，1991-9)，豊田市旧市域北西部（磯貝彰宏 343，1983-9)，豊田市旧市域南西部（落合鈴枝 467，1993-10)，みよし市（臼井里華 842, 1992-9), 岡崎市 (旧額田町)（福岡義洋 1424, 1990-9), 岡崎市旧市域北部 (伊奈知子 921, 1993-9)，岡崎市旧市域南部（本多さおり 827，1994-9)，幸田町（金子律子 1292，1995-9)，刈谷市 (鈴木学 2276, 1983-9), 安城市 (堀田喜久 3017, 1991-10), 碧南市 (中村さとこ 741, 1993-9)，西尾市旧市域（芹沢 68454，1993-10)，西尾市（旧幡豆町）(芹沢 68728，1993-10)。**尾**：長久手市（半田多美子 2，1991-10)，日進市（伊藤恭子 642，1992-9)，東郷町（鬼頭弘 246，1992-10)，東浦町（渡邉麻子 838，1995-10)，知多市（加藤雅憲 1379，1997-9)，阿久比町（渡邉麻子 838，1995-9)，半田市（岡本久美子 791，2000-9)，常滑市（芹沢 65071，1993-5)，南知多町（大西博 1086，1992-9)，美浜町（岡本沙矢香 478，2001-9)，犬山市（松田ちか子 889，1986-9)，江南市（竹下希望 1380, 2010-9), 小牧市(村瀬正成 930603, 1993-9), 春日井市(太田さち子 849, 1993-9)，岩倉市（水谷善彌 10673，1992-9)，名古屋市北部（福岡義洋 2130，1992-10)，名古屋市南東部（渡辺幸子 603，1992-9)，名古屋市南西部（鶴岡佐知子 199，1992-10)，一宮市西部（渡辺幸子 778，1992-10)，稲沢市（水野峰子 102，1992-9)，大治町（芹沢 73299，1996-10)，愛西市（山田茂貴 291，1992-10)。

【生育地の環境／生態的特性】

休耕田やため池の岸，河川敷など，他のセンダングサ類に比べやや湿った場所に多く生育する。そう果は刺に微細な逆刺があり，動物や衣服に付着して散布される。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩		○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本には大正時代に帰化したと言われる。愛知県では 1970 年頃まで，帰化センダングサ類の中で最も多い種類であった。しかし，後から侵入したコセンダングサに押され，現在では休耕田などのやや湿った場所に多く見られる。

【被害状況／駆除策と留意点】

果実が衣服に付着して不快であるが，既に帰化植物として定着した状態になっており，現実問題として根絶は不可能である。生育地は多少なりとも攪乱された場所に限られており，在来植物に対する影響も限定的と思われる。

【特記事項】

セイタカタウコギとも呼ばれる。

【関連文献】

北帰化 p.9, 保帰化 p.54, 平草IIIp.176-177, 平帰化 p.232-233, 農教 I p.327.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

コセンダングサ　*Bidens pilosa* L.

【概要と選定理由】

1 年生草本。全国的に最も普通に見られる帰化植物の一つで，国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

茎は直立し，高さ 60～120cm になる。葉は対生し，長さ 3～6cm の柄があり，葉身は 5 小葉からなる羽状複葉，時に一部 2 回羽状になることもある。葉の細脈はあちこちでややふくらみ，不透明の暗色になる。花期は通常 9～11 月，頭花は直径 8～12mm で舌状花はない。そう果は細長い 4 稜形，先端に小逆刺のついた 3～4 本の刺がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は熱帯アメリカ。現在では旧世界の熱帯～暖帯に広く帰化している。

【国内の分布】

本州～琉球。

【県内の分布】

東：新城市（旧鳳来町北東部）（芹沢 60820, 1991-10），新城市（旧鳳来町北西部）（小林元男 49125, 1993-10），新城市旧市域（加藤等次 3864，1993-9），豊川市（加藤等次 1564，1992-7），蒲郡市（井上美保子 61，1991-10），豊橋市北部（芹沢・芳山朋子 207，1984-10），豊橋市南部（瀧崎 10233, 1987-11），田原市（旧町域）（瀧崎 11989，1990-11T）。**西**：豊田市（旧稲武町）（塚本威彦 2548, 1997-10），豊田市（旧旭町）（芹沢 64304, 1992-10），豊田市（旧足助町）（鈴木万里亜 1198, 1995-10），豊田市（旧下山村）（長谷川朋美 958，1992-10），豊田市（旧小原村）（日比野修 2383，1994-7），豊田市（旧藤岡町）（塚本威彦 422，1992-9），豊田市旧市域東部（山崎玲子 694，1993-10），豊田市旧市域北西部（土場トシ子 657，1994-10），豊田市旧市域南西部（落合鈴枝 474，1993-10），みよし市（臼井里華 956，1992-10），岡崎市（旧額田町）（福岡義洋 1658，1990-10），岡崎市旧市域北部（伊奈知子 1013，1993-10），岡崎市旧市域南部（本多さおり 1058，1994-10），幸田町（金子律子 1411，1995-10），刈谷市（芹沢 35743，1982-10），安城市（堀田喜久 2034，1992-10），碧南市（畑佐武司 722，1999-9），西尾市旧市域（中村さとこ 1005，1993-10），西尾市（旧幡豆町）（芹沢 60896，1991-10）。**尾**：日進市（伊藤恭子 576，1992-9），東浦町（中村裕治 884，1994-8），東海市（加藤雅憲 1007, 1996-10），知多市（加藤雅憲 737, 1996-9），阿久比町（渡邉麻子 452, 1995-6），武豊町（林彰一 859，1990-10），常滑市（芹沢 68290，1993-10），美浜町（田中郁子 239，1986-10），南知多町（瀧崎 24958, 2008-11T），犬山市（松田ちか子 62, 1985-11），扶桑町（上山秀郎 71, 1992-9），小牧市（村瀬正成 931072, 1993-10），春日井市（太田さち子 277, 1993-7），岩倉市（竹下希望 1584, 2010-10），清須市（鈴木幸子 279，1992-10），名古屋市北部（岩田妙子 名-919，1988-11），名古屋市南東部（西川勇夫 144，1992-6），名古屋市南西部（鶴岡佐知子 684，1992-10），一宮市西部（芹沢 60716，1991-10），稲沢市（家田晴敏 119，1992-10），愛西市（山田茂貴 857，1993-10），弥富市（竹原芳子 1078，1995-10）。豊根村（富山地区，旧村域），東栄町，設楽町（津具地区，旧町域）（小林 2006）からも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍や空き地に生育する。そう果は衣服や動物に付着して散布される。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩		○	○	○
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本に侵入した時期は明確でないが，明治の終わり頃には京都府や滋賀県で普通に見られたという。現在では全国的にも愛知県でも，最も多い帰化植物の一つである。

【被害状況／駆除策と留意点】

既に帰化植物として定着した状態になっており，現実問題として根絶は不可能である。雑草としてはやっかいであるが，生育地は多少なりとも攪乱された場所に限られており，在来植物に対する影響は限定的と思われる。

【特記事項】

多型な植物で，日本にも基準変種のほか，次ページに示すようないくつかの変種が帰化している。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.203. 愛知県林業試験研究推進協議会.

【関連文献】

北帰化 p.10，保帰化 p.50，平草Ⅲp.176，平帰化 p.201，農教Ⅰp.332.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

タチアワユキセンダングサ　*Bidens pilosa* L. var. *radiata* Sch.Bip.

【概要と選定理由】

1 年生草本。愛知県では少ないが，琉球列島などでは路傍を埋め尽くす勢いで繁茂している帰化植物で，国の要注意外来生物とされており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

茎は直立して分枝し，高さ 40～100cm になる。葉は対生し，長さ 3～6cm の柄があり，葉身は小型の株では 3 出葉だがよく育った株では 5 小葉からなる羽状複葉，頂小葉は卵形～卵状楕円形，長さ 5～7cm，幅 2.5～3.5cm，先端は鋭頭，辺縁には小さい鋸歯があり，葉の細脈はあちこちでややふくらむが不透明の暗色にはならない。花期は 10～11 月，頭花は花弁を除き直径 8～12mm，舌状花は 5～10 個つき，花弁は白色で大きく，長さ 10～17mm，幅 5～8mm になる。そう果は細長い 4 稜形，先端に小逆刺のついた 3～4 本の刺がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

熱帯アメリカ原産。

【国内の分布】

愛知県以西。屋久島～沖縄本島や小笠原ではごく普通な雑草である。

【県内の分布】

東：新城市旧市域（瀧崎 24795，2008-10T），田原市（旧渥美町）（小林元男 40487，1992-11）。**尾**：名古屋市南西部（髙木順夫 20461，2011-10）。茎の下部で枝を分け，下部の葉も 3 小葉からなるハイアワユキセンダングサと呼ばれる型は，東：田原市（旧渥美町）（瀧崎 28130, 2011-11T）で確認されている。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍や空き地などに生育する。そう果は衣服や動物に付着して散布される。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩			○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

江戸時代末期に渡来し，観賞用に栽培されたという。

【被害状況／駆除策と留意点】

愛知県では現在のところ稀で，被害が問題になるほどの量は生育していない。

【特記事項】

オオバナセンダングサとも呼ばれる。舌状花弁がタチアワユキセンダングサと同程度に大きいが葉の細脈がコセンダングサと同様暗色になるものはシロノセンダングサと呼ばれ，愛知県では**東**：新城市旧市域（小林元男 55042，1994-11），蒲郡市（渡辺幸子 5670, 2006-10），豊橋市南部（瀧崎 24236, 2008-7T），田原市旧町域（瀧崎 24252, 2008-7），**西**：豊田市北西部（畑佐武司 6442, 2003-10），西尾市（旧一色町）（中根幸司 229，2006-11），**尾**：名古屋市北部（鳥居ちゑ子 2234，2002-10），名古屋市南東部（渡辺幸子 5251，2002-10）で確認されている。シロノセンダングサに似ているが舌状花弁が小さく長さ 5～7mm のものはコシロノセンダングサ var. *minor* (Blume) Sherff で，**東**：新城市（旧鳳来町北東部）（芹沢 68781，1993-10），新城市旧市域（芹沢 67771，1993-9），豊川市（瀧崎 16148, 1996-9T），豊橋市北部（瀧崎 6821, 1981-10T），豊橋市南部（瀧崎 10236, 1987-11），田原市旧町域（瀧崎 9444，1987-7T），田原市（旧渥美町）（名倉智道 131，1992-8），**西**：豊田市（旧藤岡町）（塚本威彦 422，1992-9），豊田市旧市域北西部（山崎玲子 722，1993-12），みよし市（臼井里華 850，1992-9），岡崎市（旧額田町）（福岡義洋 1901，1990-10），刈谷市（中村裕治 1370，1994-11），高浜市（中村裕治 1340，1994-10），西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 1194，1994-10），西尾市（旧一色町）（中根幸司 1850，2007-10）。**尾**：瀬戸市（日比野修 36，1991-11），日進市（伊藤恭子 747，1992-10），半田市（岡本久美子 843，2000-10），美浜町（大西博 138，1991-10），南知多町（芹沢 83793, 2008-11），犬山市（塚本威彦 3061, 2003-10），扶桑町（上山秀郎 367, 1994-9），江南市（竹下希望 1660，2010-10），春日井市（山田果与乃 427，1998-10），北名古屋市（鈴木幸子 584，1993-10），清須市（芹沢 78934，2003-10），名古屋市北部（太田由美子 197，1993-10），名古屋市南東部（渡辺幸子 736，1992-10），名古屋市南西部（八木景子 10-3，1993-10），一宮市東部（佐分康之 1392, 1996-10），一宮市西部（渡辺幸子 1387, 1993-10），あま市（芹沢 68831, 1993-10），蟹江町（永田晴美 648，1995-10）で確認されている。

【関連文献】

平帰化 p.201，農教 I p.328.

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

ポンポンアザミ　*Campuloclinium macrocephalum* (Less.) DC.

【概要と選定理由】

多年生草本。2008 年に愛知県で国内最初の生育が確認された（瀧崎 2012）。太い地下部があり，一度侵入するとなかなか除去できそうもない。スワジランドでは強害雑草となっているという。侵入初期であるが今後分布を拡大するおそれがあり，予防的な意味で愛知県条例公表種に選定された。

【形　態】

地下部は太く，分岐して深く地中に伸び，長い走出枝を出して栄養的に旺盛に繁殖する。茎は下部で枝を分けて直立し，高さ 40～150cm，太く緑色で中空，赤色の腺毛を密生する。葉は対生し，長楕円形，長さ 6～8cm，先端は鈍頭～ややとがり，厚い草質，辺縁にはややあらい単鋸歯があり，茎と同様に腺毛を密生する。側脈は裏面で突出して目立つ。花期は 7～11 月，直立する枝の先端に直径 2～3cm の頭花をつける。頭花には小さなピンク色の管状花が多数密集してつき，総苞片は 2 列，外総苞片，内総苞片ともに長卵形，外総苞片には腺毛が密生する。そう果は長さ 4～5mm，冠毛があって風散布する。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は南アメリカ。アフリカにも帰化している。

【国内の分布】

現在のところ愛知県以外では記録されていない。

【県内の分布】

東：豊橋市南部（瀧崎 26141, 2009-10），田原市旧町域（瀧崎 25822, 2009-8），田原市（旧渥美町）（瀧崎 24978, 2008-11）。豊川市にも生育しているというが，標本が確認できていない。

【生育地の環境／生態的特性】

裸地や路傍草地に生育し，一度侵入すると栄養繁殖して密生群落を作る。地下で広がって，アスファルトのすき間から出てくることもある。原産地では河川敷に大群落を形成するという。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩			○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

園芸植物として導入を試みたものが逸出したと考えられる。スワジランド原産の希少種 *Vernonia glabra* (Steetz) Vatke の和名カオリアザミの名で岐阜県内で行なわれた園芸植物展に展示されたことがあるらしく，種類を誤っての導入がきっかけであった可能性が高い。最初に定着したと思われる田原市江比間町では，泉漁港の空地を埋め尽くす勢いであった。近隣の畑や花壇などにも多数生育している。ただし泉漁港のものは，定期的に草刈りをされて，多少衰退している。

【被害状況／駆除策と留意点】

一度侵入すると強壮な地下部を形成するので，除去は容易ではない。豊橋市磯辺下地町の路傍に侵入した個体は，草丈が 40cm 程度でまだ侵入して 1～2 年程度と思われたが，地下 40cm ほども掘り返さなければ完全には駆除できなかった。泉漁港とその周辺では年に数回ていねいな刈り取りが行なわれているが，根絶には至っていない。今後も除草作業を継続していく必要がある。

花が美しくて切り花にも適しているため，非意図的に生育してきたものが除去されずに残されていることがある。田原市内では園芸植物として意図的に植栽されていることもある。種子が風散布されるので，どうしても維持または植栽したければ，周囲への逸出防止に特に注意する必要がある。

【特記事項】

カオリアザミとされていた時に，「桃色花火」という園芸名が与えられたことがある。

【引用文献】

瀧崎吉伸．2012．愛知県に帰化したポンポンアザミ．シデコブシ **2**:111-112.

（瀧崎吉伸・芹沢俊介））

アメリカオニアザミ　*Cirsium vulgare* (Savi) Ten.

【概要と選定理由】

大きなロゼットを作る大型の 1～2 年生草本。鋭い刺を持ち，北海道の牧草地などでは非常にやっかいな強害雑草になっている。国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

茎は高さ 60～120cm，全体に刺の多い翼がある。葉は互生し，長さ 10～30cm，羽状に深裂し，裂片は立体的について先端は鋭い刺になる。葉の表面は緑色で短毛があり，裏面は綿毛で白色になり，基部は茎を抱く。花期は 5～9 月，頭花は枝の先端に 1～3 個つき，総苞は卵状球形，直径 1.5～3cm，長さ 2～3cm，総苞片は 8～9 列について斜開～開出する。筒状花は淡紅紫色，冠毛は白色で羽状に分枝する。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ。現在では世界中の温帯域に帰化している。

【国内の分布】

北海道～四国。北日本に多い。

【県内の分布】

西：豊田市旧市域北西部（畑佐武司 2254，2001-8）。**尾**：瀬戸市（芹沢 85956，2010-7），長久手市（半田多美子 2200, 1996-8），日進市（半田多美子 3513, 2003-8），豊明市（浅野守彦 1955, 2004-7），常滑市（瀧崎 27605，2011-6T），名古屋市北部（渡辺幸子 3947，1999-7），名古屋市南東部（中島ひろみ 635, 1999-8），名古屋市南西部（永田晴美 595, 1994-6），一宮市西部（渡辺幸子 1714, 1994-7），飛島村（須賀瑛文 56155，1996-6）。豊田市旧市域南東部でも見ているが，標本は作成していない。東三河では現在のところ確認されていない。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍や空き地に生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩			○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

1960 年に北海道で初めて記録された。愛知県では 1990 年代に入ってからところどころで見かけるようになったが，現在のところそれほど多いわけではない。

【被害状況／駆除策と留意点】

全体に大形で鋭い刺を持ち，「ある」だけで厄介な雑草である。ただし生育地は攪乱された場所に限られるので，在来植物に対する影響は限定的と思われる。

【特記事項】

「アメリカ」の名があるが，ヨーロッパ原産である。

【関連文献】

北帰化 p.13，保帰化 p.16，平帰化 p.229，農教 I p.339.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ヒメムカシヨモギ　*Conyza canadensis*　(L.) Cronquist

【概要と選定理由】

冬型 1 年生草本。全国的に最も普通に見られる帰化植物の一つで，国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

茎は直立し，通常上部以外では枝を分けず，高さ 80～150cm になり，ややまばらに開出毛がある。葉は多数つき，ほぼ無柄，葉身は線形～広線形，長さ 4～10cm，幅 5～12mm，先端は鋭尖頭，辺縁にはまばらに低い鋸歯がある。花期は 6～10 月，茎頂に多数の頭花からなる円錐形の花序群を作る。頭花は直径約 3mm，総苞は短筒形で長さ約 3mm，舌状花は白色の小さい花弁を持つ。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。現在では世界中に帰化している。

【国内の分布】

全国に帰化。

【県内の分布】

東：豊根村旧村域（村松正雄 14494，1993-10），東栄町（瀧崎 25957，2009-9T），設楽町旧町域西部（芹沢 62951，1992-8）設楽町旧町域東部（榊原利修 1286，1992-9），新城市（旧鳳来町北西部）（芹沢 67821，1993-9），新城市作手地区（芹沢 67889，1993-9），新城市旧市域（瀧崎 24810，2008-10T），豊川市（瀧崎 13844，1992-9T），蒲郡市（瀧崎 25862，2009-9T），豊橋市北部（芳山朋子 72，1983-9），豊橋市南部（瀧崎 16409，1997-6T），田原市旧町域（瀧崎 23386，2007-9T），田原市（旧渥美町）（瀧崎 24702，2008-9T）。**西**：豊田市（旧稲武町）（小林元男 39250，1992-9），豊田市（旧旭町）（芹沢 63154，1992-9），豊田市（旧足助町）（水野岸子 550，1985-8），豊田市（旧下山村）（長谷川朋美 718，1992-8），豊田市（旧小原村）（日比野修 2486，1994-8），豊田市旧市域東部（山田初代 915，1991-8），豊田市旧市域北西部（磯貝彰宏 162，1983-9），豊田市旧市域南西部（落合鈴枝 115，1992-9），みよし市（臼井里華 879，1992-9），岡崎市（旧額田町）（瀧崎 11500，1990-7T），岡崎市旧市域北部（伊奈知子 896，1993-9），岡崎市旧市域南部（芹沢 67652，1993-9），幸田町（金子律子 1189，1995-9），刈谷市（瀧崎 3203，1979-10），安城市（中村さとこ 693，1993-8），碧南市（芹沢 67548，1993-9），西尾市旧市域（中村さとこ 693，1993-8）西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 919，1994-9）。**尾**：長久手市（半田多美子 470，1992-8），日進市（伊藤恭子 611，1992-9），東郷町（鬼頭弘 186，1992-8），東浦町（中村裕治 1059，1994-9），知多市（加藤雅憲 662，1996-9），阿久比町（渡邉麻子 689，1995-8），半田市（芹沢 68432，1993-10），常滑市（芹沢 68291，1993-10），美浜町（大西博 1143，1992-9），南知多町（芹沢 63625，1992-9），犬山市（松田ちか子 593，1986-8），江南市（竹下希望 1572，2010-10），扶桑町（竹下希望 1577，2010-10），春日井市（竹原芳子 243，1993-9），岩倉市（芹沢 70715，1994-9），清須市（鈴木幸子 238，1992-9），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 66，1992-8），名古屋市南東部（花岡昭 61，1992-9），名古屋市南西部（髙木順夫 19524，2010-10），一宮市西部（伊藤静江 1249，1991-9），稲沢市（水野峰子 245，1993-9），大治町（芹沢 60166，1991-9），愛西市（芹沢 60182，1991-9）。

【生育地の環境／生態的特性】

河川敷や埋立地。路傍の荒れ地に群落を作る。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩		○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

明治初期に渡来。

【被害状況／駆除策と留意点】

既に帰化植物として定着した状態になっており，現実問題として根絶は不可能である。生育地は多少なりとも攪乱された場所に限られており，在来植物に対する影響も限定的と思われる。

【特記事項】

オオアレチノギクに比べ全体に細く，茎葉の毛は長くてまばらにつき，頭花は小さく，白色の小さい花弁がある。侵入初期に鉄道に沿って拡がったので，テツドウグサと呼ばれたこともある。

【関連文献】

北帰化 p.24，保帰化 p.44，平草Ⅲp.193，平帰化 p.213-214，農教Ⅰp.353.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

オオアレチノギク　*Conyza sumatrensis* (Retz.) E.H.Walker

【概要と選定理由】

冬型 1 年生草本。全国的に最も普通に見られる帰化植物の一つで，国の要注意外来生物とされており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

茎は直立し，通常上部以外では枝を分けず，高さ 80～150cm になり，密に短毛がある。葉は多数つき，線状楕円形，長さ 7～15cm，幅 0.7～1.8cm，先端は鋭頭，辺縁にはまばらにやや低い鋸歯があり，基部は次第に狭くなって短い柄となる。花期は 6～10 月，茎頂に多数の頭花からなる円錐形の花序群を作る。頭花は直径 4～5mm, 総苞は卵形で長さ約 5mm, 舌状花の花弁は全く目立たない。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は南アメリカ。現在では世界の熱帯～暖帯に広く帰化している。

【国内の分布】

全国に帰化。

【県内の分布】

東：豊根村旧村域（芹沢 63286，1992-9），設楽町津具地区（石田雄吉 399，1979-9），新城市（旧鳳来町北東部）（小林元男 53584，1994-9），新城市（旧鳳来町南東部）（芹沢 67822，1993-9），新城市作手地区（芹沢 67891，1993-9），新城市旧市域（瀧崎 24822，2008-10T），豊川市（瀧崎 12373，1991-8），蒲郡市（瀧崎 12394，1991-8T），豊橋市北部（瀧崎 7406，1983-9T），豊橋市南部（瀧崎 13387，1992-7T），田原市旧町域（瀧崎 20947，2003-8T），田原市（旧渥美町）（瀧崎 24344，2008-8T）。**西**：豊田市（旧稲武町）（鈴木学 2750, 1983-10），豊田市（旧旭町）（芹沢 63813, 1992-9），豊田市（旧足助町）（新井文子 1011，1994-9），豊田市（旧下山村）（長谷川朋美 719，1992-8），豊田市（旧小原村）（日比野修 2485，1994-8），豊田市（旧藤岡町）（日比野修 3225，1995-10），豊田市旧市域東部（山田初代 893，1991-8），豊田市旧市域北西部（土場トシ子 160，1992-8），みよし市（臼井里華 1036，1992-11），岡崎市（旧額田町）（福岡義洋 937，1990-7），岡崎市旧市域北部（伊奈知子 632，1993-8），岡崎市旧市域南部（芹沢 67653，1993-9），幸田町（金子律子 933，1995-7），刈谷市（芹沢 35010, 1982-8），安城市（堀田喜久 2432, 1991-8），碧南市（中村さとこ 464, 1993-6），西尾市旧市域（中村さとこ 1089，1993-10），西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 1094，1994-9）。**尾**：瀬戸市（日比野修 37，1991-11），長久手市（半田多美子 468，1992-8），日進市（伊藤恭子 596，1992-9），豊明市（浅野守彦 1247，2002-4），東郷町（鬼頭弘 168，1992-8），東浦町（渡邉麻子 717，1995-8），知多市（加藤雅憲 660，1996-9），阿久比町（渡邉麻子 696，1995-8），半田市（岡本久美子 595，2000-7），常滑市（芹沢 68306，1993-10），南知多町（大西博 981，1992-9），犬山市（松田ちか子 817，1986-9），扶桑町（上山秀郎 50，1992-8），小牧市（村瀬正成 A357，1992-9），春日井市（竹原芳子 158, 1993-8），岩倉市（水谷善彌 10622, 1992-9），清須市（鈴木秀樹 3019, 1996-8），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 678，1994-7），名古屋市南東部（渡辺幸子 509，1992-8），一宮市東部（塚本威彦 2616, 1998-5），一宮市西部（渡辺幸子 780, 1992-10），稲沢市（岩田妙子 623, 1988-6），愛西市（山田茂貴 563，1993-7），弥富市（竹原芳子 956，1995-9）。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍や河川敷などの荒れ地に多く見られる。林縁部に入り込むことはあるが，林内には侵入しない。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩		○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

大正年間に渡来したと言われる。アワダチソウグンバイの食害を受けやすく，近畿地方では激減した。愛知県ではまだ各所に見られる。

【被害状況／駆除策と留意点】

既に帰化植物として定着した状態になっており，現実問題として根絶は不可能である。生育地は多少なりとも攪乱された場所に限られており，在来植物に対する影響も限定的と思われる。

【特記事項】

近縁のアレチノギク *C. bonariensis* (L.) Cronquist も南アメリカ原産の帰化植物で, 頭花が大きく, 主茎があまり伸びずに開花し，側枝がそれより高く伸びる。この種も愛知県では比較的多く，特に市街地ではよく目につく。

【関連文献】

北帰化 p.23，保帰化 p.43，平草IIIp.189，平帰化 p.214，農教 I p.343.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

オオキンケイギク　*Coreopsis lanceolata* L.

【概要と選定理由】

多年生草本。もともとは園芸目的で導入された植物であるが，馴化した系統が逸出し，自然生態系に大きな影響を与えるようになった。国の特定外来生物に指定されており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

根茎は短く匍匐または斜上して分枝し，大きな株になる。茎は束生して中部でまばらに分枝し，高さ 40～80cm，まばらに毛がある。根出葉は花時にも残り，長い柄があり，葉身は広倒披針形～長楕円形の単葉，または 1～2 対の側裂片を持つ。茎葉は対生，上部の葉はしだいに小さく，また無柄になる。花期は 5～8 月，頭花は枝の先に 1 個つき，直径 5～7cm，舌状花は 7～12 個つき，花弁は橙黄色，先端は不規則に 4～5 裂する。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。アジア，オーストラリア等に帰化している。

【国内の分布】

全国に帰化。

【県内の分布】

東：設楽町旧町域東部（瀧崎 24477，2008-8T），新城市旧市域（瀧崎 26712，2010-5T），豊川市（瀧崎 19655，2002-5T），蒲郡市（井上美保子 829，1993-6），豊橋市北部（瀧崎 22908，2007-5T），豊橋市南部（瀧崎 15851，1996-6T）。**西**：豊田市（旧稲武町）（塚本威彦 2274，1997-6），豊田市（旧足助町）（鈴木万里亜 773，1995-8），豊田市旧市域東部（佐藤久美子 486，1993-5），豊田市旧市域南西部（畑佐武司 1872，2001-5T），みよし市（臼井里華 360，1992-5），岡崎市旧市域北部（伊奈知子 367, 1993-5), 岡崎市旧市域南部(中村さとこ 355, 1993-5), 幸田町(金子律子 572, 1995-5)，刈谷市（瀧崎 1647，1979-5T），西尾市（旧一色町）（瀧崎 25422，2009-6）。**尾**：瀬戸市（塚本威彦 1115，1994-6），日進市（半田多美子 1054，1993-6），東郷町（鬼頭弘 111，1992-5），豊明市（浅野守彦 1284，2002-5），常滑市（梅田零奈 357，2000-5），美浜町（岡島沙矢香 268，2001-5），犬山市（村瀬正成 930631，1993-5），小牧市（村瀬正成 930393，1993-6），春日井市（大田さち子 122，1993-5），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 908，1995-6），名古屋市南東部（岡本沙矢香 324，2001-6），名古屋市南西部（髙木順夫 19071，2010-6T），一宮市西部（渡辺幸子 1676，1994-6），稲沢市（渡辺幸子 6253, 2011-6T)。田原市（旧町域，旧赤羽根町，旧渥美町）（小林 2002）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

河川敷や埋立地，路傍の荒れ地に生育する。多年生で，倒伏した茎は途中から根を出し，独立個体となる。多数の種子を作り，種子でもよく繁殖する。林内に侵入することはない。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩		○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本には明治時代に渡来し，観賞用に栽培された。戦後，各種工事の法面緑化用に播種されるようになり，馴化した系統が逸出して，20 年ほど前から河川敷等で大きな群落を作るようになった。園芸植物起源だけに咲きそろうとなかなか見事で，特定外来生物に指定される前は「オオキンケイギク祭り」が行われることもあったほどである。大原（1971）の目録には記録がなく，その当時はまだほとんど逸出していなかったと思われる。

【被害状況／駆除策と留意点】

河川中流域の礫の河原に生育するカワラサイコ，カワラハハコなどは，本種の圧迫も一因となって，減少傾向にある。

【引用文献】

小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.147. 東三林業振興会.
大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌. 178pp. 名古屋営林局.

【関連文献】

北帰化 p.19, 保帰化 p.67, 平帰化 p.201, 農教Ⅰp.344.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ヒメジョオン　*Erigeron annuus* (L.) Pers.

【概要と選定理由】

1 年生または越年生の草本。全国的に最も普通に見られる帰化植物の一つで，国の要注意外来生物とされており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

茎は高さ 50～100cm，中実でまばらに開出毛がある。根出葉は花時に残らないことが多い。茎葉は互生し，下部のものは無柄で狭倒卵形，長さ 6～10cm，幅 2～3.5cm，辺縁には大きい鋸歯がある。上部の葉は次第に小さくなり，狭長楕円形，基部は茎を抱かない。花期は主に 5～6 月，頭花は各枝先に数個つき，直径約 2cm，舌状花は多数つき，花弁は細く，白色～微帯紅色である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。現在では全世界に広く帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：豊根村旧村域（瀧崎 27773, 2011-8T），東栄町（榊原利修 814，1992-7），設楽町津具地区（石田雄吉 397，1979-6），新城市（旧鳳来町北東部）（加藤等次 1498，1992-6），新城市（旧鳳来町北西部）（瀧崎 25548，2009-6T），新城市作手地区（芹沢 67980，1993-9），豊川市（瀧崎 13178，1992-6T），蒲郡市（井上美保子 273，1992-6），豊橋市北部（芳山朋子 688，1984-6），田原市（旧渥美町）（小林元男 47068，1993-8）。**西**：豊田市（旧稲武町）（鈴木学 1618，1983-8），豊田市（旧旭町）（芹沢 61733，1992-6），豊田市（旧足助町）（水野岸子 883，1985-10），豊田市（旧下山村）（長谷川朋美 422，1992-6），豊田市（旧小原村）（伊藤泰輔 228，1993-7），豊田市（旧藤岡町）（日比野修 448，1992-6），豊田市旧市域東部（山田初代 1202，1991-9），豊田市（旧市域北西部）（磯貝彰宏 419，1983-9），みよし市（臼井里華 511，1992-6），岡崎市（旧額田町）（福岡義洋 1496，1990-9），岡崎市旧市域北部（中西普佐子 30，1991-10），岡崎市旧市域南部（本多さおり 814，1994-9），幸田町（金子律子 595，1995-5），刈谷市（芹沢 45647，1987-5），安城市（堀田喜久 82，1991-5），西尾市旧市域（芹沢 65530，1993-5），西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 509，1994-6）。**尾**：長久手市（伊藤恭子 467，1992-8），日進市（村瀬美智子 164，1992-6），東郷町（鬼頭弘 132，1992-6），豊明市（横井邦子 266，1993-5），大府市（竹田弘光 22，1992-6），知多市（加藤雅憲 462，1996-7），東海市（加藤雅憲 384，1996-6），阿久比町（渡邉麻子 457，1995-6），武豊町（岡本久美子 386，2000-5），常滑市（岡本沙矢香 696，2001-10），美浜町（大西博 683，1992-7），犬山市（松田ちか子 439，1986-7），扶桑町（上山秀郎 105，1992-10），小牧市（村瀬正成 930420，1993-7），春日井市（太田さち子 279，1993-7），清須市（鈴木幸子 97，1992-6），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 806，1994-11），名古屋市南東部（花岡昭 36，1992-6）名古屋市南西部（鶴岡佐知子 224，1992-10），一宮市西部（渡辺幸子 395，1992-7），稲沢市（伊藤静江 802，1991-5），大治町（芹沢 65878，1993-6），愛西市（山田茂貴 84，1992-6），弥富市（竹原芳子 857，1995-7）。舌状花のないボウズヒメジョオンと呼ばれる型が**西**：岡崎市旧市域北部（杉田一記 1995, 2011-6），**尾**：瀬戸市（芹沢 87094, 2011-6）で採集されている。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍や河川の土手など，攪乱された土地に好んで生える。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩	○	○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本の帰化植物としては，史前帰化種を除けば最も初期に侵入したものの一つで，現在ではすっかり定着し，平野部から山地までの路傍，空き地などに普通に生育している。

【被害状況／駆除策と留意点】

既に帰化植物として定着した状態になっており，現実問題として根絶は困難である。生育地は多少なりとも攪乱された場所に限られており，在来植物に対する影響は限定的と思われる。

【特記事項】

和名は姫女苑。姫紫苑は別の在来植物である。侵入初期に鉄道に沿って拡がったので，テツドウグサと呼ばれたこともある。近縁のヘラバヒメジョオン *E. strigosus* Muhl.ex Willd.は，葉が細くやや濃色，辺縁はほぼ全縁で，花期がやや遅い。ヒメジョオンよりずっと少ないが，やせ地などより自然度の高い場所に生える傾向がある。

【関連文献】

北帰化 p.25，保帰化 p.46，平草IIIp.198，平帰化 p.214-215，農教 I p.354.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ハルジオン　*Erigeron philadelphicus* L.

【概要と選定理由】

1 年生または多年生の草本。全国的に最も普通に見られる帰化植物の一つで，国の要注意外来生物とされており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

茎は高さ 40～-70cm，中空で葉と共に軟毛がある。根出葉は花時にも残り，倒披針形～狭倒卵形，長さ 6～17cm，幅 1.5～2.5cm，先端は円頭～鋭頭，辺縁は上部に丸味を帯びた鋸歯があり，基部は次第に狭くなって不明瞭な柄となる。茎葉は互生し，無柄，基部は拡がって少なくとも上部では茎を抱く。花期は 4～5 月，頭花は各枝先に数個つき，直径 1.8～2.5cm，舌状花は多数つき，花弁は細く，淡紅色～ほとんど白色である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。アジア，ヨーロッパ等に帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：設楽町旧町域東部（榊原利修 508，1992-5），新城市（旧鳳来町北東部）（加藤等次 3087，1993-6），新城市旧市域（瀧崎 12988, 1992-4），豊川市（瀧崎 13061, 1992-5T），蒲郡市（井上美保子 185, 1992-5），豊橋市北部（芳山朋子 473, 1984-5），豊橋市南部（瀧崎 15800, 1996-5T），田原市旧町域（瀧崎 23927, 2008-5T）。**西**：豊田市（旧稲武町）（鈴木学 1146, 1983-5），豊田市（旧旭町）（芹沢 64979，1993-5），豊田市（旧足助町）（水野岸子 320，1985-5），豊田市（旧下山村）（長谷川朋美 138，1992-4），豊田市（旧小原村）（日比野修 2006，1994-4），豊田市（旧藤岡町）（塚本威彦 89，1992-5），豊田市旧市域東部（山田初代 272，1991-4），豊田市旧市域北西部（土場トシ子 37，1992-5），豊田市旧市域南西部（石川敏 30，1992-4），みよし市（臼井里華 182, 1992-4），岡崎市（旧額田町）（福岡義洋 330, 1990-4），岡崎市旧市域北部（中西普佐子 327, 1993-4），岡崎市旧市域南部（本多さおり 191，1994-5），幸田町（金子律子 346，1995-5），刈谷市（芹沢 34430，1982-5），碧南市（中村さとこ 158，1993-5），西尾市旧市域（中村さとこ 145，1993-4）西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 276，1994-4）。**尾**：瀬戸市（日比野修 168，1992-4），日進市（伊藤恭子 192，1992-4），東郷町（鬼頭弘 97，1992-5），豊明市（浅野守彦 1214，2002-4），大府市（竹田弘光 170，1994-4），東浦町（渡邉麻子 269，1995-5），知多市（加藤雅憲 185，1996-5），阿久比町（渡邉麻子 298，1995-5），半田市（岡本久美子 444，2000-6），常滑市（芹沢 65129，1993-5），犬山市（松田ちか子 257，1986-5），江南市（佐分康之 426，1996-5），小牧市（村瀬正成 930123，1993-4），春日井市（福岡義洋 2430，1993-5），岩倉市（水谷善彌 10455，1992-5），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 612，1994-5），名古屋市南東部（花岡昭 14，1992-5），名古屋市南西部（一井尚子 5，1992-5），一宮市西部（渡辺幸子 126，1992-4），稲沢市（岩田妙子 26，1988-4），大治町（芹沢 60942，1992-4），愛西市（山田茂貴 921，1994-5），弥富市（竹原芳子 630，1995-4）。南知多町（小林・深谷 2008）からも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍，畑地から山地の林道わきまで，さまざまな場所に生育する。ヒメジョオンと異なり切れた根から再生する力が強く，そのため不注意に抜くと，ますます増殖することがある。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩	○	○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本では大正時代に観賞用に導入され，逸出したと言われる。現在では平野部から山地まで，広い範囲に普通に生育している。

【被害状況／駆除策と留意点】

既に帰化植物として定着した状態になっており，現実問題として根絶は不可能である。生育地は多少なりとも攪乱された場所に限られており，在来植物に対する影響も限定的と思われる。

【特記事項】

ヒメジョオンに比べ茎は中空，茎葉の基部は茎を抱き，花期がやや早く，開花前の頭花は著しく下を向く。和名は春紫苑で，春女苑ではない。舌状花のない型が西：豊田市（旧下山村，芹沢 85888，2010-6）で採集されている。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司. 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.256. 佐久島会，刈谷.

【関連文献】

北帰化 p.26，保帰化 p.48，平草IIIp.192，平帰化 p.215，農教 I p.357.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ミズヒマワリ　*Gymnocoronis spilanthoides* DC.

【概要と選定理由】

水辺に生育する多年生草本。栄養的に盛んに繁殖して密集した群落を作る。花は多くの昆虫を誘引し，そのため他の植物の繁殖を間接的に阻害する可能性が高い。国の特定外来生物に指定されている。

【形　態】

茎は中空で軟質，1m 以上に伸びて倒伏し，各節から発根して新たな枝を伸ばす。葉は対生し，長さ 1.5～3cm の柄があり，葉身は狭卵形，長さ 7～13cm，幅 2.5～5cm，基部はくさび形，両面無毛，辺縁には全体に鋸歯があるが，その鋸歯は低いこともかなり明瞭なこともある。花期は 10～11 月，頭花は枝先に数個ついて長さ 1.5～2cm の柄があり，直径 1.5～2cm，小花の雌ずいの先は二叉して白色となり，よく目立つ。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は中央～南アメリカ。日本のほか台湾，オーストラリア，ニュージーランド等にも帰化している。

【国内の分布】

本州。愛知県のほか，埼玉県，千葉県，東京都などで記録されている。

【県内の分布】

東：豊橋市南部（芹沢 73441, 1996-10），田原市旧町域（瀧崎 28159，2011-11T）。**西**：刈谷市（芹沢 86639, 2010-12）。

【生育地の環境／生態的特性】

河川やため池の水辺に密集した群落を作る。愛知県では冬期に葉は枯れるが，太い茎は枯死せずに残り，翌春には節から新たな側枝が伸びて再びコロニーを形成する（須山・藤原 2003）。豊橋のものは種子の稔性が低い（須山・藤原 2003）というが，刈谷のものはよく結実する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地			○	
水 域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

愛知県では 1996 年に豊橋市梅田川で確認され，これが国内最初の記録である。しかしその時には既に相当程度まで拡がっていて，実際にはその数年前から生育していたらしい（須山 2001，須山・藤原 2003）。本種は熱帯魚水槽で観賞用に栽培される植物なので，投棄により逸出したと思われる。田原市では蔵王山麓の権現池で 2000 年に確認され，池を浚渫して根絶を試みた。残念ながら，掘り残された根茎から現在も生育が続いている。刈谷市は水辺に小群落があって，状況から見て何者かが植栽した，あるいは意図的に残している可能性が高い。このまま放置しておくと深刻な事態になる可能性がある。

【被害状況／駆除策と留意点】

水辺に密集した群落を作り，他の植物を駆逐する。ただし，本種が生育している場所は既に他の帰化植物に席巻されており，そのため現在のところ在来希少種に対する直接的な影響は確認されていない。一方，本種の花には非常に多くの昆虫が集まる。そのため周辺の他の花が昆虫を誘引できなくなり，間接的に繁殖を阻害される可能性が高い。

【特記事項】

熱帯魚水槽で栽培される観賞用水草には，本種のほかにハビコリハコベ（159 頁），ウチワゼニクサ（150 頁），ボタンウキクサ（205 頁）など，野外に逸出すると旺盛に繁殖し，深刻な環境影響を引き起こすものが少なくない。増殖して余った場合でも絶対に野外に投棄しないよう，特に注意する必要がある。

【引用文献】

須山知香. 2001. 日本新帰化植物ミズヒマワリ *Gymnocoronis spilanthoides* DC. 植物地理・分類研究 **49**:183-184.
須山知香・藤原直子. 2003. 日本新帰化植物ミズヒマワリ（キク科）の驚異的増殖. 水草研究会誌(78):1-5.

【関連文献】

農教Ⅱp.274.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

キクイモ　*Helianthus tuberosus* L.

【概要と選定理由】

地下に塊茎をつける多年生草本。塊茎を食用にするため栽培されたものが逸出し，以前はよく目立つ帰化植物の一つであった。国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

茎は直立して上部で分枝し，高さ 2m 以上になり，剛毛がある。葉は茎の下部では対生，上部では互生し，長さ 1～3cm の柄があり，葉身は卵形～長卵形，長さ 10～20cm，幅 3～10cm，先端は鋭尖頭，基部は狭いくさび形となって葉柄に続き，辺縁には低い鋸歯がある。葉は両面に短毛が多く，最下側脈は他より発達し，3 行脈状になる。花期は 8～10 月，頭花は枝の先端に 1～3 個つき，直径 6～8cm，舌状花は 7～15 個で花弁は黄色である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ中部。アジアやヨーロッパに帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：豊橋市北部（瀧崎 13567，1992-8），田原市旧町域（瀧崎 25833，2009-8T）。**西**：豊田市(旧稲武町)（鈴木学 2371，1983-9），豊田市（旧旭町）（日比野修 1864，1993-9），豊田市（旧足助町）（新井文子 1057，1994-9），豊田市（旧下山村）（長谷川朋美 830，1992-9），豊田市（旧小原村）（伊藤泰輔 112，1992-9），豊田市（旧藤岡町）（日比野修 3170，1995-9），豊田市旧市域東部（山崎玲子 662，1993-9），豊田市旧市域北西部（磯貝彰宏 328，1983-9），豊田市旧市域南西部（落合鈴枝 441, 1993-9), みよし市(臼井里華 955, 1992-10), 岡崎市(旧額田町)（福岡義洋 2059, 1992-10），岡崎市旧市域北部（伊奈知子 910，1993-9），岡崎市旧市域南部（本多さおり 700，1994-9），幸田町（金子律子 1609，1995-10），刈谷市（芹沢・柴田みゆき 35，1987-9），安城市（堀田喜久 2036，1992-10），西尾市(旧幡豆町)（壁谷重美子 1177，1994-10）。**尾**：瀬戸市（日比野修 8，1991-10），日進市(村瀬美智子 445, 1992-9), 東郷町(鬼頭弘 190, 1992-8), 豊明市(中村裕治 1156, 1994-9), 東浦町(渡邉麻子 724, 1995-9), 知多市(加藤雅憲 782, 1996-9), 阿久比町(渡邉麻子 1026, 1995-10), 半田市(芹沢 68410, 1993-10), 南知多町(芹沢 63669, 1992-9), 犬山市(松田ちか子 780, 1986-9), 春日井市（太田さち子 473，1993-8），岩倉市（芹沢 70716，1994-9），北名古屋市（鈴木幸子 548，1993-9），清須市（芹沢 77704，2001-10），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 77，1992-8），名古屋市南東部（渡辺幸子 540，1992-9），名古屋市南西部（鶴岡佐知子 226，1992-10），一宮市西部（渡辺幸子 1348，1993-10），愛西市（山田茂貴 879，1993-10）。豊根村（富山地区，旧村域），東栄町，設楽町（津具地区，旧町域）（小林 2006），新城市（旧鳳来町，旧市域）（小林 2000），豊川市，蒲郡市（小林 2004）からも記録されている。なお，イヌキクイモは地下に塊茎がないかあっても小さいことで区別されるが，地上部だけでの識別はかなり困難である。以上の標本や記録は，イヌキクイモを含むものである。

【生育地の環境／生態的特性】

空き地や河川敷の林縁などに生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草・岩		○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

江戸時代に渡来したと言われる。明治以降食用やアルコール製造などの目的で本格的に導入され，一時はかなり栽培された。現在ではほとんど栽培されなくなり，逸出したものが野外に残存している。しかしその量はそれほど多くなく，また次第に減少しつつある。

【被害状況／駆除策と留意点】

現在では被害が問題になるほどの量は生育しておらず，また減少傾向にあることから，在来植物に対する影響は限定的と思われる。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.152, 愛知県.
小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.172, 東三河農林水産事務所.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.207, 愛知県林業試験研究推進協議会.

【関連文献】

北帰化 p.32, 保帰化 p.62, 平帰化 p.204, 農教 I p.372.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ブタナ　*Hypochoeris radicata* L.

【概要と選定理由】

多年生草本。全国的に最も普通に見られる帰化植物の一つで，国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

葉はほとんど根生，羽状に浅～深裂し，長さ 5～20cm，幅 1～5cm，先端は円頭～鈍頭，基部は次第に狭くなって不明瞭な柄となり，両面とも黄褐色の粗い毛が多い。花茎は数本出て高さ 30～70cm，まばらに分枝する。花期は通常 5～7 月，頭花は各枝の先に 1 個つき，直径 3～4cm，小花はすべて舌状花で，花弁は黄色である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ。現在では世界中に帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：豊根村旧村域（加藤等次 3428，1993-7），設楽町旧町域東部（榊原利修 1149，1992-9），新城市（旧鳳来町北東部）（加藤等次 1398，1992-5），新城市旧市域（加藤等次 2199，1992-10），豊川市（芹沢 61752，1992-6），蒲郡市（井上美保子 343，1992-7），豊橋市北部（瀧崎 12026，1991-3T），豊橋市南部（瀧崎 13001，1992-4），田原市旧町域（瀧崎 22204，2005-11T）。**西**：豊田市（旧稲武町）（鈴木学 1458，1983-7），豊田市（旧足助町）（芹沢・水野岸子 108，1984-9），豊田市（旧下山村）（長谷川朋美 249，1992-4），豊田市（旧小原村）（伊藤泰輔 91，1992-9），豊田市（旧藤岡町）（村松正雄 191，1981-5），豊田市旧市域東部（山田初代 767，1991-7），豊田市旧市域北西部（磯貝彰宏 435，1983-9），みよし市（臼井里華 359，1992-5），岡崎市（旧額田町）（福岡義洋 955，1990-7），岡崎市旧市域北部（伊奈知子 252，1993-5），岡崎市旧市域南部（本多さおり 293，1994-5），幸田町（金子律子 279，1995-4），刈谷市（柴田みゆき 89，1987-5），安城市（堀田喜久 1659，1992-6）。**尾**：長久手市（半田多美子 297，1992-6），日進市（伊藤恭子 172，1992-4），東郷町（岡本沙矢香 210，2001-5），東浦町（渡邉麻子 598，1995-7），阿久比町（渡邉麻子 397，1995-5），犬山市（松田ちか子 1020，1986-10），小牧市（村瀬正成 10946，1994-6），春日井市（大田さち子 228，1993-7），清須市（鈴木幸子 128，1992-7），名古屋市北部（野畑由里子 5-16，1994-5），名古屋市南東部（福田知子 10-13，1991-10），名古屋市南西部（髙木順夫 19520，2010-10T），稲沢市（渡辺幸子 6178，2011-5T）。

【生育地の環境／生態的特性】

市街地の路傍や土手の草地など，丈が高くなる植物が育たない場所に生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩		○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本では 1930 年代に北海道や兵庫県で確認されるようになった。上田（1960）は「1958 年 7 月，知立町猿渡川で得た。僅か 1 株のみ」と報告している。大原（1971）の目録には産地として豊橋だけが挙げられており，その当時はまだ少なかったと思われる。

【被害状況／駆除策と留意点】

愛知県での生育地は現在のところほとんどが攪乱地であるが，一部やや自然度の高い草地にも侵入している。しかし，既に帰化植物として定着しており，現実問題として根絶は困難である。

【特記事項】

市民参加のタンポポ分布調査を行うと，本物のニホンタンポポが見られない市街地で，本種をニホンタンポポと誤認する事例が多い。企画の際には注意が必要である。

ヒメブタナ *H. glabra* L.は葉に毛が少なく，花が小さい。愛知県では**東**：蒲郡市（芹沢 85504，2010-4），豊橋市北部（瀧崎 22753，2007-4），豊橋市南部（瀧崎 25228，2009-5）。**西**：豊田市旧市域南西部（畑佐武司 3229，2002-4），西尾市旧市域（芹沢 85496，2010-4）。尾：瀬戸市（芹沢 85661，2010-5），知多市（加藤雅憲 360，1996-6），犬山市（竹下希望 352，2010-5），名古屋市南東部（渡辺幸子 5548，2005-4），名古屋市南西部（芹沢 85605，2010-5），一宮市西部（渡辺幸子 3884，1999-5），稲沢市（家田晴俊 242，1994-5），愛西市（山田茂貴 55，1992-5），弥富市（福岡義洋 4753，2000-6）に生育している。

【引用文献】

大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.123. 名古屋営林局.
上田　豊. 1960. 愛知県西三河の帰化植物. 植物研究集録(5):1-8.

【関連文献】

北帰化 p.35，保帰化 p.3，平草IIIp.226，平帰化 p.232-233，農教Ⅰp.375.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

オオハンゴンソウ　*Rudbeckia laciniata* L.

【概要と選定理由】

多年生草本。温帯域に多く，休耕田や放棄畑地などに大きな群落を作る一方で，落葉広葉樹林など比較的自然度の高い場所へも侵入する。国の特定外来生物に指定されている。

【形　態】

地下茎は横走する。茎は直立して上部で枝を分け，高さ 70～150cm になる。葉は互生し，下部の葉には長い柄があるが上部の葉は短柄，葉身は羽状全裂～複生，最下羽片は時に更に切れ込み，長さ 7～15cm である。花期は 7-8 月，頭花は各枝の先に 1 個つき，直径 7～10cm，舌状花は 5～12 個で花弁は黄色である。花後の花床は円錐形に伸びる。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。アジア，ヨーロッパ等に帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：豊根村旧村域（加藤等次 3466，1993-8），東栄町（瀧崎 22580，2006-8T），設楽町津具地区（瀧崎 27788，2011-8T），設楽町旧町域西部（瀧崎 24414，2008-8T），設楽町旧町域東部（榊原利修 817，1992-7），豊川市（瀧崎 25631，2009-7T）。西：豊田市（旧稲武町）（伊東昭康 338，1990-7），豊田市（旧旭町）（日比野修 1617，1993-8），豊田市（旧下山村）（長谷川朋美 617，1992-7），豊田市旧市域東部（山崎玲子 596，1993-8），岡崎市（旧額田町）（原田勉 161，1993-7）。新城市（旧鳳来町，作手地区）（小林 2000），豊橋市北部（小林 2001）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

休耕田，放棄畑地，河川敷，若齢の造林地などに多いが，明るい落葉広葉樹二次林の林内などにも侵入する。やや湿った場所に生育することが多い。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林	○			
草･岩	○			
湿 地	○			
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本には明治時代に渡来し，観賞用に栽培されたものが逸出したという。愛知県内では三河山間部に多いが，豊川市江島町の豊川河川敷では上流から流れ着いたと思われる株が開花していた。

【被害状況／駆除策と留意点】

愛知県では現在のところそれほど多くないが，設楽町津具地区などでは休耕田に群落を形成している。植物体が大きく，根茎で栄養繁殖して密生群落を作るので，今後十分に注意する必要がある。

【特記事項】

ハナガサギク var. *hortensis* Bailey は頭花がほとんど舌状花になって八重咲きに見えるもので，しばしば栽培され，時に逸出する。

同属のアラゲハンゴンソウ *R. hirta* var. *pulcherima* も観賞用に導入され，埋立地などの荒れ地に逸出帰化している。法面緑化のため吹き付けられたものが，山地の林道沿いなどに逸出していることもある。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.154. 愛知県.
小林元男. 2001. 豊橋市の植物 p.131. 愛知県植物誌調査会.

【関連文献】

北帰化 p.39, 保帰化 p.65, 平草Ⅲp.174, 平帰化 p.205, 農教Ⅰp.381.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ナルトサワギク　*Senecio madagascariensis* Poir.

【概要と選定理由】

多年生草本。比較的近年になって日本に侵入し，全国的に著しく増加している植物で，国の特定外来生物に指定されている。

ナルトサワギク　常滑市　2011 年 6 月　瀧崎撮影

【形　態】

茎は基部で分枝して叢生し，無毛，高さ 30～70cm になる。葉は互生し，線状披針形～披針形，長さ 4～9cm，幅 1～1.5cm，先端は鋭頭～鈍頭，辺縁には少数の浅い鋸歯があり，基部は多少茎を抱く。花期は常滑では 5～6 月，頭花は各枝の先に 2～4 個ついて長い柄があり，直径 2～2.5cm，舌状花の花弁は黄色で長さ約 1cm になる。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はマダガスカル。日本のほか，アフリカ，オーストラリア，北アメリカに帰化している。

【国内の分布】

本州（関東地方以西），四国，九州。

【県内の分布】

東：豊橋市北部（吉田豊 s.n.，2002-2）。**尾**：常滑市（渡辺幸子 5721，2007-5）。豊橋市南部でも生育が確認されている。

【生育地の環境／生態的特性】

埋立地や河口近くの河川敷に侵入して大きな群落を作ることがあるという。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩			○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本では 1970 年代に兵庫県，徳島県，鹿児島県などで同時多発的に確認され，いくつかの和名が与えられた。全国的には近年著しく増加して問題になっているが，愛知県では 2002 年に豊橋市の人家庭先で確認されたのが最初の記録で，豊橋市以外ではその後も常滑市の埋立地で確認されただけである。

【被害状況／駆除策と留意点】

旺盛な繁殖力を持つ種であるが，愛知県ではまだ散発的で，それほど広がっていない。発見次第除去すれば，根絶は可能と思われる。

【特記事項】

和名としてコウベギクが使用されることもある。

【関連文献】

平帰化 p.209，農教 I p.384.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

セイタカアワダチソウ　*Solidago altissima* L.

【概要と選定理由】

多年生草本。全国的に最も普通に見られる帰化植物の一つで，国の要注意外来生物とされており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

茎は直立し，よく育ったものは高さ 2m 以上になり，短毛を密生する。葉は互生し，ほとんど無柄，葉身は線状長楕円形，長さ 7～13cm，幅 1～2.5cm，辺縁には低い鋸歯があり，両面とも短毛があってざらつく。花期は 10 月，花序群は茎の先端について大きい円錐状，長さ 10～30cm になり，頭花は直径 3～4mm で黄色，枝の上側に密生する。そう果は小さく長さ約 1mm，冠毛は汚白色で長さ 3～3.5mm である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。現在は，おそらく世界中の温帯域に帰化している。

【国内の分布】

全国に広く帰化している。

【県内の分布】

東：東栄町（榊原利修 1403，1992-10），設楽町旧町域西部（瀧崎 21751，2004-10T），新城市（旧鳳来町北東部）（瀧崎 27209，2010-10T），新城市（旧鳳来町北西部）（小林元男 49119，1993-10），新城市旧市域（瀧崎 18232，2000-11T），豊川市（瀧崎 15395，1994-10T），蒲郡市（井上美保子 60，1991-10），豊橋市北部（芳山朋子 106，1983-11），豊橋市南部（瀧崎 7465，1983-10T），田原市旧町域（瀧崎 11993，1990-11T），田原市（旧渥美町）（瀧崎 28062，2011-10）。**西**：豊田市（旧稲武町）（瀧崎 24865，2008-10），豊田市（旧旭町）（芹沢 64324，1992-10），豊田市（旧足助町）（水野岸子 952，1985-10），豊田市（旧下山村）（長谷川朋美 927，1992-10），豊田市（旧小原村）（伊藤泰輔 121，1992-10），豊田市（旧藤岡町）（日比野修 976，1992-10），豊田市旧市域東部（山田初代 1412，1991-10），豊田市旧市域北東部（磯貝彰宏 1782，1984-10），豊田市旧市域南西部（石川敏 167，1992-10），みよし市（臼井里華 978，1992-10），岡崎市（旧額田町）（福岡義洋 1676，1990-10），岡崎市旧市域北部（伊奈知子 1090，1993-10），岡崎市旧市域南部（中村さとこ 1095，1993-10），幸田町（金子律子 1592，1995-10），刈谷市（芹沢 36142，1982-10），安城市（堀田喜久 978，1993-10），碧南市（芹沢 68748，1993-10）西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 1143，1994-9）。**尾**：長久手市（半田多美子 868，1992-10），日進市（伊藤恭子 742，1992-10），東郷町（鬼頭弘 236，1992-10），大府市（竹田弘光 52，1992-10），東浦町（中村裕治 1292，1994-10），東海市（加藤雅憲 927，1996-10），知多市（加藤雅憲 896，1996-10），阿久比町（渡邉麻子 1022，1995-10），常滑市（芹沢 68357，1993-10），犬山市（松田ちか子 1016，1986-10），扶桑町（上山秀郎 95，1992-10），小牧市（村瀬正成 930956，1993-10），春日井市（大田さち子 915，1993-9），岩倉市（竹下希望 1650，2010-10），清須市（鈴木幸子 262，1992-10），名古屋市北部（岩田妙子 921，1988-11），名古屋市南東部（花岡昭 80，1992-10），名古屋市南西部（鶴岡佐知子 209，1992-10），一宮市西部（渡辺幸子 1391，1993-10），稲沢市（家田晴俊 112，1992-10），あま市（鈴木秀樹 3531，1996-9），愛西市（西尾芳徳 859，1994-10）。南知多町（小林・深谷 2008）からも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

畑地や路傍，河川敷，埋立地などに生育し，地下茎を伸ばして栄養的に繁殖し，数年のうちに荒れ地を埋め尽くす大群落を形成する。他の植物の発芽を抑制する物質を出すため，競合する植物は生育できないと言われる。最近侵入してきたアワダチソウグンバイの食害を受ける。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩		○	○	
湿 地			○	
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

観賞用植物として明治時代に渡来し，大正末期より野生化したと言われる。戦後急速に分布を拡大し，愛知県でも 1960 年代に爆発的に増加した。

【被害状況／駆除策と留意点】

やや湿性の場所にも生育し，河川敷でタコノアシ（国: NT，県: NT）などと競合することがある。しかし既に帰化植物として定着した状態になっており，現実問題として根絶は困難である。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司. 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.265. 佐久島会，刈谷.

【関連文献】

北帰化 p.41，保帰化 p.58，平草IIIp.200，平帰化 p.216，農教 I p.388.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

オオアワダチソウ　*Solidago gigantea* Aiton *var. leiophylla* Fern.

【概要と選定理由】

多年生草本。セイタカアワダチソウによく似た帰化植物で，国の要注意外来生物とされており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

茎は直立し，高さ 70～120cm になる。葉はセイタカアワダチソウよりまばらにつき，ほとんど無柄または短い柄があり，葉身は線状長楕円形，長さ 10～15cm，幅 1.5～2cm，辺縁には鋭い鋸歯があり，両面ともほとんど無毛である。花期は 6～8 月，花序群は茎の先端について大きい円錐状，長さ 15～25cm になり，頭花は直径 6～7mm で黄色，枝の上側にややまばらにつく。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。アジア，ヨーロッパ等に帰化している。

【国内の分布】

北海道～九州。

【県内の分布】

東：設楽町旧町域西部（芹沢 70538，1994-8），設楽町旧市域西部（瀧崎 21385，2004-8T），新城市旧市域（小林元男 38463，1992-7）。**西**：豊田市（旧稲武町）（小木曽旭 s.n.，1932-8），豊田市（旧旭町）（日比野　修 1671，1993-8），豊田市（旧足助町）（芹沢 76876，2000-7），豊田市（旧下山村）（長谷川朋美 620，1992-7），豊田市（旧小原村）（日比野修 2357，1994-7），豊田市旧市域東部（山崎玲子 873，1994-7），豊田市旧市域北西部（岡本英一 836，1958-8），岡崎市（旧額田町）（金子律子 1036，1995-8），岡崎市旧市域北部（瀧崎吉雄 s.n.，1950-7T），岡崎市旧市域南部（本多さおり 499，1994-7），幸田町（金子律子 1036，1995-8）。**尾**：瀬戸市（日比野修 533，1992-7），日進市（半田多美子 1214，1993-8），豊明市（浅野守彦 570，1999-8），知多市（加藤雅憲 553，1996-8），小牧市（日比野修 4535，1998-6），清須市（鈴木幸子 734，1995-6），名古屋市南東部（武藤靖子 204，1992-8），稲沢市（水野峰子 344，1994-8），大治町（芹沢 70006，1994-7）。豊根村（旧村域），東栄町，設楽町津具地区（小林 2006），新城市（旧鳳来町）（小林 2000），田原市（旧町域，旧赤羽根町）（小林 2002）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

水路沿いや河川敷などの草地に生育する。セイタカアワダチソウに比べやや安定した場所に多く，路傍や休耕田などに生育することは少ない。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩		○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

園芸植物として明治中期に渡来し，現在でも切り花用に栽培されることがある。北海道などでは多く見られるが，愛知県ではセイタカアワダチソウに比べずっと少なく，群落も小さくて，空き地を埋め尽くすような状態にはならない。

【被害状況／駆除策と留意点】

要注意外来生物とされているが，愛知県では現在のところ，自然生態系に対する深刻な影響は生じていない。

【特記事項】

セイタカアワダチソウに似ているが茎も葉もほとんど無毛，花は夏に咲き，頭花は大きく，ややまばらにつく。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.155. 愛知県.
小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.150. 東三林業振興会.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.211. 愛知県林業試験研究推進協議会.

【関連文献】

北帰化 p.41，保帰化 p.59，平草Ⅲp.200，平帰化 p.217，農教Ⅰp.389.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

メリケントキンソウ　*Soliva sessilis* Ruiz et Pav.

【概要と選定理由】

小型の 1 年生草本。目立たない植物であるがそう果の先端に鋭い刺があり，そのためこれが繁殖すると芝生に座れなくなる。県内では最近確認されたばかりでまだ生育地も少ないが，やっかいな雑草であり今後分布を拡大する可能性も高いことから，詳細情報を記述した。

【形　態】

茎は分枝して広がり，直径 5～20cm の株になる。葉は枝の先端部につき，長さ 5～15mm の柄があり，葉身は楕円形，長さ 8～20mm，幅 7～15mm，2 回羽状(大きい葉では一部 3 回羽状)に切れ込む。花期は 4～6 月，頭花は枝の先端につくが，葉腋から出た枝が伸長して先端に再び頭花をつけるため枝の途中につくように見え，果時に直径 7～10mm，そう果は扁平で左右に翼，先端に刺があり，長さ約 4mm である。

【分布の概要】

【世界の分布】
原産地は南アメリカ。
【国内の分布】
本州（関東地方以西），四国，九州。
【県内の分布】
尾：春日井市（芹沢 86959, 2011-5），名古屋南東部（鳥居ちゑ子 2908, 2011-6）。

【生育地の環境／生態的特性】

芝生や半裸地に生育する雑草である。小型の植物なので，大型の植物が多い場所では生育できない。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩			○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本では 1930 年に和歌山県で採集されたのが最初の記録であるが，全国的に増加したのは比較的近年のことである。愛知県では 2011 年になって春日井市と名古屋市で確認された。春日井市の生育地は庄内川河川敷にある運動公園で，芝生やその周辺のまばらな草地に多数の個体が生育しており，侵入後しばらくたっているものと思われる。名古屋市の生育地は鶴舞公園で，ここは個体数が少なく，侵入初期と判断された。

【被害状況／駆除策と留意点】

現在のところまだ苦情はないらしいが，今後庄内川沿いの運動公園に分布を拡大する可能性が高く，注意が必要である。春日井の現地に限ればすでにかなりの個体数が生育しており，現実問題として根絶は困難と思われる。

【特記事項】

同属のシマトキンソウ *S. anthemifolia* は路傍などに生育し，そう果の刺は鋭くない。愛知県では**東**：田原市旧町域（小林元男 50522, 1994-4），田原市（旧渥美町）（小林元男 56207, 1995-4），**尾**：日進市（芹沢 85397, 2010-4），岩倉市（水谷善彌 10971, 1993-5），名古屋市南西部（芹沢 77273, 2001-5），稲沢市（水野峰子 178, 1993-6），弥富市（芹沢 85518, 2010-4）で採集されているが，現在のところ多いものではない。

【関連文献】

保帰化 p.34, 平帰化 p.221, 農教Ⅱ p.287.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

アカミタンポポ　*Taraxacum laevigatum* (Willd.) DC.

【概要と選定理由】

多年生草本。全国的に最も普通に見られる帰化植物の一つで，特に市街地に多い。セイヨウタンポポと共に国の要注意外来生物とされており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

根は地中に深く伸びる。葉はすべて根生，長さ 1～5cm の柄があり，葉身は長さ 5～15cm，雑種性でないものは多くの場合深く切れ込むか，三角形～半三日月形の裂片が規則的に並ぶ。花期は主に 4～5 月，花茎は花時に長さ 3-15cm，先端に 1 個の頭花をつける。頭花は直径 3cm 程度，小花はすべて舌状花，総苞外片は著しく反曲する。果期には花柄が長く伸び，そう果は赤褐色，本体は長さ約 3mm，嘴は長く伸びてその先に冠毛がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ。現在では，おそらく世界中の温帯域に帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：豊橋市北部（丸山由佳里 27-30*, 1995-5），豊橋市南部（丸山由佳里 25-29*, 1995-5）。**西**：豊田市（旧足助町）（鈴木万里亜 333, 1995-5），豊田市（旧小原村）（塚本威彦 885, 1994-4），豊田市旧市域東部（山崎玲子 391, 1993-4），豊田市旧市域北西部（磯貝彰宏 956, 1984-5），岡崎市旧市域南部（本多さおり 271, 1994-5），刈谷市（芹沢 39583, 1984-4）。**尾**：長久手市（半田多美子 1750, 1994-9），東郷町（浜島育子 424, 1996-5），東浦町（中村裕治 333, 1994-4），犬山市（芹沢・松田ちか子 86, 1986-4），扶桑町（福岡義洋 3144, 1995-5），春日井市（太田さち子 1132, 1993-10），名古屋市北部（丸山由加里 36-28*, 1995-5），名古屋市南東部（丸山由加里 29-11, 1995-5），一宮市西部（渡辺幸子 1863, 1994-9），稲沢市（鈴木秀樹 2056*, 1996-5），津島市（鈴木秀樹 2053*, 1996-5），飛島村（鈴木秀樹 2061*, 1996-5）。*はアロザイム解析により純粋なアカミタンポポであることを確認したもの，他は形態的に見ておそらく純粋なアカミタンポポと思われるものである。ニホンタンポポの遺伝子を取り込んでいる可能性があるものを含めれば分布域はもう少し広くなるが，それでもセイヨウタンポポと異なり，山間部にはほとんど出現しない。

【生育地の環境／生態的特性】

市街地の路傍や空き地などに多く，しばしば路面間隙雑草的な生え方をする。ニホンタンポポやセイヨウタンポポに比べると生活環の回転速度が速く，小型の個体でもよく開花する。セイヨウタンポポと同様無融合生殖を行って受精なしに種子を作り，そう果は比較的小さく，風に乗って遠くに飛散しやすい。種子は休眠せずに発芽して幼植物になる。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩			○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

北海道には明治時代に既に入っていたらしいが，全国的に多く見られるようになったのは 1960 年頃からである。上田（1960）は，「1959 年春，（岡崎市）愛知学芸大学構内各所で見た」と報告している。

【被害状況／駆除策と留意点】

アカミタンポポはセイヨウタンポポと異なり，郊外にはあまり進出していない。ニホンタンポポの遺伝子を取り込んだ個体は一時かなり増加したが，現在では少なくなっている。生育地が攪乱地に限られるので，在来植物への影響は限定的と思われる。

【特記事項】

T. laevigatum は，原産地のヨーロッパでは一つの種ではなく，多数の無融合生殖種の総称とされている。しかし，日本に帰化しているものが厳密にどの種に当たるかよく分からないので，日本では便宜的にこの学名が使われている。

【引用文献】

上田　豊. 1960. 愛知県西三河の帰化植物. 植物研究集録(5):1-8.

【関連文献】

北帰化 p.44, 保帰化 p.2, 平帰化 p.235, 農教 I p.394.
渡邊幹男・芹沢俊介. 2012. 見てわかる生物多様性② 愛知県のタンポポ地図. 28pp. 愛知教育大学，刈谷

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

セイヨウタンポポ　*Taraxacum officinale* Weber ex F.H.Wigg.

【概要と選定理由】

多年生草本。純粋なものは現在では稀であるが，雑種性の個体を含めれば全国的に最も普通に見られる帰化植物の一つで，アカミタンポポと共に国の要注意外来生物とされており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

純粋なものは資料が少なく，はっきりしない。以下の記述は雑種性のものを含む。

根は地中に深く伸びる。葉はすべて根生，長さ 1～5cm の柄があり，葉身は長さ 7～25cm，多少なりとも羽状に切れ込むが，その程度はさまざまである。花期は主に 4～5 月，花茎は花時に長さ 8～30 cm，先端に 1 個の頭花をつける。頭花は直径 3～4.5cm，小花はすべて舌状花，総苞外片は通常著しく反曲するが，雑種性のものの中にはほとんど反曲しない系統もある。そう果は黄褐色，本体は長さ 3～3.5mm，嘴は長く伸びてその先に冠毛がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ。現在では世界中に帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球に広く帰化しているが，稀である。

【県内の分布】

愛知県では豊橋市，名古屋市等で確認されているが極めて稀で，一般的にセイヨウタンポポと思われているものは大部分がニホンタンポポの遺伝子を取り込んだ雑種性の植物である（渡邊ほか 1997）。遺伝子レベルの解析を行わないと正確な識別はできないため，確実に真のセイヨウタンポポである標本は**東**：豊橋市北部（丸山由佳里 25-26, 1995-4）だけである。確実に雑種性である標本は，**東**：豊橋市南部（丸山由加里 27-29, 1995-5），田原市（旧渥美町）（丸山由加里 25-1, 1995-5），**尾**：半田市（岡本久美子 355, 2000-5），名古屋市北部（鈴木秀樹 2046, 1996-5），名古屋市南東部（丸山由加里 29-10, 1995-5），名古屋市南西部（鈴木秀樹 2044, 1996-5），稲沢市（鈴木秀樹 2054, 1996-5），あま市（鈴木秀樹 2048, 1996-5），津島市（鈴木秀樹 2052, 1996-5-11），飛島村（鈴木秀樹 2062, 1996-5）で得られている。おそらく雑種性と思われるが確認ができていない標本は，愛知県のほぼ全域から得られている。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍草地や牧草地など，攪乱された草地に生育する。無融合生殖を行って受精なしに種子を作り，そう果は比較的小さく，風に乗って遠くに飛散しやすい。種子は休眠せずに発芽して幼植物になる。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩	○	○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本では明治時代に北海道に入り，全国に拡がった。雑種性のものは，愛知県では 1980 年代末から増加したと推定される。

【被害状況／駆除策と留意点】

セイヨウタンポポの場合，交雑によってニホンタンポポの遺伝子（特に夏期休眠性に関する遺伝子）を取り込んだ「スーパータンポポ」に変身し，それが競合によってニホンタンポポを脅かすことが最も懸念される。しかし，幸いにして現在のところ，ニホンタンポポは愛知県の郊外ではそれなりに勢力を維持している。これが，たまたま極めて強力なスーパータンポポが出現していないからなのか，他のもう少し必然的な理由があるからなのかは，よくわかっていない。

【特記事項】

T. officinale は，*T. laevigatum* と同様原産地のヨーロッパでは一つの種ではなく，多数の無融合生殖種の総称とされている。しかし，日本に帰化しているものが厳密にどの種に当たるかよく分からないので，日本では便宜的にこの学名が使われている。

【引用文献】

渡邊幹男・丸山由加里・芹沢俊介. 1997. 東海地方西部における在来タンポポと帰化タンポポの交雑(1)ニホンタンポポとセイヨウタンポポの雑種の出現頻度と形態的特徴. 植物研究雑誌 **72**:51-57.

【関連文献】

北帰化 p.44, 保帰化 p.1, 平草Ⅲp.233, 平帰化 p.235, 農教Ⅰp.395.
渡邊幹男・芹沢俊介. 2012. 見てわかる生物多様性② 愛知県のタンポポ地図. 28pp. 愛知教育大学，刈谷

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

オオオナモミ　*Xanthium occidentale* Bertol.

【概要と選定理由】

1 年生草本。空き地や路傍に生育する。国の要注意外来生物とされており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

茎は紫褐色を帯び，高さ 50～150cm になる。葉は互生し，長さ 4～15cm の柄があり，葉身は広卵形，長さ，幅とも 5～18cm，浅く 3～5 裂し，先端は鋭頭，辺縁には不規則な重鋸歯状の欠刻があり，基部はくさび形だがその先で拡がり，全体として心形になる。花期は 9 月，雄頭花は茎頂または葉腋に短い円錐状に集まり，雌花はその下に数個つく。いがはやや長い楕円体，先端に 2 本の角があり，角を除いて長さ 12～18mm，幅 6～8mm，表面には先が曲がった長さ 3mm 程度の刺が多数つく。いがの表面は毛が少なく，光沢がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

メキシコ原産といわれるが，現在では世界各地に広く帰化している。

【国内の分布】

北海道～九州。

【県内の分布】

東：豊根村旧村域（小林元男 48861，1993-10），新城市旧市域（加藤等次 3866，1993-9），豊川市（芹沢 63501，1992-9），蒲郡市（井上美保子 490，1992-9），豊橋市北部（芳山朋子 65，1983-9），豊橋市南部（瀧崎 16182，1996-9T）。**西**：豊田市（旧旭町）（塚本威彦 824，1993-9），豊田市（旧足助町）（新井文子 1160，1994-10），豊田市（下山村）（長谷川朋美 939，1992-10），豊田市（旧小原村）（日比野修 2694，1994-10），豊田市（旧藤岡町）（塚本威彦 419，1992-9），豊田市旧市域東部（佐藤久美子 1022, 1993-9），豊田市旧市域北西部（磯貝彰宏 432, 1983-9），豊田市旧市域南西部（中村さとこ 909, 1993-9），みよし市（臼井里華 960, 1992-10），岡崎市旧市域北部（伊奈知子 950, 1993-9）岡崎市旧市域南部（本多さおり 917, 1994-9），幸田町（金子律子 1443，1995-10），刈谷市（芹沢・柴田みゆき 18，1987-9），安城市（中村さとこ 830，1993-9），碧南市（中村さとこ 822，1993-9）西尾市旧市域（芹沢 68435，1993-10），西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 1093，1994-9），西尾市（旧一色町）（中根幸司 1721，2007-9）。**尾**：瀬戸市（日比野修 877，1992-9），日進市（村瀬美智子 472，1992-9），大府市（竹田弘光 40, 1992-9），東浦町（中村裕治 1084, 1994-9），東海市（斎藤雅喜 598, 1993-10），阿久比町（渡邉麻子 1032, 1995-10），半田市（芹沢 68415，1993-10），武豊町（相羽福松 278，1979-9），常滑市（芹沢 68354，1993-10），美浜町（大西博 1132，1992-9），南知多町（芹沢 83437，2008-10），犬山市（松田ちか子 888，1986-9），小牧市（村瀬正成 931073，1993-10），春日井市（竹原芳子 313，1993-9），清須市（鈴木幸子 255，1992-9），岩倉市（竹下希望 1649，2010-10），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 146，1992-9），名古屋市南東部（渡辺幸子 4043，1999-9），名古屋市南西部（髙木順夫 530，1992-9），一宮市東部（芹沢 60729，1991-10），一宮市西部（伊藤静江 1417，1991-9），稲沢市（家田晴俊 104，1992-9），あま市（鈴木秀樹 3378，1996-9），愛西市（山田茂貴 298，1992-10），弥富市（芹沢 60704，1991-10）。豊根村富山地区，東栄町，設楽町（津具地区，旧町域）（小林 2006），田原市（旧町域，旧赤羽根町，旧渥美町）（小林 2002）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

河川敷や路傍，畑地の雑草。林内には侵入しない。果実は動物や衣服に付着して散布されるが，水に流されて運ばれることもあり，しばしばダム湖の水辺などに大きな群落を作る。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩		○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本では 1920 年代末に確認され，現在では全国的に普通に見られる雑草となっている。

【被害状況／駆除策と留意点】

在来種のオナモミ(国 VU，県 EN)との間に，稔性のある雑種（アイオナモミ）を作る。オナモミが現在のようにほぼ絶滅状態に追い込まれたのは，本種との競合により減少したことに加えて，交雑により遺伝的に本種に呑み込まれてしまったためと思われる（芹沢 2009）。

【引用文献】

小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.151，東三林業振興会.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.212，愛知県林業試験研究推進協議会.
芹沢俊介. 2009. アイオナモミ．シデコブシ **1**:101-102.

【関連文献】

北帰化 p.46，保帰化 p.85，平草IIIp.161，平帰化 p.207，農教 I p.399.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ナガバオモダカ　*Sagittaria graminea* Michx.

【概要と選定理由】

多年生の抽水植物。ジャイアントサギッタリアの名で栽培される観賞用水草で，栄養的に繁殖して大きな群落を作る。稀少な植物が多く生育する愛知県の湿地に侵入すれば，大きな影響を与えるおそれがある。国の要注意外来生物とされている。愛知県ではまだ少ないが今後分布を拡大する可能性があり，予防的な意味で県条例公表種にも選定された。

【形　態】

茎は短く，葉を束生する。葉ははじめ葉柄と葉身の区別がなく，線形，長さ 12～20cm，幅 0.7～2cm であるが，後から出る葉は長い柄があり，葉身は線状楕円形，長さ 8～15cm，幅 1.5～2.5cm，先端は鈍頭，辺縁は全縁となる。花期は 8～9 月，花は長い花茎の先に通常 3 個ずつ数段輪生し，雌花は直径約 1.5cm，花弁は 3 枚で白色，中央に球状に集まった多数の雌ずいがある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。世界各地で栽培される。

【国内の分布】

本州のところどころで逸出帰化が報告されている。

【県内の分布】

西：豊田市旧市域北西部（山崎玲子 1631, 1997-9），岡崎市旧市域北部（杉田一記 529, 2010-5）。名古屋市名東区明徳池でも生育が確認されている。

【生育地の環境／生態的特性】

ため池や水路。走出枝を出して栄養的に繁殖する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地				
水 域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

野生状態のものは，日本では 1970 年代に京都府の深泥池ではじめて確認された。おそらく投棄により逸出したものと思われる。愛知県では 2 点の標本があるだけだが，今後平野部や丘陵地の水辺に拡がるおそれがある。

【被害状況／駆除策と留意点】

繁殖力が旺盛で冬も枯れないため，一度定着すると在来の水生植物群落に大きな影響を与える可能性が高い。発見したらなるべく早い段階で抜き取る必要がある。熱帯魚水槽で栽培される観賞用水草には，本種のほかにハビコリハコベ（159 頁），ウチワゼニクサ（150 頁），ボタンウキクサ（205 頁）など，野外に逸出すると旺盛に繁殖し，在来植物群落に深刻な影響を与えるものが少なくない。増殖して余った場合でも絶対に野外に投棄しないよう，特に注意する必要がある。

【特記事項】

葉形は在来種のヘラオモダカに似ているが，ヘラオモダカは走出枝を出さず，花序が大きく横に拡がり，花は小さく両性である。

【関連文献】

平帰化 p.236，農教 I p.403，角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.21. 文一総合出版，東京.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

オオカナダモ　*Egeria densa* Planch.

【概要と選定理由】

常緑で多年生の沈水性水草。水中に密集した群落を作り，他の水草の生育を妨げる。国の要注意外来生物とされており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

茎は長さ 1m 以上になる。葉は 3～5 輪生，通常斜開し，広線形で長さ 1.5～3cm，幅 2～3mm，先端は鋭頭，辺縁には微小な鋸歯がある。花期は 7～10 月，花は長さ 3～5cm の柄があり，水面から出て開花し，花弁は 3 枚で白色，楕円形で長さ 5～8mm，幅 3～6mm である。雌雄異株であるが，日本には雄株だけが入っている。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は南アメリカ（アルゼンチン）だが，現在では北アメリカ，アジア，ヨーロッパ，オーストラリアなどに広く帰化している。

【国内の分布】

本州～琉球。

【県内の分布】

東：新城市旧市域（加藤等次 2091，1992-9），豊川市（加藤等次 2325，1992-10），豊橋市北部（芹沢 44790，1986-9），豊橋市南部（瀧崎 21054，2003-10T），田原市旧町域（瀧崎 24244，2008-7T）。**西**：豊田市旧市域東部（畑佐武司 6408，2003-10T）。**尾**：日進市（半田多美子 1225，1993-8），東海市（加藤雅憲 955，1996-10），犬山市（塚本威彦 1203，1994-7），大口町（福岡義洋 5041，2000-10），小牧市（福岡義洋 4359，1998-10），春日井市（竹原芳子 503，1994-7），清須市（鈴木幸子 919，1997-8），名古屋市南東部（浜島繁隆 s.n., 1971-7，OSA），一宮市東部（芹沢 70421，1994-8），一宮市西部（粟田郁男 317，1993-9），稲沢市（渡辺幸子 2812，1996-9T），愛西市（山田茂貴 111，1992-7）。OSA は大阪市立自然史博物館収蔵標本である。豊根村旧村域（小林 2006），新城市（旧鳳来町）（小林 2000）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

ため池や河川。茎が切れて流れ着くことで栄養繁殖する。休眠芽を作り冬を越す。休眠芽によっても栄養繁殖する。貧栄養の水域からかなり富栄養になった水域まで幅広く適応でき，水中に密生群落を作る。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地				
水 域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本へは植物生理学の実験材料や熱帯魚飼育のための水草として大正年間に導入され，1940 年代から野生化したと推測されている。1970 年代には琵琶湖で著しく繁茂し，問題となった。愛知県では，大原（1971）が産地として岡崎と名古屋をあげている。その当時は，まだあまり拡がっていなかったと思われる。

【被害状況／駆除策と留意点】

概要の項参照。名古屋市東山新池ではスイレンが生育しない岸近くを本種が占拠している。矢作川では駆除作戦が行なわれたが，完全には駆除できていない。

【特記事項】

遺伝学の実験材料であるシロイヌナズナも，各地の大学構内等で逸出して拡がっている。実験材料の逸出防止には細心の注意が必要である。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.157，愛知県.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.213，愛知県林業試験研究推進協議会.
大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.128. 名古屋営林局.

【関連文献】

保帰化 p.398-399，平草Ⅰp.5，平帰化 p.236，農教Ⅰp.404，角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.25. 文一総合出版，東京.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

コカナダモ　*Elodea nuttallii* (Planch.) St.John

【概要と選定理由】

常緑で多年生の沈水性水草。水中に密集した群落を作り，他の水草の生育を妨げる。汚濁した水域にも生育するが，貧栄養の清水域にも侵入する。国の要注意外来生物とされており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

茎はよく分枝し，長さ 1m 以上になる。葉は 3 輪生，線形～線状楕円形でねじれたり反曲したりすることが多く，長さ 7～15mm，幅 1～2mm，先端は鋭頭，辺縁には細鋸歯がある。花期は 6～9 月，雄花は苞鞘の中で形成され，切れて水面に浮かんで開花し，直径約 3mm である。雌雄異株であるが，日本には雄株だけが入っている。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ原産。現在では世界各地に帰化している。

【国内の分布】

本州，四国，九州。

【県内の分布】

西：豊田市旧市域東部（山崎玲子 908，1994-8），岡崎市北部（浜島繁隆 s.n., 1996-6, OSA），安城市（堀田喜久 1012，1993-10），碧南市（芹沢 81126，2006-10）。**尾**：長久手市（半田多美子 2861，1999-9），豊明市（中村裕治 1348，1994-10），東浦町（渡邉麻子 1067，1995-11），東海市（加藤雅憲 1267，1997-7），阿久比町（渡邉麻子 1016，1995-10），扶桑町（芹沢 65806，1993-6），大口町（福岡義洋 5039，2000-10），小牧市（福岡義洋 4350，1998-10），清須市（鈴木幸子 374，1992-11），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 1122，1996-8），名古屋市南東部（浜島繁隆 s.n., 1971-7, OSA），名古屋市南西部（髙木順夫 130，1992-7），一宮市西部（渡辺幸子 1164，1993-8），稲沢市（渡辺幸子 5487，2003-10T），愛西市（芹沢 59809，1992-8）。豊橋市南部（小林 2001），田原市（旧町域，旧渥美町）（小林 2002）からも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

ため池や河川。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地				
水 域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本へは熱帯魚飼育用の水草として昭和初期に渡来した。1961 年に琵琶湖で確認されたのが，野生化の最初の記録である。その後各地に拡がり，尾瀬沼などで著しく増殖して問題となった。愛知県でも平野部の水域のところどころで生育している。琵琶湖から出荷される稚アユに切れ藻が混入して各地に拡がったと推測されている。

【被害状況／駆除策と留意点】

概要の項参照。特に在来種のクロモ *Hydrilla verticillata* (L.f.) Royle と競合するが，本種は常緑性のため，殖芽越冬のクロモの初期生長を著しく阻害する。

【特記事項】

クロモは葉が 4～10 輪生し，夏緑性で，冬には殖芽だけが残る。

【引用文献】

小林元男. 2001. 豊橋市の植物 p.133. 愛知県植物誌調査会.
小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.152. 東三林業振興会.

【関連文献】

保帰化 p.397-398，平草 I p.5-6，平帰化 p.236，農教 I p.404，角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.25. 文一総合出版，東京.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

アツバキミガヨラン　*Yucca gloriosa* L.

【概要と選定理由】

常緑性の草本状低木。ユッカの名でよく栽培される植物であるが，逸出して稀少な海浜植物が生育する砂浜に侵入し，多大な影響を与えている。愛知県の条例公表種である。

【形　態】

茎は高さ 1～1.5m になる。葉は茎の上部に多数ついて放射状に拡がり，披針形，長さ 70cm 程度，先端は鋭尖頭，質は厚くて硬い。花期は 8～11 月，茎頂に高さ 1～3m の総状花序を直立させ，枝を分けて，2～5cm 間隔で花をつける。花はやや下向きに咲き，直径 5～6cm，白色，花被片は 6 枚で長楕円形，幅 1.2～2cm である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ南部。世界中の暖地で栽培される。

【国内の分布】

記録は少ないが，実際には西南日本の海岸に広く逸出していると思われる。

【県内の分布】

西：西尾市（旧一色町）（芹沢 83499, 2008-10）。このほか豊橋市南部，田原市，常滑市などで野生化しているが，標本が作成されていない。

【生育地の環境／生態的特性】

砂浜などの裸地に生育する。耐塩性が高く，潮風の吹き付ける場所，風で砂が動く場所でも生育できる。茎の断片は容易に発根して新個体となり，地下部からも栄養的に繁殖する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				○
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

園芸植物として渡来し，広く庭園などで栽培されているが，株が大きくなると邪魔者扱いされやすい。河川などに投棄された植物体の一部が，砂浜に流れ着いて拡がっていると思われる。

【被害状況／駆除策と留意点】

田原市中山町の西の浜では，ハギクソウ（国 CR，県 CR）の群落の近くに多数生育している。常滑市の蒲池海岸でも，スナビキソウ（県 EN）の群落の中に株が点在している。砂浜には他に背が高くなる植物はなく，そのため大型のアツバキミガヨランが侵入すると影響が大きい。

葉は硬く先が鋭く尖っており，さわると傷を負うほどで，株が大きくなると物理的に駆除するのは容易ではない。蒲池海岸ではブルドーザーを使って除去を試みたが，株がちぎれて広がり，かえって個体数が増加してしまったという。投棄しないことが最も重要であるが，現存するものについては除草剤の使用など，今後適切な方法を検討する必要がある。

【特記事項】

同定は奥山（2011）による。キミガヨランからは葉先が垂れさがらないこと，花に紫条が入らないことで区別されるという。園芸植物の投棄が生態系に大きな影響を与える例として，広く啓発に努める必要がある。

【引用文献等】

奥山雄大．2011．植物図鑑.筑波実験植物園 HP. http://www.tbg.kahaku.go.jp/recomend/llustrated/

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

ホテイアオイ　*Eichhornia crassipes* (Mart.) Solms-Laub.

【概要と選定理由】

浮遊性の水生植物。走出枝の先に子株をつけて栄養的に増殖し，水面を覆って他の水草の生育を妨げる。国の要注意外来生物とされており，日本および世界の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

根は水中に垂れ，黒紫色で根毛がよく発達する。葉は束生し，長さ 5～30cm の柄があり，柄の中部はふくらんで浮嚢となるが，密生するとほとんどふくらまないこともある。葉身は広円心形～円形，長さ 3～13cm，幅 5～12cm，全縁である。花期は 8～10 月，花茎は長さ 10～40cm で，先端に 5～15 個の花をつける。花は淡紫色で直径約 3cm，花被片は 6 枚で，基部は筒状になる。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は南アメリカ。現在では全世界の熱帯～亜熱帯域に広く帰化している。

【国内の分布】

本州～琉球。

【県内の分布】

東：新城市旧市域（石川静雄 168，196-10），豊川市（加藤等次 2276，1992-10），豊橋市北部（瀧崎 22075，2005-8T），豊橋市南部（瀧崎 15199，1994-8T）。**西**：豊田市旧市域東部（山崎玲子 286，1992-9），豊田市旧市域南西部（土場トシ子 163，1992-8），岡崎市旧市域南部（本多さおり 649，1994-8），幸田町（金子律子 1581，1995-10），安城市（堀田喜久 591，1993-8），高浜市（中村裕治 1254，1994-10），西尾市旧市域（中村さとこ 499，1993-7）。**尾**：長久手市（伊藤恭子 672，1992-9），日進市（鈴木淳 423，1993-9），東浦町（渡邉麻子 1020，1995-10，）知多市（加藤雅憲 677，1996-9），半田市（岡本久美子 902，2000-10），常滑市（梅田零奈 837，2000-10），春日井市（太田さち子 1208，1993-10），清須市（鈴木幸子 547，1993-9），名古屋市北部（太田由美子 205，1994-9），名古屋市南東部（渡辺幸子 1747，1994-8），名古屋市南西部（髙木順夫 212，1992-7），稲沢市（家田晴俊 294，1994-10），津島市（山田茂貴 861，1993-10）。田原市（旧町域，旧赤羽根町，旧渥美町）（小林 2002）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

ため池などの止水域に生育する。流れのある水路でも，ヨシやガマなどがあればその近くに生育することがある。休耕田などの浅い水域にも見られ，水が少なくなると陸生型となることもある。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地				
水 域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本へは明治時代に観賞用に導入された。花が美しく，細かい根は金魚やメダカの産卵床としても用いられる。熱帯域では昔から害草化していたが，愛知県を含む本州中部では 40 年くらい前まであまり逸出しなかった。浜島繁隆氏によれば，1967 年 7 月に豊明市，同 8 月に蟹江町で見たという。現在はあちこちで見かけるようになったが，継続的に生育している場所はそれほど多くない。

【被害状況／駆除策と留意点】

概要の項で述べたように繁殖力が旺盛で水面を完全に覆ってしまうので，水中の植物は光を遮られ，全て消失してしまう。自然に分布を拡大することは少ないので，対策としては投棄しないことが最も重要である。過去に溜め池などに水質浄化の目的で導入された事例もあるが，秋にすべて引き上げなければ効果はなく，怠れば景観上も枯れ跡が汚くなるだけである。

【引用文献】

小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.157. 東三林業振興会.

【関連文献】

保帰化 p.368，平帰化 p.238，農教Ⅰp.410，角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.57. 文一総合出版，東京.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

キショウブ　*Iris pseudacorus* L.

【概要と選定理由】

水辺に生育する多年生草本。ため池の岸や水路に密生した群落を作り，在来の水辺植物と競合する。国の要注意外来生物とされており，愛知県の条例公表種でもある。日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

地下茎は太く，分枝して横にはう。地上茎は上部で分枝し，高さ 50～120cm になる。葉は剣状で互生し，長さ 40～100cm，幅 1～2.5cm，全縁，中央の脈は隆起して明瞭である。花期は 5-6 月，花は枝先の苞葉の中に 1～2 個つき，黄色で直径 10cm 程度，外花被片は 3 枚で大きいが，内花被片は小さい。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ。世界各地で栽培され，逸出している。

【国内の分布】

北海道～九州。

【県内の分布】

東：豊川市（瀧崎 19611, 2002-5T），蒲郡市（鈴木美恵子 458, 1993-5），豊橋市北部（瀧崎 10456, 1988-5T），豊橋市南部（瀧崎 7721, 1984-6T）。**西**：豊田市（旧足助町）（鈴木万里亜 576, 1995-5），豊田市（旧下山村）（長谷川朋美 406, 1992-5），豊田市（旧小原村）（塚本威彦 1018, 1994-5），豊田市（旧藤岡町）（日比野修 1227, 1993-5），豊田市旧市域東部（山田初代 559, 1991-5），豊田市旧市域北西部（山崎玲子 86, 1992-5），豊田市旧市域南西部（落合鈴枝 214, 1993-5），みよし市（臼井里華 313, 1992-5），岡崎市（旧額田町）（福岡義洋 576, 1990-5），岡崎市旧市域北部（芹沢 65580, 1993-5），岡崎市旧市域南部（本多さおり 265, 1994-5），幸田町（金子律子 631, 1995-5），刈谷市（瀧崎 4084, 1980-5T），安城市（堀田喜久 1000, 1993-10），西尾市旧市域（中村さとこ 223, 1993-5）。**尾**：瀬戸市（日比野修 1243, 1993-5），日進市（半田多美子 948, 1993-5），東郷町（鬼頭弘 128, 1992-5），豊明市（浅野守彦 1255, 2002-5），東浦町（渡邉麻子 340, 1995-5），東海市（加藤雅憲 340, 1996-6），常滑市（鳥居ちゑ子 1587, 1999-5），犬山市（平嶋敏 536, 1989-5），扶桑町（芹沢 65793, 1993-6），小牧市（村瀬正成 930307, 1993-6），春日井市（太田さち子 37, 1993-5），清須市（鈴木幸子 66, 1992-6）名古屋市北部（鳥居ちゑ子 624, 1994-5），名古屋市南東部（渡辺幸子 233, 1992-5），名古屋市南西部（鈴木秀樹 2083, 1996-5），一宮市西部（渡辺幸子 4223, 2000-5），稲沢市（山内富士子 s.n., 1979-6），愛西市（山田茂貴 438, 1993-5），蟹江町（永田晴美 911, 2000-5）。豊根村（富山地区，旧村域），東栄町，設楽町（津具地区，旧町域）（小林 2006），新城市（旧鳳来町，作手地区，旧市域）（小林 2000），田原市（旧町域，旧赤羽根町，旧渥美町）（小林 2002）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

栽培すれば水辺以外でも育つが，逸出したものは常に水がある環境に生育する。ため池の岸や河川敷の湿地，水路等に多く，地下茎で栄養繁殖するだけでなく，種子が水に浮いて散布される。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地				
水 域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

園芸植物として明治中期に渡来し，栽培されたものが逸出した。愛知県では平野部に多いが，三河山間部にも生育している。大原（1971）の目録には記録がなく，その当時はほとんど逸出していなかったと思われる。

【被害状況／駆除策と留意点】

概要の項参照。

【特記事項】

アヤメ属の在来種は，すべて紫色系の花をつける。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.163. 愛知県.
小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.157. 東三林業振興会.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.218. 愛知県林業試験研究推進協議会.
大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌. 178pp. 名古屋営林局.

【関連文献】

保帰化 p.361, 保帰化 p.361, 平草Ⅰp.62, 平帰化 p.239, 農教Ⅰp.412, 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.61. 文一総合出版, 東京.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ノハカタカラクサ　*Tradescantia fluminensis* Vell.

【概要と選定理由】

常緑性の多年生草本。移入維管束植物の大部分は開けた攪乱地に生育しており，本種のように林内に入り込んで群落を形成するものは少ない。国の要注意外来生物とされており，愛知県の条例公表種でもある。

【形　態】

茎は地表をはい，枝を分けてその先端に無性芽をつけ，先端部は斜めに立ち上がる。葉は互生し，基部は長さ 7～12mm の葉鞘となり，葉鞘の口辺には縁毛がある。葉身は卵形～卵状長楕円形，長さ 3～6cm，幅 1.5～3cm，先端は鋭頭で平行脈がある。花期は 5～7 月，花は茎の先端部に集まってつき，内花被片は 3 枚で同形，長楕円形で長さ 7～10mm，白色，外花被片も 3 枚，長卵状楕円形で緑色である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は南アメリカ。斑のあるものは世界各地で栽培される。

【国内の分布】

本州，四国，九州。

【県内の分布】

東：豊川市（瀧崎 19116，2001-9T），蒲郡市（堀田喜久 202，1991-6），豊橋市北部（瀧崎 13258，1992-6），豊橋市南部（瀧崎 13370，1992-7），田原市旧町域（瀧崎 24266，2008-7T）。**西**：豊田市旧市域南西部（畑佐武司 3554，2002-5T），みよし市（臼井里華 443，1992-5），幸田町（金子律子 766，1995-6），安城市（堀田喜久 415，1993-5），西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 436，1994-5），西尾市（旧一色町）（瀧崎 25378，2009-6T）。**尾**：豊明市（横井邦子 274，1993-5），大府市（竹田弘光 110，1993-5），東浦町（渡邉麻子 517，1995-6），知多市（加藤雅憲 315，1996-6），阿久比町（渡邉麻子 353，1995-5），武豊町（岡本久美子 463，2000-6），常滑市（芹沢 66412，1993-7），美浜町（芹沢 59062，1991-6），南知多町（大西博 439，1992-5），扶桑町（上山秀郎 156，1993-5），大口町（竹下希望 172，2010-5），小牧市（近藤清和 4-11，1991-5），春日井市（山田果与乃 1572，2010-5），清須市（鈴木幸子 449，1993-5），名古屋市北部（広部栄 130，1993-8），名古屋市南東部（渡辺幸子 171，1992-5），名古屋市南西部（髙木順夫 88，1992-6），稲沢市（家田晴俊 263，1994-6）。新城市旧市域（小林 2000）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

林縁や林内に生育する。強い直射日光が当たるところでは，葉が焼けてしまう。匍匐茎に多数の無性芽をつけ，栄養的に繁殖する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林		○	○	○
草･岩				
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

園芸植物として昭和初期に渡来した。栽培種は葉に帯状の白い斑が入り，博多帯のようなのでハカタカラクサと呼ばれる。斑がなくなったものが逸出し，全国的にも愛知県でも暖地で野生化している。大原（1971）の目録では産地として蒲郡竹島と吉良が挙げられており，その当時はまだ少なかったと思われる。

【被害状況／駆除策と留意点】

林内に入り込んで群落を形成するため，さまざまな在来種の生育を著しく圧迫する。豊川市（旧音羽町）の切山地区では，沢と道路に沿っておよそ 1km ほどの区間のスギ林床を覆いつくしている。不用意に引き抜くと匍匐茎や無性芽が残り，すぐに元の状態に戻ってしまう。

【特記事項】

ミドリハカタカラクサとも呼ばれる。従来の「ノハカタカラクサ」は栽培型の斑が消えた全体緑色で種子ができないものと，茎や葉裏が多少なりとも紫色を帯び種子ができる型を含んでいて，「ノハカタカラクサ」の名を後者に限定して用いることもある。オオトキワツユクサ *T. albiflora* Kunth は本種に比べ葉が薄くて大きく，葉縁の毛が目立つもので，愛知県では**尾**：名古屋市北部（鳥居ちゑ子 2933, 2011-7）で確認されている。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.164. 愛知県.
大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.143. 名古屋営林局.

【関連文献】

北帰化 p.197, 保帰化 p.369, 平帰化 p.241, 農教Ⅱp.309.

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

メリケンカルカヤ　*Andropogon virginicus* L.

【概要と選定理由】

多年生草本。大部分の帰化植物は農耕地や河川敷など比較的富栄養の攪乱地に生育するが，本種は愛知県の自然を特徴づける丘陵地のやせ山に侵入して群落を作り，その点で特に自然生態系に対する影響が大きい。国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

稈は束生し，高さ 50～100cm になる。葉は線形，幅 2～4mm，葉舌は小さい。稈の上部の葉は葉身が退化し，苞状になる。花期は 9～10 月，花序は 2～3 本の総からなり，総は長さ 2～4cm，軸に白色の長毛がある。無性小花は退化して柄だけが残り，その柄にも白い長毛がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。南アメリカ，アジア，オーストラリアに帰化している。

【国内の分布】

北海道～九州。

【県内の分布】

東：豊根村旧村域（村松正雄 12189，1992-10），設楽町旧町域東部（小林元男 53723，1994-9），新城市（旧鳳来町北東部）（加藤等次 1923，1992-9），新城市旧市域（加藤等次 4180，1993-10），豊川市（加藤等次 2051，1992-9），蒲郡市（大原準之助 s.n.，1964-10），豊橋市北部（芹沢・芳山朋子 243, 1984-10), 豊橋市南部(瀧崎 16631, 1997-10T), 田原市(旧渥美町)（瀧崎 23443, 2007-9T)。**西**：豊田市（旧稲武町）（鈴木学 2778，1983-10），豊田市（旧旭町）（日比野修 1800，1993-10），豊田市（旧足助町）（水野岸子 876，1985-10），豊田市（旧下山村）（長谷川朋美 978，1992-10），豊田市（旧小原村）（日比野修 2643，1994-10），豊田市旧市域東部（山田初代 1120，1991-9），豊田市旧市域北西部（磯貝彰宏 357，1983-9），豊田市旧市域南西部（畑佐武司 5124，2002-9T），みよし市（臼井里華 870，1992-9），岡崎市（旧額田町）（福岡義洋 1435，1990-9），岡崎市旧市域北部（中西普佐子 20，1991-10），岡崎市旧市域南部（本多さおり 847，1994-9），幸田町（金子律子 1255，1995-9），刈谷市（芹沢 36143，1982-10），安城市（堀田喜久 888，1993-10），碧南市（中村さとこ 1109，1993-10），西尾市旧市域（中村さとこ 1082，1993-10），西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 1025，1994-9）。**尾**：長久手市（半田多美子 869，1992-10），東郷町（鬼頭弘 245，1992-10），大府市（中村裕治 1237, 1994-10), 東浦町（竹田弘光 219, 1994-9), 知多市（加藤雅憲 967, 1996-10），阿久比町（渡邉麻子 987, 1995-10), 半田市（岡本久美子 767, 2000-9), 常滑市（林彰一 680, 1990-9），美浜町（林彰一 848, 1990-9), 犬山市（松田ちか子 965, 1986-9), 江南市（竹下希望 1564, 2010-10），小牧市（村瀬正成 930616，1993-9），春日井市（竹原芳子 236，1993-9），清須市（鈴木幸子 625，1992-10），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 150，1992-9），名古屋市南東部（渡辺幸子 751，1992-10），名古屋市南西部（高木順夫 19530, 2010-10T），一宮市西部（渡辺幸子 1343，1993-10），稲沢市（家田晴俊 118，1992-10），愛西市（山田茂貴 328，1992-10），弥富市（竹原芳子 987，1995-9）。

【生育地の環境／生態的特性】

小花には長い毛があり，よく風散布されるため，裸地ができるといち早く侵入する。貧栄養の土地にもよく生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩	○	○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本では昭和 10 年代に京都府ではじめて確認された。愛知県では，大原(1971)が「県下の丘陵，郊外地に多い」と記述しており，その当時すでに普通に見られる植物になっていたと思われる。現在では平野部から山地まで，広い範囲に生育している。

【被害状況／駆除策と留意点】

やせた丘陵地の粘土質の半裸地などにもよく生育し，しばしばウンヌケ(国 NT，県 NT)やウンヌケモドキ(国 NT，県 VU)と競合する。しかし，既に帰化植物として定着した状態になっており，現実問題として根絶は困難である。

【引用文献】

大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.130. 名古屋営林局.

【関連文献】

北帰化 p.204，平草 I p.91，平帰化 p.244，農教 I p.421，長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.718. 平凡社，東京.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

カモガヤ　*Dactylis glomerata* L.

【概要と選定理由】

多年生草本。牧草として導入された植物で現在では全国的に最も普通に見られる帰化植物の一つとなっており，花粉アレルギーの原因植物ともなる。国の要注意外来生物とされており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

稈は束生し，高さ 60～100cm になる。葉は線形，幅 7～10mm，葉舌は三角形で膜質，長さ 5～10mm ある。花期は 4～6 月，円錐花序は長さ 10～20cm，枝は長くて開花時に開出し，上部に多数の小穂を密集してつける。小穂は長さ 7～8mm，数個の小花からなる。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ～西アジア。現在では世界各地の暖～温帯に帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：新城市（旧鳳来町北東部）（加藤等次 1326，1992-5），新城市（旧鳳来町南東部）（小林元男 52132，1994-6），新城市旧市域（瀧崎 26736，2010-5T），豊川市（瀧崎 13193，1992-6），蒲郡市（堀田喜久 206, 1991-6），豊橋市北部（瀧崎吉雄 s.n., 1959-5T），豊橋市南部（瀧崎 14300, 1993-5），田原市旧町域（瀧崎 23979，2008-5T）。**西**：豊田市（旧稲武町）（鈴木学 1148，1983-5），豊田市（旧旭町）（芹沢 62007，1992-6），豊田市（旧足助町）（水野岸子 400，1985-7），豊田市（旧下山村）（長谷川朋美 391，1992-5），豊田市（旧小原村）（塚本威彦 990，1994-5），豊田市（旧藤岡町）（日比野修 1128，1993-5），豊田市旧市域東部（山田初代 474，1991-5），豊田市旧市域北西部（磯貝彰宏 1021, 1984-5），豊田市旧市域南西部（落合鈴枝 220, 1993-5），みよし市（臼井里華 175, 1992-4），岡崎市（旧額田町）（福岡義洋 740，1990-6），岡崎市旧市域北部（中西普佐子 452，1993-4），岡崎市旧市域南部（堀田喜久 287, 1991-6），幸田町（堀田喜久 96, 1991-5），刈谷市（芹沢 45692, 1987-5），安城市（堀田喜久 128，1991-5），西尾市旧市域（中村さとこ 146，1993-4），西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 488，1994-5），西尾市（旧吉良町）（堀田喜久 245，1991-6），西尾市（旧一色町）（瀧崎 25410，2009-6）。**尾**：瀬戸市（日比野修 283，1992-5），日進市（伊藤恭子 152，1992-4），東郷町（鬼頭弘 101，1992-5），大府市（竹田弘光 109，1993-5），知多市（加藤雅憲 210，1996-5），半田市（岡本久美子 79，2000-4），常滑市（芹沢 65086，1993-5），南知多町（大西博 608，1992-6），犬山市（松田ちか子 370, 1986-6），扶桑町（芹沢 65771, 1993-6），小牧市（村瀬正成 930150, 1993-5），春日井市（山田果与乃 54, 1993-5），岩倉市（鈴木秀樹 2117, 1996-5），清須市（鈴木幸子 54, 1992-5），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 882，1995-5），名古屋市南東部（花岡昭 101，1993-5），名古屋市南西部（鈴木秀樹 1901，1996-5），一宮市西部（渡辺幸子 907，1993-5），稲沢市（水野峰子 1641993-5），愛西市（山田茂貴 413，1993-5），弥富市（竹原芳子 734，1995-5）。豊根村（富山地区，旧村域），東栄町，設楽町（津具地区，旧町域）（小林 2006）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍や草地，林縁部に生育する。林縁部にも生育するが，林内に入り込むことはない。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩	○	○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本へは江戸時代末期に渡来したらしく，その後も牧草として繰り返し導入された。道路法面の緑化材としても使用される。現在では平野部から山地まで広く生育している。

【被害状況／駆除策と留意点】

花粉症のアレルギー源となるが，既に帰化植物として定着した状態になっており，現実問題として根絶は困難である。生育地が攪乱地に限られるので，在来植物への影響は限定的と思われる。

【特記事項】

オーチャードグラスとも呼ばれる。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.222. 愛知県林業試験研究推進協議会.

【関連文献】

北帰化 p.215，保帰化 p.391，平草 I p.115，平帰化 p.244，農教 I p.438-439，長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.206. 平凡社，東京.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

シナダレスズメガヤ　*Eragrostis curvula* (Schrad.) Nees

【概要と選定理由】

多年生草本。法面緑化用に導入された植物で大きな株になり，河川敷などに群落を作る。国の要注意外来生物とされており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

稈は多数束生し，長さ 100～150cm になる。葉は糸状，幅 1.5～2mm，葉鞘の口辺には長い軟毛がある。花期は 5～10 月，円錐花序は長さ 30～50cm，枝は開出または斜上し，更に分枝してややまばらに小穂をつける。小穂は長さ 7～12mm，7～11 個の小花からなる。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は南アフリカ。現在では世界各地に帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：豊根村富山地区（瀧崎 24330，2008-7T），豊根村旧村域（瀧崎 24571，2008-8T），新城市（旧鳳来町南東部）（小林元男 52138，1994-6），新城市旧市域（瀧崎 24812，2008-10T），豊川市（瀧崎 13188, 1992-6T），蒲郡市（井上美保子 277, 1992-6），豊橋市北部（芹沢・芳山朋子 204, 1984-10），豊橋市南部（瀧崎 14416，1993-6），田原市旧町域（瀧崎 8068，1985-5），田原市（旧渥美町）（瀧崎 24707，2008-9T）。**西**：豊田市（旧稲武町）（鈴木学 2514，1983-9），豊田市（旧足助町）（水野岸子 393，1985-7），豊田市（旧小原村）（日比野修 2287，1993-6），豊田市（旧藤岡町）（日比野修 447, 1992-6），豊田市旧市域東部（畑佐武司 3360, 2002-5T），豊田市旧市域北西部（磯貝彰宏 1839，1984-10），豊田市旧市域南西部（畑佐武司 1702，2001-4T），みよし市（芹沢 61313，1992-5），岡崎市（旧額田町）（福岡義洋 1112，1990-8），岡崎市旧市域南部（本多さおり 463，1994-6），幸田町（金子律子 690，1995-6），刈谷市（芹沢 45660，1987-5），安城市（堀田喜久 72，1991-5），碧南市（中村さとこ 634，1993-8），西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 847，1994-8），西尾市（旧一色町）（瀧崎 25375，2009-6T）。**尾**：長久手市（半田多美子 261，1992-6），日進市（伊藤恭子 339，1992-5），東郷町（中村裕治 432，1994-5），豊明市（浅野守彦 1113，2001-8），東浦町（中村裕治 693，1994-6），知多市（加藤雅憲 408，1996-7），常滑市（芹沢 65171，1993-5），犬山市（平嶋敏 7291989-7），扶桑町（上山秀郎 160，1993-5），春日井市（大田さち子 347，1993-7），北名古屋市（鈴木幸子 354，1992-5），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 131，1992-9），名古屋市南東部（武藤靖子 115，1992-6），名古屋市南西部（髙木順夫 72，1992-5），一宮市東部（芹沢 70408，1994-8），一宮市西部（渡辺幸子 1064, 1993-7），稲沢市（水野峰子 172, 1993-6），愛西市（山田茂貴 342, 1992-10），蟹江町（永田晴美 586，1994-5）。南知多町（小林・深谷 2008）からも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍，空き地などに生育するが，特に河川敷の砂地に大きな群落を作ることが多い。路面の間隙に生育することもある。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩	○	○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

道路法面の緑化材として 1950 年頃導入され，特に山地を走る自動車道などで多く使用された。現在では平野部から山地まで広く生育している。愛知県では，大原（1971）の目録に記録がなく，その当時はあっても少なかったと思われる。

【被害状況／駆除策と留意点】

密集した群落では株が盛りあがり，他の植物が生えにくくなる。ススキのような大形の植物まで駆逐することがある。

【特記事項】

英名ウィーピングラブグラス。初期に導入されたものは葉が巻く傾向が強く，茎も柔らかくしなだれるものであったが，最近広がっているものは葉があまり巻かず，茎も立ち上がる傾向が強い。前者をシナダレスズメガヤ，後者をセイタカカゼクサと呼んで区別する人もいる。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司. 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.273. 佐久島会，刈谷.
大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌. 178pp. 名古屋営林局.

【関連文献】

北帰化 p.217，保帰化 p.386,平帰化 p.272-273，農教Ⅰp.444，長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.488. 平凡社，東京.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

オニウシノケグサ　*Festuca arundinacea* Schreb.

【概要と選定理由】

多年生草本。牧草として導入された植物で現在では全国的に最も普通に見られる帰化植物の一つとなっており，花粉アレルギーの原因植物ともなる。国の要注意外来生物とされており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

稈は束生し，高さ 50～150cm になる。葉は線形，幅 4～10mm，葉鞘の口辺には三日月型の葉耳があり，葉耳の縁には短毛がある。花期は主に 5 月，円錐花序は長さ 20～35cm，枝は長短 2 本が対になって出て，長い方には 5～20 個，短い方には 3～7 個の小穂がつく。小穂は長さ 7～15mm，数個の小花からなる。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ～西アジア。現在では世界各地の温帯域に帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：豊根村旧村域（村松正雄 12188，1992-10），新城市（旧鳳来町北東部）（加藤等次 1325，1992-5），豊川市（瀧崎 13170，1992-6T），蒲郡市（恒川敏雄 s.n.，1952-7TMNH），豊橋市北部（芳山朋子 479，1984-5），田原市旧町域（瀧崎 13073，1992-5T），田原市（旧渥美町）（小林元男 42983，1993-5）。**西**：豊田市（旧稲武町）（鈴木学 2519，1983-9），豊田市（旧旭町）（塚本威彦 761，1993-8），豊田市（旧足助町）（水野岸子 992，1985-11），豊田市（旧下山村）（長谷川朋美 972，1992-10），豊田市（旧小原村）（日比野修 2015，1994-4），豊田市旧市域東部（山田初代 475，1991-5），豊田市旧市域北西部（磯貝彰宏 1123，1984-5），豊田市旧市域南西部（落合鈴枝 205，1993-5），みよし市（臼井里華 357，1992-5），岡崎市旧市域北部（中西普佐子 455，1993-4），幸田町（堀田喜久 44，1991-5），刈谷市（瀧崎 4075，1980-5），安城市（堀田喜久 79，1991-5），碧南市（畑佐武司 1608，2001-4），西尾市旧市域（芹沢 65493，1993-5），西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 598，1994-6）。**尾**：長久手市（半田多美子 199，1992-5），日進市（村瀬美智子 669，1993-5），東郷町（浜島育子 28，1993-5），大府市（竹田弘光 83，1993-5），知多市（加藤雅憲 1193，1997-5），半田市（芹沢 65255，1993-5），常滑市（芹沢 65184，1993-5），南知多町（大西博 513，1992-5），犬山市（松田ちか子 321，1986-6），扶桑町（上山秀郎 292，1993-4），小牧市（村瀬正成 930209，1993-5），春日井市（秋山葉子 77，1993-5），岩倉市（山崎玲子 1397，1996-5），北名古屋市（鈴木幸子 127，1992-7），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 990，1995-9），名古屋市南東部（渡辺幸子 187，1992-5），名古屋市南西部（髙木順夫 6632，1999-5），一宮市西部（渡辺幸子 910，1993-5），稲沢市（山内富士子 s.n.，1979-6），弥富市（竹原芳子 694，1995-5）。豊根村富山地区，東栄町，設楽町（津具地区，旧町域）（小林 2006）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍や草地に生育する。林縁部にも生育するが，林内に入り込むことはない。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩	○	○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

牧草として明治時代に渡来した。砂防や道路法面の緑化目的でも使用される。現在では平野部から山地まで広く生育している。

【被害状況／駆除策と留意点】

既に帰化植物として定着した状態になっており，現実問題として根絶は困難である。生育地は多少なりとも攪乱された場所に限られており，在来植物に対する影響は限定的と思われる。

【特記事項】

牧草名はトールフェスク。ヒロハウシノケグサ *F. pratensis* Huds.は本種によく似ているが，全体にやや小さく，葉耳の辺縁は無毛である。愛知県でもところどころに帰化しているが，本種に比べればずっと少ない。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.224.，愛知県林業試験研究推進協議会.

【関連文献】

北帰化 p.219，平草 I p.113，平帰化 p.244-245，農教 I p.446，長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.124. 平凡社，東京.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ネズミムギ　*Lolium multiflorum* Lam.

【概要と選定理由】

1～2 年生草本。牧草として導入された植物で現在では全国的に最も普通に見られる帰化植物の一つとなっており，花粉アレルギーの原因植物ともなる。国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

稈は束生し，高さ 50～100cm になる。葉は線形，幅 3～8mm，葉鞘の口辺は狭い葉耳となり，葉舌は長さ 1～2mm である。花期は主に 5～6 月，花序は通常穂状だが牧草として改良されたものでは枝を分けることがあり，長さ 10～30cm，2 列に小穂をつける。小穂は長さ 10～20mm，7～20 個の小花からなり，護頴の先に長さ 5～10mm の芒がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ～北西アフリカ。現在では世界各地の温帯に帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：豊川市（加藤等次 1622，1992-8），蒲郡市（井上美保子 787，1993-5），豊橋市北部（瀧崎 M23, 1978-6T），豊橋市南部（内藤ゆかり 4-14, 1993-5）。**西**：豊田市（旧稲武町）（小林元男 44550, 1993-6），豊田市（旧旭町）（日比野修 2234, 1994-5），，豊田市（旧小原村）（塚本威彦 1159, 1994-6）豊田市（旧藤岡町）（日比野修 2883，1995-6），豊田市旧市域東部（山崎玲子 438，1993-5），豊田市旧市域北西部（土場トシ子 77，1992-6），豊田市旧市域南西部（芹沢 66060，1993-6），みよし市（臼井里華 330，1992-5），幸田町（金子律子 667，1995-6），刈谷市（柴田みゆき 107，1987-5），安城市（堀田喜久 411，1993-5），西尾市旧市域（芹沢 65494，1993-5）。**尾**：長久手市（半田多美子 236，1992-5），日進市（伊藤恭子 340，1992-5），東郷町（鬼頭弘 80，1992-4），大府市（竹田弘光 82，1993-5），東浦町（渡邉麻子 411，1995-6），東海市（加藤雅憲 227，1996-5），阿久比町（渡邉麻子 366，1995-5），半田市（芹沢 65256，1993-5），武豊町（畑佐武司 318，1999-7T），常滑市（芹沢 65185，1993-5），美浜町（畑佐武司 307，1999-7T），犬山市（平嶋敏 1226，1989-9），扶桑町（竹下希望 56, 2010-5），江南市（竹下希望 376, 2010-5），小牧市（村瀬正成 930147, 1993-5），春日井市（福岡義洋 2478，199305），岩倉市（山崎玲子 1395，1996-5），北名古屋市（鈴木幸子 70，1992-6），清須市（鈴木幸子 476，1993-6），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 307，1993-4），名古屋市南東部（渡辺幸子 898，1993-5），名古屋市南西部（鶴岡佐知子 28，1992-6），一宮市西部（渡辺幸子 908，1993-5），稲沢市（岩田妙子 s.n.，1988-7），あま市（鈴木秀樹 2262，1996-5），愛西市（山田茂貴 50，1992-5），蟹江町（永田晴美 447，1993-5）。豊根村（富山地区，旧村域），東栄町，設楽町（津具地区，旧町域）（小林 2006），新城市（旧鳳来町，作手地区，旧町域）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

牧草地や路傍，河川敷などに群落を形成する。林縁部にも生育するが，林内に入り込むことはない。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩	○	○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

明治初期に牧草として導入された。道路法面の緑化材としても使用される。現在では平野部から山地まで広く生育している。

【被害状況／駆除策と留意点】

攪乱された河川敷などに密集した群落を作り，多量の花粉を放出して，花粉症のアレルギー源となる。しかし，既に帰化植物として定着した状態になっており，現実問題として根絶は困難である。生育地が攪乱地に限られるので，在来植物への影響は限定的と思われる。

【特記事項】

イタリアンライグラスとも呼ばれる。次頁のホソムギと容易に交雑し，県内に見られるものの相当部分はネズミホソムギ *L.*×*hybridum* Hausskin.と呼ばれる雑種群である。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.169. 愛知県.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.225. 愛知県林業試験研究推進協議会.

【関連文献】

北帰化 p.224，平草 I p.114，平帰化 p.246，農教 I p.451，長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.128. 平凡社，東京.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ホソムギ　*Lolium perenne* L.

【概要と選定理由】

多年生草本。牧草として導入された植物で，花粉アレルギーの原因植物ともなる。国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

稈は束生し，高さ 30～80cm になる。葉は線形，幅 2～4mm，葉鞘の口辺は通常狭い葉耳となる。花期は主に 5～7 月，花序は穂状で長さ 10～25cm，2 列に小穂をつける。小穂は長さ 10～15mm，5～12 個の小花からなり，芒はない。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ～西アジア。現在では世界各地の温帯域に帰化している。

【国内の分布】

北海道～琉球。

【県内の分布】

東：豊川市（加藤等次 1543，1992-7），豊橋市北部（瀧崎 13229，1992-6），豊橋市南部（瀧崎 27486, 2011-5T), 田原市旧町域(瀧崎 22904, 2007-5T), 田原市(旧渥美町)（瀧崎 23895, 2008-5T)。**西**：豊田市（旧稲武町）（鈴木学 1165，1983-5），豊田市（旧足助町）（新井文子 570，1994-5），豊田市（旧下山村）（長谷川朋美 387，1992-5），豊田市（旧小原村）（日比野修 1117，1994-6），豊田市旧市域東部（畑佐武司 1915，2001-5T），豊田市旧市域北西部（磯貝彰宏 1355，1984-7），豊田市旧市域南西部（芹沢 66061，1993-6），岡崎市旧市域北部（伊奈知子 270，1993-5），西尾市旧市域（水野繁行 4-2，1993-5），西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 750，1994-7)。**尾**：長久手市（半田多美子 309，1992-6），東郷町（岡本沙矢香 218，2001-5），豊明市（浅野守彦 864，2000-5），大府市（中村裕治 503，1994-5），半田市（岡本久美子 447，2000-6），常滑市（芹沢 66404，1993-7），南知多町（瀧崎 M42，1978-7T），犬山市（平嶋敏 703，1989-6），大口町（竹下希望 686，2010-7），江南市（竹下希望 495，2010-6），北名古屋市（鈴木幸子 60，1992-5），名古屋市北部（竹下希望 769，2010-7），名古屋市南東部（渡辺幸子 300，1992-6），名古屋市南西部（髙木順夫 19080，2010-6），一宮市東部（山田果与乃 1679, 2011-5），一宮市西部（渡辺幸子 1617，1994-5），津島市（小澤澄夏 4-4，1993-5)。豊根村（富山地区，旧村域），東栄町，設楽町（津具地区，旧町域）（小林 2006）新城市（旧鳳来町）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍や空き地などに生育するが，通常あまり大きな群落にはならない。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩		○	○	○
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

明治初期に牧草として導入された。現在では主として平野部や丘陵地に見られるが，実際にはよく見れば多少芒があるものが多く，全く芒のないホソムギは少ない。

【被害状況／駆除策と留意点】

花粉症のアレルギー源となるが，ネズミムギより小型で量的にもそれほど多くない。生育地も攪乱地に限られるので，在来植物への影響は限定的と思われる。

【特記事項】

前頁のネズミムギに似るが，全体にやや小型で，小花は少なく，芒がない。しかし雑種のネズミホソムギが多いので，明確な識別が困難なこともある。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.169. 愛知県.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.225. 愛知県林業試験研究推進協議会.

【関連文献】

北帰化 p.224，平草 I p.114，平帰化 p.246，農教 I p.452，長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.130. 平凡社，東京.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

キシュウスズメノヒエ　*Paspalum distichum* L.

【概要と選定理由】

多年生草本。ため池の岸，水路，水田などの水辺に生育し，長く匍匐茎を伸ばして水辺に密集した群落を作る。国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

茎は束生し，下部は長く匍匐し，節から発根し，高さ 15～40cm の直立枝を出す。匍匐枝の節は有毛だが，直立枝の節は無毛になる。葉は線形，長さ 4～12cm，葉鞘口部以外は無毛である。花期は 6～10 月，花序は 2 本の総からなり，総は長さ 2～5cm で 2 列に小穂をつける。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカといわれるが，現在では世界の熱帯～暖帯に広く帰化している。

【国内の分布】

本州（関東地方）～九州。

【県内の分布】

東:豊川市(芹沢 52479, 1989-7), 豊橋市北部(瀧崎 1998-8T), 豊橋市南部(瀧崎 14570, 1993-9T), 田原市旧町域（瀧崎 9451，1987-7），田原市（旧渥美町）（瀧崎 24716，2008-9T)。**西**：豊田市旧市域東部（山崎玲子 261，1992-9），豊田市旧市域北西部（畑佐武司 4038，2002-6），豊田市旧市域南西部（落合鈴枝 354，1993-8），刈谷市（中村裕治 710，1994-6），安城市（堀田喜久 907，1993-10），碧南市（鈴木淳 10-8，1990-10），西尾市旧市域（芹沢 68677，1993-10)。**尾**：日進市（半田多美子 1185，1993-7），東浦町（中村裕治 719，1994-6），東海市（加藤雅憲 778，1996-9），知多市（加藤雅憲 884，1996-10），阿久比町（渡邉麻子 985，1995-10），半田市（芹沢 68433，1993-10），常滑市（鳥居ちゑ子 2948，2011-7），南知多町（大西博 1165，1992-9），犬山市（竹下希望 553，2010-6），大口町（竹原芳子 1185，1996-7），岩倉市（芹沢 70724，1994-9），北名古屋市（水谷善彌 10649，1992-9），清須市（芹沢 77928，2002-7），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 979，1995-8），名古屋市南東部（渡辺幸子 4503，2000-9），名古屋市南西部（鶴岡佐知子 154，1992-9），一宮市東部（佐分康之 1204，1996-9），一宮市西部（芹沢 60211，1991-9），稲沢市（岩田妙子 尾-1017，1988-8），大治町（芹沢 60176，1991-9），津島市（芹沢 49093，1988-7），蟹江町（永田晴美 609，1994-7），弥富市（畑佐武司 1479，2000-8)。新城市旧市域（小林 2000）からも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

概要の項参照。匍匐茎の断片は容易に発根し，耕すほど群落が拡大する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地			○	
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

1924 年に和歌山県で採集された。大原（1971）の目録では産地として渥美があげられているだけで，その当時はまだあまり多い植物ではなかったと思われる。県内で普通に見られるようになったのは 1980 年頃からである。

【被害状況／駆除策と留意点】

水田の強害雑草となっているだけでなく，かつて普通種であった多くの在来水田雑草を圧迫している。一昔前はむしろ嫌われ者であったアシカキなどは，本種と競合するため，現在ではほとんど見られなくなっている。

【特記事項】

4 倍体のチクゴスズメノヒエ var. *indutum* Sinners は全体にやや大型で葉鞘や節に毛があり，**東**：豊川市（小林元男 57922，1995-8），**西**：豊田市南西部（落合鈴枝 593，1994-9），**尾**：長久手市（半田多美子 2197，1996-8），豊明市（浅野守彦 982，2000-8），大口町（竹下希望 1265，2010-9），岩倉市（芹沢 70725，1994-9，名古屋市北部（鳥居ちゑ子 982，1995-8），名古屋市南東部（渡辺幸子 458，1992-7），名古屋市南西部（髙木順夫 572，1992-9），一宮市東部（芹沢 70411，1994-8），一宮市西部（渡辺幸子 1860，1994-9），稲沢市（渡辺幸子 6275，2011-7），あま市（鈴木秀樹 3010，1996-8），大治町（芹沢 71177，1994-10），愛西市（芹沢 71287，1994-10），弥富市（竹原芳子 901，1995-8）に生育している。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.171. 愛知県.
大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.134. 名古屋営林局.

【関連文献】

北帰化 p.230，平草 I p.98，平帰化 p.285，農教 I p.458.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

オオアワガエリ　*Phleum pratense* L.

【概要と選定理由】

多年生草本。牧草として導入された植物で，花粉アレルギーの原因植物ともなる。国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

稈は束生して直立し，高さ 70～130cm になる。葉は線形，幅 4～12mm，葉舌は膜質で長さ 1～3mm である。花期は 6～7 月，花序は細い円柱状で長さ 4～15cm，密に小穂をつける。小穂は長さ 3～3.5mm，1 個の小花からなり，小花は扁平で狭倒鐘形，2 個の苞頴はほぼ同形同大で，先に長さ約 1mm の刺状の芒がある。

【分布の概要】

【世界の分布】

ユーラシア大陸原産。現在では世界各地の温帯域に帰化している。

【国内の分布】

北海道～九州。

【県内の分布】

東：豊根村旧村域（村松正雄 11709，1992-8），設楽町津具地区（石田雄吉 458，1979-7），新城市（旧鳳来町北東部）（加藤等次 1525, 1992-7），新城市（旧鳳来町南東部）（小林元男 52147, 1994-6），豊橋市北部（瀧崎 M44，1978-7T），豊橋市南部（瀧崎 14421，1993-6），田原市旧町域（瀧崎 9447，1987-7）。**西**：豊田市（旧稲武町）（鈴木学 1608, 1983-8），豊田市（旧旭町）（芹沢 76824, 2000-6），豊田市（旧足助町）（水野岸子 539，1985-8），豊田市（旧下山村）（長谷川朋美 472，1992-6），豊田市（旧小原村）（日比野修 2321，1994-6），豊田市（旧藤岡町）（日比野修 405，1992-6），豊田市旧市域東部（山崎玲子 173，1992-7），豊田市旧市域北西部（山崎玲子 123，1992-6），豊田市旧市域南西部（落合鈴枝 287，1993-6），みよし市（臼井里華 509，1992-6），岡崎市（旧額田町）（福岡義洋 1085, 1990-8），岡崎市旧市域南部（本多さおり 347, 1994-6），幸田町（金子律子 946, 1995-7），刈谷市（芹沢 61926, 1992-6），安城市（堀田喜久 490, 1993-7）。**尾**：日進市（伊藤恭子 359, 1992-6），東郷町（鬼頭弘 141，1992-6），東浦町（渡邉麻子 606，1995-7），東海市（加藤雅憲 1264，1997-7），犬山市（松田ちか子 411，1986-6），春日井市（竹原芳子 496，1994-7），名古屋市北部（鳥居ちゑ子 1804，2000-7），名古屋市南東部（渡辺幸子 338，1992-6），愛西市（山田茂貴 474，1993-6）。豊川市（小林 2004）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

牧草地や空き地，河川の土手，埋立地などに生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩	○	○	○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本へは牧草として明治初期に輸入された。現在では平野部から山地まで広く生育しているが，市街地には少ない。

【被害状況／駆除策と留意点】

既に帰化植物として定着した状態になっており，現実問題として根絶は困難である。生育地は多少なりとも攪乱された場所に限られており，在来植物に対する影響は限定的と思われる。

【特記事項】

牧草としてはチモシーと呼ばれる。

【引用文献】

小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.191. 東三河農林水産事務所.

【関連文献】

北帰化 p.233，保帰化 p.382，平草 I p.126，平帰化 p.261，農教 I p.462-463，長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.370. 平凡社，東京.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

モウソウチク　*Phyllostachys heterocycla* (Carrière) Matsum.

【概要と選定理由】

常緑性の超大型草本。日本で一般的に栽培されている中では最も大形の竹で，新芽（タケノコ）は食用として広く利用される。もともとは植栽されたものであるが，長い地下茎を伸ばして周囲の林に侵入し，稈は 1 ヶ月で 20m 近く伸長して他の樹木を被圧する。現在日本の里山で，最も問題になっている植物である。愛知県の条例公表種である。

【形　態】

根茎は太くて地中を長く横走し，ところどころから地上茎を出す。稈は直立して高さ 20m，直径 20cm に達し，節は単環状，枝は 1 節から 2 本ずつ出る。タケノコは 4 月に出て，皮は黒紫褐色，背面に粗毛がある。葉は各枝先に 2-5 枚つき，披針形，長さ 6～10cm，幅 5～12mm である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は中国大陸。

【国内の分布】

北海道（南端）～九州。人里周辺に広く植栽される。

【県内の分布】

東：豊橋市北部（瀧崎 28166, 2011-12T），豊橋市南部（瀧崎 28167, 2011-12T），田原市（旧赤羽根町）（瀧崎 28168, 2011-12T）。**西**：豊田市（旧足助町）（鈴木万里亜 256，1995-4），豊田市（旧小原村）（日比野修 2969，1995-7），豊田市（旧藤岡町）（日比野修 2977，1995-7），豊田市旧市域東部（佐藤久美子 602，1993-7），豊田市旧市域北西部（芹沢 71341，1994-10），豊田市旧市域南西部（落合鈴枝 428，1993-9），みよし市（芹沢 69849，1994-6），岡崎市旧市域北部（芹沢 67132，1993-8），岡崎市旧市域南部（芹沢 69897，1994-6），幸田町（金子律子 1368，1995-10），刈谷市（白井直子 22，1993-5），安城市（堀田喜久 555，1993-8）西尾市旧市域（芹沢 67614，1993-9），西尾市（旧幡豆町）（壁谷重美子 649，1994-6）。**尾**：瀬戸市（日比野修 2367，1994-7），日進市（村瀬美智子 1005，1994-6），東浦町（中村裕治 751，1994-7），東海市（加藤雅憲 215，1996-5），阿久比町（渡邉麻子 1048，1995-10），半田市（岡本久美子 518，2000-7），常滑市（芹沢 68304，1993-10），犬山市（小林元男 53758，1994-9），春日井市（芹沢 66918，1993-8），岩倉市（芹沢 70739，1994-9），名古屋市南西部（髙木順夫 19598，2010-10），大治町（芹沢 70012，1994-7），蟹江町（永田晴美 597，1994-5）。豊根村（富山地区，旧村域），東栄町，設楽町（津具地区，旧町域）（小林 2006），新城市（旧鳳来町，旧市域）（小林 2000），豊川市，蒲郡市（小林 2004），南知多町（小林・深谷 2008）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

人家周辺の緩傾斜の適湿地に植えられていることが多いが，逸出したものは尾根にまで生育している。しかし通常開花・結実せず，そのため遠距離に分布を拡大することはない。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林		○	○	
草･岩				
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

江戸時代中期（1736 年）に鹿児島県に渡来したとされ，タケノコを食用とするため，また竹材を利用するために各地に植栽された。近年竹林の管理放棄に伴って生長が抑制されなくなり，そのため全国的にも愛知県でも，本種の群落が急速に拡大している。

【被害状況／駆除策と留意点】

里山の二次林だけでなく，造林地や時には自然林にまで侵入する。特に社寺林は，近くに竹林があることが多く，影響を受けやすい。田原市越戸大山の白山比咩神社社叢は稀少な暖地性植物が多く生育していたが，本種が繁茂して著しく劣化している。密生した竹林の林床は暗く，落ち葉が厚く堆積して他の植物が生育できなくなる。そのため竹林は，一般に生物多様性が乏しい場所になる。対策としては市民参加による伐採が考えられるが，一方で作業の際の林床踏み荒らしに注意する必要がある。市民参加の活動では，様々な自然体験活動を組み合わせて行うとよい（芹沢・桐山 2008）。

【特記事項】

マダケに比べ稈は太いが枝は細かく分かれ，葉は小さくて多数つく。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.173-174，愛知県.
小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.193. 東三河農林水産事務所.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.229. 愛知県林業試験研究推進協議会.
小林元男・深谷昭登司. 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.278. 佐久島会，刈谷.
芹沢俊介・桐山和也. 2008. 環境教育の展開と実践⑦ 平成桃太郎のタケ退治. 41 頁. 愛知教育大学出版会.

【関連文献】

鈴木貞雄. 1978. 日本タケ科植物総目録 p.70-71. 学習研究社，東京，保木Ⅱp.361-362，平木Ⅱp.256.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ヒガタアシ　*Spartina alterniflora* Loisel.

【概要と選定理由】

塩湿地性の大型多年生草本。日本にはもともと満潮時に水没する場所に生育する大型草本はなく，そのため干潮時にはほとんど無植被の広い干潟が出現して，渡り鳥のよい中継地になっている。そこに本種が侵入すれば，干潟生態系は深刻な影響を受けることが懸念される。北米植物誌では，干潟生態系に対する「深刻な脅威」と述べられている(Barkworth 2003)。愛知県の条例公表種である。

【形　態】

地下茎は太く, 直径 2cm ほどになり, 横走して中空, 多数の走出枝を出して密生群落を形成する。稈は高さ 2.5m，直径 3cm に達し，葉を互生する。葉は線形，長さ１mに達し，幅は 7～10mm，無毛，葉舌は長さ約 1mm である。花期は 9～10 月，花序は茎頂につき，長さ 50cm に達し，総は 7～15 本で軸に沿って立つ。小穂は瓦状に総に圧着し，護穎は無毛である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ東部。北アメリカ西部，南アメリカ，ヨーロッパ，中国，オーストラリアに帰化している。

【国内の分布】

愛知県（三河湾）および熊本県（八代海，有明海）。

【県内の分布】

東：豊橋市南部（飯田一令 s.n.，2008-10）。**尾**：半田市（芹沢 87539, 2011-10）。

【生育地の環境／生態的特性】

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地				○
水 域				○

塩湿地の最も海側に生育する。耐塩性が非常に高く，海水に 1 日の半分以上の時間水没していても生育できる。土壌も選ばず，砂礫地からヘドロがたまるような場所まで生育できる。しかし，塩分のない場所では生育できないらしい。

群落は水の流れと土砂などの流れを阻害し，堆積物をとらえて干潟を陸地化する。そのため，放置すると塩性湿地が草原になってしまうおそれがある。観察した限りでは，種子はほとんど形成されない。主力は栄養繁殖で，通常は走出枝の断片が流れに乗って分布を拡げるらしい。しかし，北アメリカ西部やヨーロッパで在来種と交雑する事例が報告されているから，稀に結実し，それによって急激に分布を拡大する可能性もある。

【侵入の経緯／現在の生育状況】

2008 年にはじめて採集され，しばらく不明種であったが，2011 年になって八木将勝氏の示唆により種名が確定できた。侵入経路は定かでないが，種子または走出枝の断片がバラスト水に混入してきた可能性がある。2008 年には，豊橋市の梅田川河口に数年生と思われる群落が少なくとも 2 カ所成立していた。熊本のものもおそらくほぼ同じ時期に侵入したと考えられる。2011 年には東西 2km，南北 2km ほどの範囲に密生群落が点在するほどに拡大しており，放置すればさらに広がる可能性が高い。

半田市の群落は 2011 年秋に発見されたが，植物体はまだ比較的小さく，侵入初期と思われる。国立環境研究所が行った遺伝子解析の結果を見ると，豊橋市梅田川の 2 個体と半田市の植物は葉緑体 trnT-trnL 領域の塩基配列に多少の差があり，同一クローンではないと判断される。豊橋市の集団が全て単一クローンならば, 半田市の植物は別途海外から侵入したと推定される。この点については，豊橋市の集団の遺伝的構造を調べて確定させる必要がある。

【被害状況／駆除策と留意点】

豊橋市の群落は，ハマサジ（国 NT，県 NT）シバナ（国 NT，県 NT）イソホウキギ（県 NT）ウラギク（国 VU）が生育する塩性湿地を埋め尽くし，これらの希少種の生育を著しく阻害している。隣接する汐川干潟や六条潟に侵入すれば，他生物や産業に対する影響もはかりしれない。2011 年 10 月に県･市が協働して駆除に取り組んだが，一部を除いて地上部を刈り取ることしかできなかった。今後も駆除作業を継続していく必要がある。半田市の群落も県によって地上部が除去された。

インターネット上での情報によれば，アメリカではグリホサート製剤を直接葉に塗り込む方法がもっとも効率の良い駆除方法とされている。人力での駆除には限界があるので，今後適切な方法を検討する必要がある。

【特記事項】

国の特定外来生物に指定されている *S. anglica* C.E.Hubb.は，本種とヨーロッパ産の *S. maritima* の雑種に起源する複 2 倍体種である。しかし，本種の方が大形で，環境影響も大きいと思われる。

【引用文献】

Barkworth, M.E. 2003. *Spartina* Schreb. Flora of North America **25**: 240-250. Oxford Univ. Press, New York.

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

ボタンウキクサ　*Pistia stratiotes* L.

【概要と選定理由】

浮遊性の水生植物。ホテイアオイと同様栄養的に増殖して水面を覆い，他の水草の生育を妨げる。一時的な増殖速度はホテイアオイ以上である。国の特定外来生物に指定されており，日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形　態】

主茎はごく短く，根は細かく枝分かれして水中に垂れる。葉はロゼット状に拡がり，倒三角形～倒卵形で基部は短い柄状になり，長さ 7～15cm，円頭またはやや凹頭，両面にビロード状の短毛を密生する。花期は 9～10 月，花序は葉の間に生じるが，小さく淡緑色で目立たない。

【分布の概要】

【世界の分布】

南アフリカ原産とも言われるが，現在では世界の熱帯，亜熱帯域に広く分布している。

【国内の分布】

本州（埼玉県以西）～琉球，小笠原。

【県内の分布】

東：豊橋市南部（小林元男 58569，1995-10）。**西**：豊田市旧市域東部（山崎玲子 878，1994-7），豊田市旧市域南西部（畑佐武司 2291，2001-8T），西尾市（旧吉良町）（小林元男 58546，1995-10）。**尾**：東浦町（中井三従美 30，1992-9），名古屋市南東部（渡辺幸子 4454，2000-9）。豊川市（小林 2004）からも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

平野部の池沼や流れの緩い水路に浮遊し，葉の間から走出枝を伸ばして先端に幼株をつけ，栄養的に盛んに繁殖する。熱帯性のため冬に枯死してしまうことが多いが，越冬すれば常緑多年生となる。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地				
水 域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

昭和初期に観賞用水草として導入され，当時から沖縄や小笠原では逸出していたらしい。本州では越冬できないと言われていたが，1990 年代から越冬事例が報告されるようになり，場所によっては著しく増殖するようになった。愛知県でも時折平野部の池沼で爆発的に増殖することがあるが，現在のところ継続的に生育している場所は少ない。

【被害状況／駆除策と留意点】

越冬して継続的に生育するようになればもちろん影響は大きいが，一時的に増殖して密集した群落を作るだけでも，在来の水生植物は深刻な影響を受ける。例えば名古屋市大森雨池ではガガブタ（国 NT，県 NT）が池一面に生育していたが，投入された本種が増殖して水面を覆い，その後本種は消失したが，ガガブタも見られなくなった（愛知県 2009）。

【特記事項】

英名はウォーターレタス。

【引用文献】

愛知県 2009. p.566.
小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.195. 東三河農林水産事務所.

【関連文献】

平帰化 p.291，農教Ⅰp.472，角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.108. 文一総合出版，東京.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

メリケンガヤツリ　*Cyperus eragrostis* Lam.

【概要と選定理由】

多年生草本。大型のカヤツリグサで，富栄養化した水辺の攪乱跡地などに大きな群落を作ることがある。国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

茎は束生し，高さ 20～70cm になる。茎はこの類としては太く，3 稜もやや不明である。葉は茎の下部に集まってつき，通常茎より短く，幅 4～8mm，基部の 2～3 個は葉身がほとんどなく，赤色を帯びる。葉状の苞葉は 3～7 個，長いものは 30cm 以上になる。花期は 6～10 月，分花序は茎頂につくほか長さ 1～10cm の枝を 2～8 本出し，時には更に少数の枝を分けて，その先にもつく。小穂は扁平な長楕円形，長さ 5～12mm，白緑色～淡黄緑色，多数が球状に密集してつく。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は熱帯アメリカ。現在では世界各地の熱帯～暖帯に帰化している。

【国内の分布】

本州～琉球，小笠原。

【県内の分布】

東：豊川市（小林元男 37581，1992-6），豊橋市北部（瀧崎 15627，1995-8T），豊橋市南部（瀧崎 13282，1992-6）。**西**：豊田市（旧藤岡町）（塚本威彦 421，1992-9），豊田市旧市域東部（山崎玲子 600, 1993-8），豊田市北西部（芹沢 61913, 1992-6），豊田市南西部（中村さとこ 1048, 1993-10），みよし市（臼井里華 513，1992-6），岡崎市旧市域北部（中西普佐子 148，1992-7），刈谷市（芹沢 65959，1993-6），安城市（堀田喜久 2157，1991-6）。**尾**：瀬戸市（日比野修 18，1991-10），尾張旭市（村松正雄 751，1989-10），日進市（伊藤恭子 404，1992-7），東郷町（鬼頭弘 146，1992-7），大府市（中村裕治 725, 1994-6），半田市（岡本久美子 472, 2000-6），常滑市（芹沢 68311, 1993-10），犬山市（松田ちか子 516, 1986-7），扶桑町（芹沢 67452, 1993-9），小牧市（村瀬正成 930491, 1993-8），春日井市（太田さち子 250, 1993-7），北名古屋市（鈴木幸子 99, 1992-6），名古屋市北部（芹沢 28210, 1978-7），名古屋市南東部（水野和宏 8-11，1991-8），名古屋市南西部（中村浩二 8-2，1989-8），一宮市東部（渡辺幸子 4790，2001-7），一宮市西部（渡辺幸子 787，1992-10），稲沢市（山内富士子 s.n.，1979-7），あま市（内藤久喜 8-10，1992-8），愛西市（芹沢 49723，1988-8），弥富市（西尾芳徳 s.n.，1994-7）。新城市旧市域（小林 2000），田原市（旧町域，旧赤羽根町）（小林 2002），西尾市（旧一色町）（小林・深谷 2008）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

恒常的な水辺だけでなく，空き地の一時的に水がたまるような場所にもよく生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地			○	
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

上田豊氏が 1959 年に三重県四日市港で採集したのが最初の記録（久内 1960，名古屋市中切町のオニクグ *C. javanicus* Houtt.と共に報告）だが，沖縄ではそれ以前に採集されていたらしい。現在では平野部に普通に見られる。

【被害状況／駆除策と留意点】

湿地性の植物であるが自然度の高い場所に侵入することは少なく，在来植物に対する影響は限定的と思われる。

【引用文献】

久内清孝. 1960. 名古屋市で採集されたカヤツリグサ科植物. 植物研究雑誌 35: 239.
小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.180. 愛知県.
小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.170. 東三林業振興会.
小林元男・深谷昭登司. 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.282. 佐久島会，刈谷.

【関連文献】

保帰化 p.370，平帰化 p.297-298，農教Ⅰp.474.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）

ショクヨウガヤツリ　*Cyperus esculentus* L.

【概要と選定理由】

多年生草本。長く匍匐する細い地下茎を伸ばし，その先に小塊茎をつけて栄養的に繁殖する。国の要注意外来生物とされている。

【形　態】

茎は単生し，3 稜があり，高さ 30～80cm になる。葉は茎の下部に集まってつき，長いものは茎と同長，幅 3～7mm，基部の葉鞘は多少赤色を帯びる。葉状の苞葉は 3～7 個，最下のものは花序より長く，25cm 以上になる。花期は 6～10 月，分花序は茎頂につくほか長さ 2～10cm の枝を 5～10 本出し，その先にもつき，大きい分花序はしばしば複生する。小穂は通常線形，長さ 1～3cm であるが長楕円形で長さ 5～8mm のこともあり，黄褐色～帯赤褐色，多数が短い穂状につく。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ～アフリカと言われ，現在では世界各地の熱帯～温帯に帰化している。

【国内の分布】

本州。

【県内の分布】

東：新城市（旧作手村）（小林元男 60320，1996-8），豊橋市南部（小林元男 65423，1998-11）。西：豊田市旧市域東部（畑佐武司 2440，2001-9T），豊田市北西部（土場トシ子 1050，1995-8），豊田市南西部（畑佐武司 2127，2001-7），西尾市（旧一色町）（芹沢 81070，2006-9）。**尾**：長久手市（半田多美子 1694，1994-8），美浜町（大西博 626，1992-6），名古屋市南西部（渡辺幸子 5891，2009-5）。豊根村富山地区，東栄町，豊田市（旧稲武町）（小林 2006），田原市（旧町域，旧赤羽根町）（小林 2002）からも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

畑地の雑草となるほか，空き地などにも生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩			○	
湿 地				
水 域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本には 1980 年頃栃木県に輸入乾草に混入して侵入したと言われる。愛知県では 1990 年代に入ってから所々で目につくようになった。しかし現在でも，西尾市の一部などを除けば，それほど多量には生育していない。

【被害状況／駆除策と留意点】

全国的には耕地雑草として問題になっている（村岡 2001，飯塚 2001）が，愛知県では現在のところ顕著な被害が生じるほどの量は生育していない。それほど密集した群落を作ることもないので，在来植物に対する影響も限定的と思われる。

【特記事項】

塊茎を食用にする栽培型があるため「ショクヨウガヤツリ」と呼ばれるが，日本に帰化しているものは食用にならない雑草型である。茎がやや太く短いもの，細く長いものなどがあり，小穂の形状にもさまざまな型があるが，とりあえず一括してショクヨウガヤツリとしておく。

【引用文献】

飯塚弘明. 2001. 耕せば耕すほどに拡がるショクヨウガヤツリ. 清水矩宏ほか(編) 日本帰化植物写真図鑑 pp.477-478. 全国農村教育協会, 東京.
小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.170. 東三林業振興会.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.238. 愛知県林業試験研究推進協議会.
村岡哲郎. 2001. ショクヨウガヤツリの塊茎形成と防除. 清水矩宏ほか(編) 日本帰化植物写真図鑑 pp.476-477. 全国農村教育協会, 東京.

【関連文献】

農教Ⅰp.475.

（芹沢俊介・瀧崎吉伸）